



(題字 小黒千足 学長)

第342号

(平成5年4月・5月合併号)



△ 平成5年度富山大学入学式 円内は184名の新入生代表  
して宣誓する理学部飯村かをりさん(平成5年4月9日(金))  
於：富山市公会堂

## 目 次

## 学 内 諸 報

◆ 平成 4 年度富山大学学位記授与式を挙行	3
◆ 平成 5 年度入学者選抜試験の 後期日程を実施	5
◆ 平成 5 年度富山大学入学式を挙行	6
◆ 名誉教授の称号記授与	8
◆ 新学部長等の選出・再選	9
◆ 就職に関する講演会	13
◆ 「留学生指導相談室」オープン	13
人 事 異 動	14
学 事	25
◆ 平成 5 年 3 月学部卒業者数	25
◆ 平成 4 年度富山大学大学院研究科 修了者一覧	26
関 係 法 令	30
諸 会 議	32

## お 知 ら せ

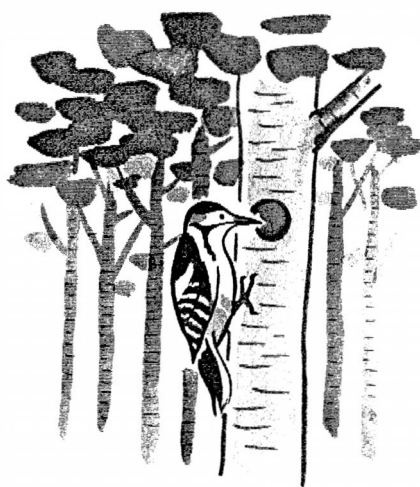
◆ 平成 5 年度における「さわやか 行政サービス運動」の推進について	35
◆ 他大学の自己点検評価報告の配布状況	35

## 寄稿 海外レポート

① コネチカット大学に滞在して — 工学部助教授 石原外美 —	36
② 「森と湖の国に滞在して」 — 教育学部助教授 堀田朋基 —	38

## 学内トピックス

① 『地元中学生が富山大学を見学』	40
② 『に じ』(絵本) — 理学部教授 櫻井醇児 —	41
叙 勲	42
学 内 規 則	44
海 外 渡 航 者	117
職 員 消 息	118
主 要 行 事	121



(表紙写真)

五福キャンパスからの北アルプス立山連峰の眺望



3 月25日富山市公会堂において

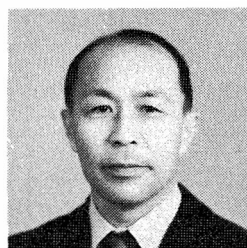
## 平成 4 年度富山大学学位記授与式を盛大に挙行

＝ 合計1,403名が社会に巣立つ ＝

平成 4 年度富山大学学位記授与式が平成 5 年 3 月25日（木）午前10時30分から富山市公会堂で挙行されました。式に先立ち本学フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏があったのち、授与式では、先ず小黒学長から学部卒業生1,285名、大学院研究科修了生116名専攻科生 2 名、合計1,403名に学位記が授与され、引き続き学長から告辞があったのち学位記授与式を終了いたしました。



### 学位記授与式学長告辞（全文）



学長 小 黒 千 足

ここにおられる1,403名の諸君は、本学所定の課程を終え、本日でたく学士、または修士の学位を授与され、あるいは専攻科を修了されました。教職員一同、心から御祝い申し上げます。また、この日を心待ちにしておられた、父兄の皆様のお喜びもさぞかし大きいことと存じます。

諸君が大学を去るに当って、まず、本学に入学した時、大学で何を求め、何を希望したかを、改めて自ら問い返して戴きたいと思います。この問いに答え、本当に目的が達成されたかどうか、もう一度、自身で、明らかにして下さることを望みます。

もしもこの問いに答えられないとしたならば、無目的に大学に入り、何を得たかも知らずに卒業してゆくこと

になりましょう。

視点は変わりますが、最も古い歴史をもつイタリアのボローニア大学は、創立以来900年を経ております。また、近代的大学が確立されてから、いま200年が過ぎようとしており、わが国の大学の歴史も100年を越えました。数十年前まで、これらの古い大学は文字通り、Universityでありました。

即ち、あらゆる科学を統一し、把握する原理を探究することが、大学の基本理念でありました。しかしながら、社会の複雑化とともに、大学に対するニーズの多様化と、進学率の上昇による、大学の大衆化が始まり、現在の大学は、MultiversityあるいはMassversityに変貌したと言われます。本邦においても、この傾向は最近特に強まり、諸君はこのMultiversityとUniversityの谷間で学び、卒業してゆくことになります。

このような状況にあって、諸君の対応は大変困難なものであったと思います。過去の大学の孤高に因われずまたMultiversityの中に溺れないで、自らを形成し、保ってきたものと信じます。大学で得られるべきものは、単なる知識や技術ではありません。知識であれば書物を読めば得られます。技術は、徒弟になれば受けられます。

まして、大学を就職切符を得る場としか思っていないようでは、将来必ず破綻をきたすでしょう。

大学でしか求められなかった何物かを、改めて自らの中にみいだされることを希望致します。

ここで、世界の情勢と諸君の将来について多少触れることに致します。ベルリンの壁が消え、大ソビエト連邦が消失したのは、僅か数年前ですが、もはや遠い昔のように思えます。当時、世界の緊張は、東西対立の構図の上にあります。したがって、冷戦が解消された時、紛争は終焉したかのように思われました。しかしながら、最近の世界の情勢はますます混迷の度を深め、多極化、複雑化しつつあります。地域的紛争は絶えるどころか、日々に陰しくなっております。この原因はどこにあるのでしょうか。現象のみを考えるならば、ソマリアに象徴される民族対立、インドや旧ユーゴスラビアにおける宗教問題、カンボジアに代表される思想の違いなど、原因はさまざまあるように思えます。しかし、これらを大局の見地から眺めた場合、すべては自我の位置付けと主張、即ちそれぞれのアイデンティティの確立を目指し、それらが衝突することに根源があります。

この複雑化し、混迷する世界、或は社会で己を失わな

いたためには、自らのアイデンティティの確立が必要なことは、疑いもなく、対立は、まさにアイデンティティ確立の過程そのものであります。

さて、諸君が大学を出た後の道はさまざまであると同時に、諸君が身をおく社会や企業もまた多様であることは言うまでもありません。問題は、それぞれの社会や企業にもアイデンティティがあり、それらは、諸君のそれとは決して一致しないことであります。

これから旅立つ諸君は、このように、アイデンティティの狭間で生きてゆかなければならないのです。それにいかに対処すべきかには、統一的回答はありませんし、私がここで答えられるものでもありません。

答えは各自がつくり出すものであります。繰り返しになりますが、大学でしか得られなかったものは何であったか、諸君が大学で何を得たかを、改めて問い返すことによって、回答の手がかりをみいだすことが出来るでしょう。

大学で、富山大学で学んだ英知をもって当れば、道は開けるものと信じております。

諸君の発展を、心から祈念して告辞を終わります。





— 3 月 15 日 ( 月 ) —

## 平成 5 年度入学者選抜試験の後期日程を実施

去る 2 月 25 日 ( 木 ) に実施された前期日程・A 日程の学力検査のあとを受け後期日程入学者選抜試験が、平成 5 年 3 月 15 日 ( 月 ) に実施されました。

経済学部「昼間主コース」では外国語の試験を、教育学部小学校養護学校及び幼稚園の各教員養成課程では実

技検査を、教育学部情報教育課程及び理学部化学科においては小論文の検査による試験が実施され、別表のとおり合格者が決定されました。

### 平成 5 年度 富山大学入学者選抜試験 ( 後期日程 ) 合格者数

(平成 5 . 3 . 19)

学 部	区分	学科・課程		募集人員	志願者数	受験者数	欠席者数	合格者数
人文学部	後期	人 文 学 科		人 20	人 222	人 222	人 0	人 97
		語 学 文 学 科		30	275	275	0	108
		計		50	497	497	0	205
教育学部	後期	小 学 校 教 員 養 成 課 程		30	293	132	161	57
		養 護 学 校 教 員 養 成 課 程		6	89	46	43	13
		幼 稚 園 教 員 養 成 課 程		9	183	104	79	13
		情 報 教 育 課 程		10	81	46	35	19
		計		55	646	328	318	102
経済学部	後期	昼間 主 コース	経 済 学 科	33	389	177	212	41
			経 営 学 科	26	291	112	179	32
			経 営 法 学 科	21	254	114	140	26
			計	80	934	403	531	99
		夜間 主 コース	経 済 学 科	4	40	40	0	18
			経 営 学 科	5	71	71	0	21
			経 営 法 学 科	5	82	82	0	21
			計	14	193	193	0	60
		合 計		94	1,127	596	531	159
理 学 部	後期	数 学 学 科		7	37	37	0	12
		物 理 学 科		10	64	64	0	13
		化 学 学 科		11	82	43	39	15
		生 物 学 科		11	93	93	0	19
		地 球 科 学 科		5	91	91	0	8
		計		44	367	328	39	67
工 学 部	後期	電 子 情 報 工 学 科		27	144	144	0	54
		機 械 シ ス テ ム 工 学 科		21	157	157	0	35
		物 質 工 学 科		17	221	221	0	32
		化 学 生 物 工 学 科		18	186	186	0	36
		計		83	708	708	0	157
合 計		326	3,345	2,457	888	690		

(注) 募集人員は、推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜の募集人員を除く。

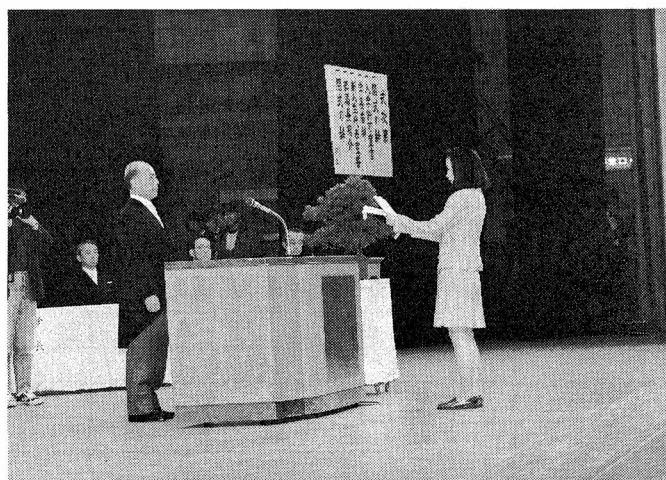
学生生活へ夢いっぱい1,841名の入学

## 平成 5 年度富山大学入学式を挙

—— 平成 5 年 4 月 9 日 (金) 富山市公会堂 ——

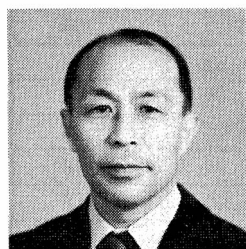
平成 5 年度富山大学入学式が、平成 5 年 4 月 9 日 (金) 午前10時30分から富山市公会堂において挙行されました。まず小黒学長から学部入学生1,632名、専攻科入学生 4 名、大学院入学生205名、合計1,841名 (うち外国人留学生36名を含む。) の新入生に入学許可宣言があり、続いて学長から告辞がありました。

これに対して、新入生1,841名を代表して理学部数学科飯村かをりさんが「私たち新入生一同は在学中学則を守り、自己の研鑽に努め、心と体を鍛え、広い視野としっかりした専門基礎学力を身につけるよう努力いたします。」と力強く宣誓しました。



△ 新入生代表して力強く宣誓する理学部飯村かをりさん

### 入学式学長告辞 (全文)



学長 小 黒 千 足

本日富山大学の各学部、専攻科および大学院研究科に入学を許可された諸君に、全学の教職員を代表して、お慶びを申し上げます。

特に、新たに大学に足を踏み入れた、学部入学生は感慨も一入と思います。大学を目指して努力した成果が今実ったのです。諸君の夢の第一歩が実現したと言ってもよろしいでしょう。

しかし、当然のことながら、大学に入学するのが、人生の最終目的であるはずはありません。ここで改めて、諸君が何を求めて大学に入学したかを思い返し、さらに、

大学を卒業する時はどのようにありたいのかを、心の中に描かれることを強く希望します。

そのイメージを現実のものにするために、これからの大学生活で最も良い方法を選択する必要があります。これからの4年間をいかに過ごすかによって、諸君の将来が決まると言っても過言ではありません。人生の繰り返しは出来ないことを肝に銘じて、後悔することが無いような日々を送られることを願います。

次に、大学とは何であるかについて少し触れます。一言にして言うならば、大学とは知的創造の場であります。その創造の結果を、学生に伝え、社会に還元致します。知の創造に制約があってはけませんし、模倣は許されません。

そのような観点から、諸君がこれから大学で受ける教育は、高等学校以下で受けてきた教育とは本質的に異なります。即ち、検定を受けて全国的に画一化されたような教科書は一切用いませんし、教師のための手引書などはありません。



大学の教師は、自らの研究の成果、独自の情報、あるいは考えに従って授業を致します。例え教科書を用いても、その教師が最も良いと信ずるテキストブックを選びます。極端に言うならば、同じ講義は、富山大学の中ばかりではなく、全国のどの大学にもありません。この点が、大学の根源にかかわる最も重要な意味をもつことに、思いを致されることを希望致します。

最後に、富山大学の教育改革について、述べることに致します。本学では、平成5年度、即ちこの4月より、全国の国立大学に先駆けて、教育改革を実施致します。

今までの、教養課程と専門課程の壁を取り去り、4年一貫教育体制をとります。これによって、諸君は低学年

から専門科目を受講することができ、また高学年まで広い知識と教養を身に付ける、教養科目をきくことが出来るようになりました。さらに、教養科目の内容も整備、充実されております。

特に、富山大学が誇るべきことは、本学の総ての教官が教養教育に携わることであります。このように完璧な体制は、全国のどの大学にもありません。

諸君は、この教育改革の利点を十分に受け取り、改革の第1期生としての実を上げられることを祈っております。

ここに、再度入学をお慶びするとともに、充実した大学生活をおくられることを願って告辞を終わります。



△ 新入生を歓迎してオーケストラ演奏



## — 新たに 3 氏が本学名誉教授 —

## 名誉教授の称号記授与される

本学 3 月末をもって退職されました次の 3 氏に、平成 5 年 4 月 16 日付で本学名誉教授の称号が授与され、去る 5 月 6 日(木)小黒学長から称号記が伝達されました。

以下に新名誉教授を紹介します。



名誉教授

吉 田 清

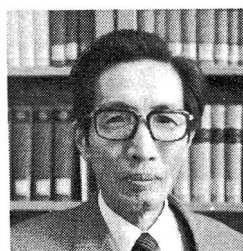
東京大学大学院人文科学研究科  
修士課程修了  
文学修士

同氏は、昭和46年富山大学文理学部教授に就任され、同52年5月富山大学文理学部改組により富山大学人文学部教授となり、平成5年3月31日限り停年により退職されました。この間本学教授として22年の永きにわたり、文理学部文学科及び人文学部語学文学科においてドイツ語学を担当し、その間、文部省在外研究員としてオーストリア及びドイツ連邦共和国へ出張し、帰国後はその経験を生かして、学生の指導に当たり、用意周到な授業と謹厳実直な人柄でもって幾多の有能なドイツ語・ドイツ文学の研究者・教育者の育成に貢献されました。

一方、学内においては、富山大学評議員を務め、大学

の整備充実に尽力するとともに人文学部の発展に寄与されました。

他方、同人の研究面においては、主に次の三分野を研究し、その一つがドイツ表現主義研究で、第一次世界大戦の前後約15年間にわたって、主に青年達によって担われた改革的・戦闘的なこの文学運動は、同時代の絵画とも深く関わり合い、文学でも多分野に及ぶが、その中心ジャンルは抒情詩であり、その代表的詩人のトラークルとシュタードラーについて精緻に究明している。二つめが色彩論であり、ドイツ文学のみならず日本文学にも色彩の隠喩的象徴的用例を渉猟し、興味深い比較論を展開している。最後が広範囲にわたるドイツ語学研究であり、現在分詞、二格、分詞構文などについての明快な論文を発表している。その他、日独文学作品における「おかしさ」、「滑稽」、「フモール」についての考察、シラーのカリアス美論、グリルパルツァーと音楽など業績をあげた分野は多岐にわたり、高く評価されています。



名誉教授

大 谷 重 彦

京都大学文学部文学科卒業  
文学士

同氏、昭和29年3月京都大学文学部を卒業後、同33年4月富山大学講師文理学部に採用され、同39年3月富山大学助教授文理学部、同42年4月教養部の設置に伴い教養部助教授に配置換えとなり、同46年4月富山大学教養部教授に昇任され、平成5年3月31日限り停年により退職されました。

同氏は、35年の永きにわたりドイツ語の担当教官として教育・研究に専心され、常に厳正な教育姿勢のなかにも終始懇篤な温情をもって学生の教育・指導に当たり、幾多の有為な人材の育成に尽力されました。

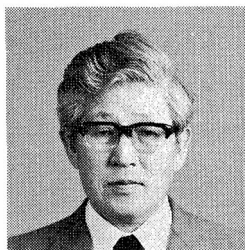
この間、昭和60年4月から同63年3月まで評議員として、同63年4月から平成5年3月までの3期5年間富山

大学教養部長として大学の管理・運営に参画し、大学・教養部の発展・充実に多大な貢献をされました。

一方、学術研究面では、トーマス・マンの作品を、初期から順を追ってトーマス・マン及び自己の生き方と関連させつつ多角的に解明しようという雄大な構想の下に、順次その研究成果を発表されました。特に、戯曲「フィオレンツァ」、短編「悩みのひととき」をめぐる論考は、その清新な視点、真摯な論術態度により、学会でも高い評価を得られました。

また、同氏は、昭和53・54年度日本独文学会理事（北陸支部選出）、同61・62年度日本独文学会北陸支部長として、日本独文学会の発展・充実に寄与され、更に、昭和38年社団法人日本ゲーテ協会富山支部の設置にあたってこれに深く参画し、同63年には同支部の三代目支部長として就任し、年1回市民を対象に支部主催の講演会等を催して、地域社会における教育文化の向上発展に大きく貢献されました。





名誉教授

藤 井 昭 二

東京大学理学部地質学科卒業  
理学博士

同氏は、昭和29年3月東京大学理学部を卒業後、同年4月富山大学文理学部実験実習指導員に採用され、同38年7月富山大学助手文理学部、同42年4月教養部の設置に伴い教養部助手に配置換えとなり、同年9月富山大学助教授教養部、同46年4月富山大学教授教養部に昇任され、平成5年3月31日限り停年により退職されました。

この間同氏は、25年有余の永きにわたり地学の担当教官として教育・研究に従事され、常に厳正な姿勢をもって学生の教育・指導に専念するとともに有為な人材の育成に尽力されました。

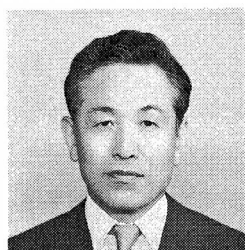
同氏の学術研究面は、層位学古生物学を主体とした新生代地質学を専門とし、富山県を中心とした北陸一帯に分布する新第三紀層、第四紀層の層序と地質構造に関する地質調査並びに海底地形・海岸平野・扇状地・段丘・山岳等の地形調査を精力的に行われました。

古生物学の分野では、北陸の新第三紀海貝化石（特に大桑化石並びに音川化石動物群）を分類・記載し、日本各地の同時代化石動物群との比較を行い、棲息環境の類似性や相違点及び地域性等を解明されました。

また、日本海の成因、富山堆積盆地形成史、活断層分布、飛騨山脈の地形発達など本邦第一級の地学的諸問題の解明に取組み、日本海沿岸地域における過去2千万年間の古地理古環境の変遷を明らかにされました。なかでも、富山湾没岸地域に分布する貝化石等の放射性同位体年代測定に基づいて第四紀後期の海水準の昇降曲線を提案したこと、富山湾の陸棚及び海底埋没林の成因について、これが地殻の沈降によるものではなく、後氷期の海水準上昇によるものであることを解明し、従来の説を覆したことなどは国際的にも注目されています。

一方、応用地学の分野でも地域固有のテーマである土木地質・水理地質・災害地質の研究にも積極的に取組み、豪雪や海岸侵食の実態調査、地盤不等沈下、地すべりなどの原因を解明し、実証的データを公表することにより治水利雪事業や地形災害対策の面で地域社会に大きく貢献されました。

## 教育学部長に加瀬教授を選出



山地啓司教育学部長の任期が平成5年3月30日に満了することに伴い、教育学部教授会は2月10日(木)に次期教育学部長の選挙を行いました。その結果、加瀬正二郎教授が選出されました。任期は平成5年3月31日から2年間。

加瀬教授は、昭和32年3月千葉大学教育学部を卒業後、千葉県公立学校で教鞭をとられる一方、同36年4月東京大学大学院教育学研究科に入学、同課程を同39年3月修了され、同年4月からは大阪府公立学校等を歴任された後、同42年4月富山大学教育学部講師に採用、同45年11月同助教授、同57年4月同教授に昇任、同62年6月から平成4年3月まで評議員を併任、平成4年4月から教育学部附属中学校長を併任され現在に至っています。担当

学科目は、英語科教育。教育学修士。千葉県出身。

(就任の抱負)

山地前学部長の精力的な努力と指導の下で進められてきた、大学院教育学研究科修士課程の設置計画が、概算要求として提出する段階に至っているので、その実現にむけて努力するのが第一の課題であります。

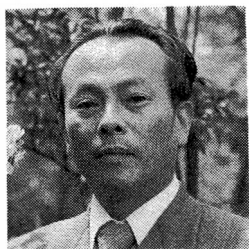
また、他大学にさきがけてスタートした4年一貫教育の学部としての体制づくりもゆるがせにできないでしょう。

その上それらの基盤として学部の専門教育も一層の充実が求められており、教師教育の充実とともに、教職以外の分野に進出活躍できる人材の育成も重要性を増してきています。

これは私の抱負というより学部としてとりくまねばならぬ課題ではありますが、微力ながら、その実現のための推進力となっていかなければならないと考えております。

関係各位の御理解と御協力をお願い申し上げます。

## 教育学部附属教育実践研究指導センター長 及び附属中学校長に長井教授が選出



佐々木光三教育学部附属教育実践研究指導センター長の任期が平成 5 年 3 月 31 日に満了することに伴い、教育学部教授会は、去る 2 月 10 日(木)に次期センター長の選挙を行いました。

その結果、長井眞隆教授が選出されました。任期は平成 5 年 4 月 1 日から 2 年間。

また、同日行われた学部長選挙で加瀬正二郎教育学部附属中学校長が学部長に選出されたことに伴い、教育学部教授会は、3 月 5 日(金)に次期教育学部附属中学校長の選挙を行ったところ、これも長井眞隆教授が選出されました。任期は平成 5 年 3 月 31 日から平成 6 年 3 月 31 日まで。

長井教授は、昭和 26 年 3 月富山大学第二初等教育科を卒業後、富山県公立学校教員、富山県教育委員会指導主事など歴任の後、富山市科学文化センターの設置に尽力

され、同センターの初代館長となられ、平成元年 4 月 1 日富山大学教育学部教授に採用となり現在に至っています。担当学科目は理科教育。富山県出身。

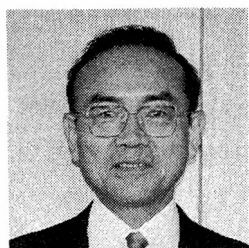
(就任の抱負)

このたび、附属中学校長加瀬教授の教育学部長就任に伴い、また、附属教育実践研究指導センター長佐々木光三教授の停年退官に伴い、いずれも後任人事として選出され、就任することになりました。この責任の重さを痛く感じています。

附属中学校の校歌に「ここにこそ移りつつ変わらざるまことあれ」と歌われています。この願いのもと松井副校長をはじめ優れた教官や職員が、教育、研究、実践へと再現のない情熱を傾注されています。また、附属教育実践研究指導センターでは、専任教官が 1 人欠けており、現在公募中ですが、こうした中で吉田助教授が大奮闘されています。

附属中学校長と附属教育実践研究指導センター長の重要な席を 2 つも掛け持つことは、浅学非才な私にとりましては、大変な重荷です。どうか皆様のあたたかいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 理学部長に松本教授が再選



松本賢一理学部長の任期が、平成 5 年 3 月 31 日で満了することに伴い、理学部教授会は平成 5 年 2 月 10 日(木)に次期理学部長候補者の選挙を行いました。

その結果、松本賢一現学部長が再選されました。任期は、平成 5 年 4 月 1 日から 2 年間。

松本教授は、昭和 28 年 3 月名古屋大学を卒業、同 30 年 3 月名古屋大学大学院理学研究科修士課程を修了、同 33 年 3 月名古屋大学大学院理学研究科博士課程を修了の後、

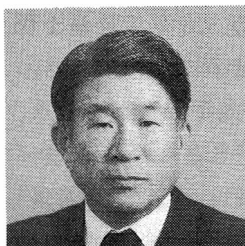
同年 4 月名古屋大学理学部助手に採用となり、同 34 年 4 月京都大学基礎物理学研究所助手、同 39 年 7 月金沢大学理学部助教授を経て、同 46 年 4 月富山大学文理学部教授に昇任し、同 52 年 5 月文理学部改組により理学部教授となり、この間、富山大学評議員、更に平成 3 年 4 月から理学部長を併任され、今日に至っています。専攻は、素粒子論、理学博士、愛知県出身。

(就任の抱負)

1. 平成 5 年度、富山大学の教育改革の一環として認められた、理学部の学科改組の完成、とりわけ、新教育課程の実施と施設整備に努力したい。
2. “理学を基盤として学際領域・応用分野への適応力を備えた人材養成を目指す”新しい理学研究科博士課程の実現に努力したい。



## 工学部長に時澤教授を選出



多々静夫工学部長の任期が、平成5年4月1日に満了することに伴い、工学部教授会は、1月27日(木)に次期学部長候補者の選挙を行いました。その結果、時澤貢教授が選出されました。任期は、平成5年4月2日から2年間。

時澤教授は、昭和33年3月大阪大学大学院工学研究科修士課程を修了、同年4月不二越鋼材株式会社入社、同40年2月同社退社、同年3月富山大学工学部助手、同41

年4月同講師、同44年4月同助教授、同52年10月同教授となり、現在にいたっています。なお、この間、平成元年6月から富山大学評議員を併任されています。

専門は、塑性加工学、工学博士（大阪大学）。

（就任の抱負）

社会人再教育を視野に入れた大学院工学研究科博士課程設置を是非実現させたいと考えています。懸案事項であり、多々前学部長を始め多くの先生方がご努力されており、研究開発能力のある高度技術者を養成し、地域企業の研究環境作りと産業の振興にいささかなりとも寄与したいと思っています。

また、大学教育改革に伴う工学部における教育が、スムーズに実施されるよう関係者の協力を得ながら前向きに取り組みたいと思っています。

## 人文学部長に小谷教授を選出



平田 純人文学部長の任期が、平成5年5月1日に満了することに伴い、人文学部教授会は平成5年3月10日(木)に次期学部長候補者の選挙を行いました。

その結果、小谷仲男教授が選出されました。任期は、平成5年5月2日から2年間。

小谷教授は、昭和35年3月京都大学文学部を卒業、同37年3月京都大学大学院文学研究科修士課程を修了、同40年3月京都大学大学院文学研究科博士課程を単位取得

退学の後、同44年4月大手前女子大学文学部助教授、同49年4月鳥取大学教育学部助教授を経て、同56年4月富山大学人文学部教授に就任し、現在に至っています。

なお、この間、昭和62年5月から4年間富山大学評議員を併任されています。

専門は、東洋史、文学修士、福井県出身。

（就任の抱負）

教養部の廃止に伴い、この4月から人文学部教授会のメンバーはほぼ倍増した。軌道にのるまで、しばらく時間がかかるかもしれないが、同じ専門領域でもあり、これまで別々の学部組織で働いていた者が、文字どおり一致協力しあう体制となったので、教育、研究の両面で、より大きな力が発揮できるのではないかと期待しています。

## 学生部長に浜谷教授を選出



増田信彦学生部長の任期が平成5年5月8日に満了することに伴う次期学生部長候補の選考は、去る3月12日(金)開催の平成4年度第18回評議会において、教務委員会及び補導協議会の合同委員会から次期学生部長候補適任者として推薦された3名の本学教授のうちから選考され、人文学部浜谷正人教授が選出されました。任期は、平成5年5月9日から2年間。

浜谷教授は、昭和41年3月京都大学文学部人文地理学

科を卒業、同43年3月京都大学大学院文学研究科修士課程(地理学専攻)を終了後、4月に金沢大学に助手として採用となり、昭和50年7月に山形大学教養部助教授、同58年8月富山大学人文学部教授に昇任され、現在に至っています。

なお、この間平成3年5月から評議員を併任されています。

浜谷教授は山口県出身。

(就任の抱負)

教育改革に伴う4年一貫教育スタート後の波乱の時期に大任を授かり不安も多いが学生とおおいに話し合い、事務サイド等の協力と共に魅力ある大学づくりに尽力したい。

## 地域共同研究センター長に龍山教授を再選



平成5年4月8日開催の共同研究センター運営委員会において、龍山智榮地域共同研究センター長の任期満了(平成5年5月20日)に伴う次期センター長の選出が行われました。その結果、龍山智榮現センター長が再選されました。

龍山教授は、昭和41年3月静岡大学工学部を卒業後、同43年3月静岡大学大学院工学研究科修士課程を修了、同47年3月大阪大学大学院工学研究科博士課程を修了、

同46年4月富山大学工学部講師、同47年6月同助教授、同57年4月同教授となり、平成3年5月共同研究センター長に就任され、現在に至っています。

専門は、半導体薄膜工学、工学博士

(就任の抱負)

各学部の御協力を得て、地域社会との連携協力事業を推進して参りましたが、引き続き御協力を得て事業の充実に努力したいと思っています。

日進月歩の技術革新には目覚ましいものがあり、また、昨今の経済状況から、ますます大学に対する期待が大きくなってきています。産学官の研究交流の促進を図り、地域社会に貢献するとともに、大学の活性化に寄与したいと思っています。



## 来年度就職する学生に

### ○ ○ 就職に関する講演会 ○ ○

去る 4 月 28 日(木)午後 2 時から経済学部 201 教室において、経済学部 4 年生を対象に就職に関する講演会が開催され、先の説明会と合せて延210人の学生が聴講しました。

当日は、始めに吉原節夫学部長から挨拶があり、次いで、北陸経済研究所専務理事小川 弘氏(経済学部 3 回卒)から「最近の経済・雇用状況について」また、学部職業補導委員会副委員長居林次雄教授から「就職対策に

ついて」それぞれ講演があり、経済学部学生係長から就職手続きの詳細について説明がありました。

最近の景気の低迷から大きく就職環境が好転するとは考えられないなどと伝えられているところから、本年度の就職戦線を厳しく受けとめて多数の学生がメモをとったり、それぞれの講演に対して熱心な質疑応答を行うなど盛況のうち終了しました。



### 「留学生指導相談室」オープン



留学生の増加に伴い、全学的な留学生の指導援助体制

の設置が求められていましたが、本年 1 月 22 日に留学生指導相談室が設置され、4 月 28 日に開室式が行われました。

同相談室は、留学生談話室、指導教官室及び留学生相談室がおかれ、日本語補講・修学・生活・異文化適応上の指導及びこれに必要な調査、研究を行います。留学生に対する教育指導の充実・発展に寄与することを目的としています。

開室式では、学長をはじめ、留学生指導相談室運営委員会委員及び部局長等約 60 人が出席、学長から留学生指導相談室設置の経緯と今後の抱負があった後、小黒学長、増田留学生指導相談室長及び今田事務局長とともに、人文、社会共通教育棟玄関に「留学生指導相談室」の看板を掲げ、出席者全員で相談室の開室を祝いました。

# 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
昇 任	5. 3. 16	松田 幹夫	経理部主計課総務係長	経理部主計課課長補佐
辞 職	5. 3. 10	島田 和代	事務補佐員（附属図書館）	辞職を承認する
	5. 3. 15	白川 律子	事務補佐員（工学部）	辞職を承認する
	5. 3. 24	川口奈穂子	事務補佐員（経理部経理課）	辞職を承認する
	5. 3. 26	藤谷しのぶ	事務補佐員（地域共同研究センター）	辞職を承認する
退 職	5. 3. 31	森 慶二	工学部事務長	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
	〃	多村 節子	経済学部学生係厚生主任	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
	〃	森田美喜子	工学部学務係厚生主任	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
	〃	高尾 貢	教養部学生係厚生主任	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
	〃	田村 与市	文部技官（人文学部・理学部）	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
	〃	植吉 和政	文部技官（経理部経理課車庫長）	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
	〃	浜井 幸作	用務員（教養部作業員長）	国家公務員法第81条の2第1項の規定により平成5年3月31日限り定年退職
採 用	5. 4. 1	坂本 江見		文部技官（経理部主計課）
	〃	藤野 敏子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	鍛冶田信子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	増田 信子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	太田 昭子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	山ノ下久美子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	中三川眞知子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	佐藤 優子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	竹山 美幸		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	佐藤末知子		事務補佐員（庶務部企画室）
	〃	藤田 淳子		事務補佐員（経理部経理課）
	〃	片貝 俊雄		臨時用務員（学生課作業員）
	〃	八島 信吉		臨時用務員（厚生課作業員）
	〃	山口 明子		事務補佐員（人文学部・理学部）
	〃	福田千恵子		臨時用務員（教育学部作業員）
	〃	浜井 幸作		臨時用務員（教育学部作業員）

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	5. 4. 1	堀 裕子		事務補佐員（工学部）
	〃	押田 麻里		事務補佐員（附属図書館）
	〃	山口 一美		事務補佐員（地域共同研究センター）
昇 任	5. 4. 1	横山 立身	東京国立博物館会計課長	経理部長
	〃	橋口 博芳	京都大学学生課長	学生部次長
	〃	伊藤 房	主計課長	沼津工業高等専門学校事務部長
	〃	松田 幹夫	経理部主計課課長補佐	国立三瓶青年の家庶務課長
	〃	中川 巖	庶務部庶務課課長補佐	庶務部企画室長
	〃	石坂 淳子	庶務部人事課任用係総務主任	高岡短期大学庶務課人事係長
	〃	新出 信幸	経理部主計課管財係管財主任	高岡短期大学会計課用度係長
	〃	北野 悦郎	経済学部学生係学生主任	富山工業高等専門学校学生課寮務係長
	〃	高尾 邦彦	工学部庶務係庶務主任	富山医科薬科大学教務部学生課厚生係長
	〃	小林 司	文部事務官（教養部）	庶務部企画室教養教育実施係教務主任
	〃	川邊 誠	文部事務官（経理部経理課）	経理部経理課出納係出納主任
	〃	高島 幸子	文部事務官（経済学部）	人文学部・理学部庶務係庶務主任
	〃	関川 国彦	文部事務官（庶務部人事課）	人文学部・理学部庶務係人事主任
	〃	真田 敏江	文部事務官（教育学部）	教育学部会計係用度主任
	〃	松島 俱子	文部事務官（工学部）	工学部学科事務主任
	〃	田中 正博	文部事務官（経理部経理課）	国立立山少年自然の家 庶務課会計係会計主任
転 任	5. 4. 1	武田知己郎	高岡短期大学会計課出納係長	教育学部附属学校第一係長
	〃	酒井 利満	高岡短期大学庶務課人事係長	経済学部庶務係長
	〃	宮村 健壮	富山医科薬科大学 教務部学生課教務第一係長	経済学部教務係長
	〃	大田 國彦	金沢大学工学部用度係契約主任	経済学部会計係会計主任
	〃	長崎 悟	富山商船高等専門学校 学生課学生係学生主任	工学部学務係教務主任
	〃	木下 晋	文部事務官 （国立立山少年自然の家事業課業務係）	文部事務官（学生課）
	〃	大門 聡	文部事務官（高岡短期大学学生課）	文部事務官（学生課）
	〃	亀谷 珠美	文部事務官 （岐阜工業高等専門学校会計課）	文部事務官（教育学部）
	〃	倉田 実	文部事務官 （富山工業高等専門学校会計課）	文部事務官（教育学部）
	〃	北角 政信	文部事務官（高岡短期大学会計課）	文部事務官（工学部）
	〃	絹石 達也	文部事務官（教育学部）	文部事務官（高岡短期大学会計課）
	〃	光澤 和嗣	文部事務官（学生課）	文部事務官（高岡短期大学学生課）



異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
転 任	5. 4. 1	恩田 義孝	文部事務官（教育学部）	文部事務官（上越教育大学）
配 置 換	5. 4. 1	園 利男	福井大学庶務課長	人事課長
	〃	番匠 修	核融合科学研究所会計課長	主計課長
	〃	亀岡 崇泰	舞鶴工業高等専門学校学生課長	入試課長
	〃	大坪 義孝	経理部長	長崎大学医学部附属病院事務部長
	〃	廣瀬 義弘	学生部次長	広島大学学生部次長
	〃	村山 年男	人事課長	鳥取大学庶務部庶務課長
	〃	武田 一夫	入試課長	群馬大学入学主幹
	〃	泉 三郎	教育学部事務長	人文学部・理学部事務長
	〃	山岸 長幸	経済学部事務長	教育学部事務長
	〃	長澤 義男	教養部事務長	経済学部事務長
	〃	本澤 健二	人文学部・理学部事務長	工学部事務長
	〃	嶋田 政信	経済学部事務長補佐	庶務部庶務課課長補佐
	〃	村中 一男	人文学部・理学部事務長補佐	庶務部企画室室長補佐
	〃	新田 昌六	教育学部事務長補佐	人文学部・理学部事務長補佐
	〃	清水 寛	富山医科薬科大学総務部庶務課課長補佐	教育学部事務長補佐
	〃	松下 甚清	教養部事務長補佐	経済学部事務長補佐
	〃	土肥 隆三	経済学部教務係長	庶務部庶務課専門職員（研究協力担当）
	〃	能登 功	庶務部庶務課専門職員	厚生課専門職員（進路指導担当）
	〃	高森 諤	厚生課専門職員	人文学部・理学部専門職員（教務担当）
	〃	奥村 行夫	人文学部・理学部学務係長	工学部専門職員（外国人留学生担当）
	〃	渡邊 國男	附属図書館総務係長	庶務部庶務課文書係長
	〃	堀口 勲	庶務部人事課給与係長	庶務部人事課任用係長
	〃	伊野不二夫	人文学部・理学部庶務係長	庶務部人事課給与係長
	〃	谷口 和則	教養部庶務係長	庶務部企画室企画調査係長
	〃	地崎 昇	教養部会計係長	庶務部企画室教養教育経理係長
	〃	廣田 浩	教育学部庶務係長	庶務部企画室教養教育企画係長
	〃	黒田 芳雄	教養部教務係長	庶務部企画室教養教育実施係長
	〃	松永 良成	経理部経理課出納係長	経理部主計課総務係長
	〃	湊 肇	工学部経理係長	経理部経理課出納係長
	〃	五百崎 喜明	経済学部庶務係長	人文学部・理学部庶務係長

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	5. 4. 1	山田 知訓	教養部学生係長	人文学部・理学部学務係長
	〃	斉藤 純一	庶務部人事課任用係長	教育学部庶務係長
	〃	牧野 秀應	教育学部附属学校第一係長	工学部経理係長
	〃	松井 博文	庶務部庶務課文書係長	附属図書館総務係長
	〃	宮尾 幸一	庶務部人事課職員係職員主任	庶務部人事課任用係任用主任
	〃	柴田 淳	学生課総務係総務主任	庶務部人事課職員係職員主任
	〃	田中 輝和	教育学部附属学校第二係庶務主任	庶務部企画室企画調査係庶務主任
	〃	寺脇 誠一	教養部会計系会計主任	庶務部企画室教養教育経理係経理主任
	〃	相澤 伸彰	教養部教務係教務主任	庶務部企画室教養教育企画係企画主任
	〃	石田 精一	施設課企画係企画主任	経理部主計課監査係監査主任
	〃	高森 満	工学部経理係経理主任	経理部主計課司計係予算主任
	〃	奥野 芳明	人文学部・理学部用度係用度主任	経理部経理課用度係用度主任
	〃	佐藤 淳	経済学部会計係会計主任	人文学部・理学部用度係用度主任
	〃	大聖寺一孝	経理部主計課監査係監査主任	教育学部会計係経理主任
	〃	北村 均	人文学部・理学部庶務係庶務主任	教育学部附属学校第二係庶務主任
	〃	山本 悦子	附属図書館総務係総務主任	経済学部教務係学務主任
	〃	尾山 吉昭	教育学部学務係厚生主任	経済学部学生係学生主任
	〃	松本 修一	教養部庶務係庶務主任	工学部庶務係庶務主任
	〃	岩永 晴雄	工学部用度係用度主任	工学部経理係経理主任
	〃	堀 和子	経理部経理課給与係給与主任	工学部用度係用度主任
	〃	上田 美好	文部事務官（工学部）	文部事務官（庶務部人事課）
	〃	安部 保子	文部事務官（経済学部）	文部事務官（庶務部企画室）
	〃	中三川敏之	文部事務官（経理部経理課）	文部事務官（経理部主計課）
	〃	五十嵐義浩	文部事務官（経理部主計課）	文部事務官（経理部経理課）
	〃	村崎 勝子	文部事務官（人文学部・理学部）	文部事務官（経理部経理課）
	〃	小森 功	文部事務官（工学部）	文部事務官（施設課）
	〃	竹田 充輝	文部事務官（教養部）	文部事務官（人文学部・理学部）
	〃	森田 智	文部事務官（教養部）	文部事務官（人文学部・理学部）
	〃	武田 正夫	文部事務官（教養部）	文部事務官（教育学部）
	〃	織田 世起	文部事務官（人文学部・理学部）	文部事務官（教育学部）
	〃	森 慶子	文部事務官（教養部）	文部事務官（経済学部）

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	5. 4. 1	齊藤 智明	文部事務官（教育学部）	文部事務官（経済学部）
	〃	鳥海衣美子	文部事務官（教養部）	文部事務官（経済学部）
	〃	横井 宏正	文部事務官（教養部）	文部事務官（工学部）
	〃	片山 好孝	文部技官（教育学部）	文部事務官（教育学部）
退 職	5. 4. 1	郷井 良平	臨時用務員（学生課作業員）	平成 5 年 3 月31日限り退職した
	〃	村上 昭三	臨時用務員（厚生課作業員）	平成 5 年 3 月31日限り退職した
	〃	上野 美幸	事務補佐員（人文学部・理学部）	平成 5 年 3 月31日限り退職した
	〃	細井 昭一	臨時用務員（教育学部）	平成 5 年 3 月31日限り退職した
	〃	島崎 博	臨時用務員（教養部）	平成 5 年 3 月31日限り退職した
	〃	纓田 圭子	教務補佐員（教養部）	平成 5 年 3 月31日限り退職した
併 任	5. 4. 1	津島 康二	文部技官（施設課）	文部省大臣官房文教施設部 名古屋工事事務所（～ 6. 3. 31）
職務命令	5. 4. 1	能登 功	庶務部庶務課専門職員	研究協力担当を免ずる
	〃	高森 諷	厚生課専門職員	進路指導担当を免ずる
	〃	脇坂 勝人	文部事務官（附属図書館）	附属図書館閲覧係閲覧主任を命ずる
	〃	角井 隼子	文部事務官（附属図書館）	附属図書館参考係参考主任を命ずる
	〃	金田 稔	文部技官（経理部経理課自動車運転手）	経理部経理課副車庫長を免ずる
	〃	金田 稔	文部技官（経理部経理課自動車運転手）	経理部経理課車庫長を命ずる
	〃	東山 明信	文部技官（教育学部自動車運転手）	教育学部附属学校副車庫長を命ずる
	〃	前川 清徳	用務員（工学部作業員）	工学部作業員長を命ずる
	〃	高瀬サチ子	用務員（工学部作業員）	工学部副作業員長を命ずる
辞 職	5. 3. 31	河村 貞枝	教 授（人文学部）	辞職を承認する
	〃	高橋 春成	助教授（教育学部）	〃
	〃	森蘭 英輔	教 授（経済学部）	〃
	〃	大西 武士	〃（ 〃 ）	〃
	〃	岡部 馨	講 師（工学部）	〃
	〃	平井 宗壽	教 頭（副校長）（教育学部附属小学校）	〃
	〃	池田 繁子	教 諭（ 〃 〃 ）	〃
	〃	山下 善路	〃（ 〃 附属中学校）	〃
	〃	今井 創	〃（ 〃 〃 ）	〃
	〃	竹内 元人	〃（ 〃 〃 ）	〃
	〃	小柴 徹彦	教 頭（副校長）（ 〃 附属養護学校）	〃



異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
辞 職	5. 3. 31	中島代志美	教 諭 (教育学部付属養護学校)	辞職を承認する
併 任	5. 3. 31	加瀬正二郎	教 授 (教育学部)	教育学部長・評議員 (～7. 3. 30まで)
	"	加瀬正二郎	" ( " )	教育学部附属中学校長の併任を解除する
	"	長井 眞隆	" ( " )	教育学部附属中学校長 (～6. 3. 31)
採 用	5. 4. 1	東田 雅博		助教授 (人文学部)
	"	佐藤 朋之		" ( " )
	"	田上 善夫		助教授 (教育学部)
	"	金久 博昭		" ( " )
	"	山下 正人		" ( " )
	"	林部 實		教 授 (経済学部)
	"	堂谷 昌孝		助教授 ( " )
	"	林 健治		" ( " )
	"	長谷部宏一		" ( " )
	"	澤井 啓		" ( " )
	"	村上剣十郎		講 師 ( " )
	"	桑井 智彦		助 手 (理学部)
	"	黒田 律		" ( " )
	"	中嶋 芳雄		助教授 (工学部)
	"	田島 正登		" ( " )
	"	島田 邦雄		助 手 ( " )
	"	高野 登		" ( " )
	"	駱 琴		" ( " )
	"	沖田 昭夫		教 頭 (副校長) (教育学部附属小学校)
	"	南 裕子		教 諭 ( " " )
	"	蟹谷 茂昭		" ( " 附属中学校)
	"	前田 孝夫		" ( " " )
	"	亀谷 寿一		" ( " " )
	"	西田 知代		" ( " 附属養護学校)
	"	野崎 和仁		" ( " " )
昇 任	"	宇野 隆夫	助教授 (人文学部)	教 授 (人文学部)
	"	山口 幸祐	" ( " )	" ( " )

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
昇 任	5. 4. 1	磯部 彰	助教授（人文学部）	教 授（人文学部）
	"	北村 純一	"（ " ）	"（ " ）
	"	溝口 常俊	"（教養部）	"（ " ）
	"	山本 孝一	"（ " ）	"（ " ）
	"	根津由喜夫	講 師（人文学部）	助教授（ " ）
	"	岩井 瑞枝	"（ " ）	"（ " ）
	"	佐藤 裕	助 手（大阪大学人間科学部）	講 師（ " ）
	"	齋藤 孝滋	"（東北大学文学部）	"（ " ）
	"	山下 三郎	助教授（教育学部）	教 授（教育学部）
	"	横山 泰行	"（ " ）	"（ " ）
	"	杉本 啓郎	助 手（ " ）	講 師（ " ）
	"	萩野 聡	助教授（経済学部）	教 授（経済学部）
	"	瀧 敦弘	講 師（ " ）	助教授（ " ）
	"	飯野 正幸	"（ " ）	"（ " ）
	"	白石 俊輔	"（ " ）	"（ " ）
	"	岡部 俊夫	助教授（理学部）	教 授（理学部）
	"	東川 和夫	"（ " ）	"（ " ）
	"	平山 実	"（ " ）	"（ " ）
	"	川崎 一郎	"（ " ）	"（ " ）
	"	佐竹 洋	"（ " ）	"（ " ）
	"	黒田 英世	"（ " ）	"（ " ）
	"	久保 文夫	"（ " ）	"（ " ）
	"	山田 恭司	"（ " ）	"（ " ）
	"	飯田 敏	助 手（ " ）	助教授（ " ）
	"	吉田 尚弘	"（ " ）	"（ " ）
	"	川田 邦夫	"（ " ）	"（ " ）
	"	中村 省吾	"（ " ）	"（ " ）
	"	水野 透	"（ " ）	講 師（ " ）
	"	小田島仁司	"（ " ）	"（ " ）
	"	増田恭次郎	"（ " ）	"（ " ）
	"	水島 俊雄	文部技官（理学部）	助 手（ " ）

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
昇 任	5. 4. 1	波多 宣子	文部技官（理学部）	助 手（理学部）
	〃	岩坪 美兼	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	大住 剛	助教授（工学部）	教 授（工学部）
	〃	長谷 博行	講 師（ 〃 ）	助教授（ 〃 ）
	〃	佐藤日出信	教 諭（教育学部附属養護学校）	教 頭（副校長）（教育学部附属養護学校）
転 任	5. 4. 1	山瀬 晋吾	〃 （金沢大学教育学部附属中学校）	助教授（教育学部）
	〃	浅見 克彦	助教授（経済学部）	〃 （北海道大学文学部）
	〃	茂垣 広志	〃 （ 〃 ）	〃 （横浜国立大学経営学部）
	〃	小嵩 典明	〃 （ 〃 ）	〃 （大阪大学法学部）
	〃	豊泉 周治	〃 （教養部）	〃 （群馬大学教育学部）
配 置 換	5. 4. 1	岡村 信孝	教 授（教養部）	教 授（人文学部）
	〃	氣賀澤保規	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	梅村智恵子	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	海老原直邦	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	勝野 良一	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	神徳 昭甫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	奥貫 晴弘	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	松崎 一平	助教授（ 〃 ）	助教授（ 〃 ）
	〃	中 純夫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	吉田 俊則	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	中河 伸俊	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	湯川 純幸	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	井上 逸兵	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	立川 健治	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	筒井 洋一	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	ムラタ・マサヒコ	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	二村 文人	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	伊藤美重子	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	上野 隆三	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	高安 和子	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	鈴木 孝志	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	5. 4. 1	奥村 譲	助教授（教養部）	助教授（人文学部）
	〃	佐藤 清人	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	別本 明夫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	成田 節	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	宮内 伸子	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	笹尾 靖也	教 授（東京工業大学理学部）	教 授（教育学部）
	〃	塚崎 幹夫	〃 （教養部）	〃 （ 〃 ）
	〃	観山 雪陽	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	世利 幹夫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	中越 矩方	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	手塚 昌郷	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	福田 明夫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	吉田 和夫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	瀧澤 弘	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	藤田 正春	助教授（ 〃 ）	助教授（ 〃 ）
	〃	大川 信行	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	北村 潔和	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	布村 忠弘	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	横畑 泰志	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	鳥海 清司	講 師（ 〃 ）	講 師（ 〃 ）
	〃	水谷 秀樹	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	桂木 健次	教 授（ 〃 ）	教 授（経済学部）
	〃	駒城 鎮一	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	八木 保夫	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	大薮 龍介	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	澤田 利夫	教 授（経済学部）	教 授（茨城大学人文学部）
	〃	泉田 榮一	〃 （ 〃 ）	〃 （新潟大学法学部）
	〃	松井 暁	講 師（教養部）	講 師（経済学部）
	〃	小林久壽雄	教 授（ 〃 ）	教 授（理学部）
	〃	塩谷 俊作	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	鈴木 邦雄	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）



異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
配 置 換	5. 4. 1	小林 武彦	教 授 (教養部)	教 授 (理学部)
	"	小島 覺	" ( " )	" ( " )
	"	石川 義和	助教授 ( " )	助教授 ( " )
	"	竹内 章	" ( " )	" ( " )
	"	菊川 茂	" ( " )	" ( " )
	"	葛 晋治	教 授 ( " )	教 授 (工学部)
	"	森 克徳	" ( " )	" ( " )
	"	森田 弘之	" ( " )	" ( " )
	"	江上 繁樹	助教授 ( " )	助教授 ( " )
	"	早川英治郎	" ( " )	" ( " )
	"	西村 克彦	" ( " )	" ( " )
任用更新	5. 4. 1	ムラジツ・マリ・ツ	助教授 (教養部)	任用を更新する (～8. 3. 31)
休 職	5. 4. 1	前田あけみ	助教授 (教育学部)	国家公務員法第79条第1号により休職にする (～5. 7. 25)
退 職	5. 4. 1	川本榮一郎	教 授 (人文学部)	平成5年3月31日限り停年により退職した
	"	吉田 清	" ( " )	"
	"	中谷 唯一	" (教育学部)	"
	"	白川 郁子	" ( " )	"
	"	佐々木光三	" ( " )	"
	"	杉田 吉充	" (理学部)	"
	"	松本 幸生	" (工学部)	"
	"	藤井 昭二	" (教養部)	"
	"	大谷 重彦	" ( " )	"
	"	飯森 米藏	" ( " )	"
併 任	5. 4. 1	松本 賢一	教 授 (理学部)	理学部長・評議員 (～7. 3. 31)
	"	長井 眞隆	教 授 (教育学部)	教育学部附属教育実践研究指導センター長 (～7. 3. 31)
	"	駒城 鎮一	" (教養部)	評議員の併任は終了した
採 用	5. 4. 12	林 敏和		事務補佐員 (附属図書館)
	"	中村 繁之		" ( " )
	"	高越 義一		" ( " )
	"	杉森真希子		" ( " )
	"	山田 智恵		" ( " )

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	5. 4. 12	松岡 弘二		事務補佐員（附属図書館）
	5. 4. 19	浅井 康広		技術補佐員（経理部主計課）
	〃	山本憲一郎		〃 （ 〃 ）
	〃	西野 英克		〃 （ 〃 ）
	〃	平井 徹		〃 （ 〃 ）
	5. 6. 1	南 誠一		臨時用務員（経理部経理課作業員）
	〃	小井 利男		〃 （学生課作業員）
	〃	福島 誠治		〃 （厚生課作業員）
辞 職	5. 5. 11	片貝 俊雄	臨時用務員（学生課作業員）	辞職を承認する
	5. 5. 31	八嶋 信吉	臨時用務員（厚生課作業員）	〃
昇 任	5. 6. 1	庄子 仁	助教授（理学部）	教 授（北見工業大学工学部）
辞 職	5. 4. 30	藤森 英男	教 授（経済学部）	辞職を承認する
併 任	5. 4. 2	時澤 貢	教 授（工学部）	工学部長・評議員（～7. 4. 1）
	〃	時澤 貢	〃 （ 〃 ）	評議員の併任を解除する
	〃	島崎長一郎	〃 （ 〃 ）	評議員（～5. 5. 31）
	5. 5. 2	小谷 仲男	〃 （人文学部）	人文学部長・評議員（～7. 5. 1）
	〃	小澤 浩	〃 （ 〃 ）	評議員（～7. 5. 1）
	〃	矢澤 英一	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	水谷 義彦	〃 （理学部）	〃 （ 〃 ）
	〃	風巻 紀彦	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	5. 5. 9	浜谷 正人	〃 （人文学部）	学生部長・評議員（～7. 5. 8）
	5. 5. 21	龍山 智榮	〃 （工学部）	地域共同研究センター長（～7. 5. 20）
	5. 6. 1	田中 晋	〃 （教育学部）	評議員（～7. 5. 31）
	〃	佐々木 浩	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）
	〃	島崎長一郎	〃 （工学部）	〃 （ 〃 ）
	〃	宮下 和雄	〃 （ 〃 ）	〃 （ 〃 ）

学

事

## 平成5年3月卒業生数

○ 学 部

入学年度		3	2	元	63	62	61	60	合 計
学 部	学科（課程）								
人文学部	人 文 学 科			79	4	2		1	86
	語 学 文 学 科		1	75	9	4	2		91
	計		1	154	13	6	2	1	177
教育学部	小学校教員養成課程			88	3		1		92
	中学校教員養成課程			39	3				42
	養護学校教員養成課程			18	1	1			20
	幼稚園教員養成課程			29	1				30
	情 報 教 育 課 程			34					34
	計			208	8	1	1		218
経済学部	昼間主コース	経 済 学 科		115	15	3			133
		経 営 学 科		111	5	2		1	119
		経 営 法 学 科		81	6	1	1		89
		計		307	26	6	1	1	341
	夜間主コース	経 済 学 科		18	1				19
		経 営 学 科		14	1				15
		経 営 法 学 科		16	1				17
		計		48	3				51
	計				355	29	6	1	1
理学部	数 学 学 科			29	7	1			37
	物 理 学 科			23	9	1	2	1	36
	化 学 学 科			37	6				43
	生 物 学 科			28	5		1	1	35
	地 球 科 学 科			12	3	7			22
	計			129	30	9	3	2	173
工学部	工 業 化 学 科			28	5	3	1		37
	金 属 工 学 科			25	6	2	1		34
	機 械 工 学 科			43	12	2	1		58
	生 産 機 械 工 学 科		1	33	3				37
	化 学 工 学 科			33	5	1		1	40
	電 子 情 報 工 学 科		1	100					101
	電 気 工 学 科				6				6
	電 子 工 学 科				8	2	2		12
	計		2	262	45	10	5	1	325
合 計		2	1	1,108	125	32	12	5	1,285

(注) 1. 人文学部語学文学科 2年度入の1名は学士入学。

2. 工学部生産機械工学科, 電子情報工学科 3年度入の各1名は高等専門学校からの編入学者。

○ 専 攻 科

入学年度		4	3	合 計
専 攻 科	専 攻			
教育専攻科	教 育 専 攻	1	1	2

## 平成5年3月修了者数

## ○ 大学院

研究科	入学年度 専攻	3	2	合 計
人 文 科 学 研 究 科	日本・東洋文化専攻	1		1
	西洋文化専攻	3		3
	計	4		4
経 済 学 科 研 究 科	地域・経済政策専攻	4		4
	企業経営専攻	10		10
	計	14		14
理 学 研 究 科	数 学 専 攻	3		3
	物理学専攻	10		10
	化学専攻	10		10
	生物学専攻	11		11
	地球科学専攻	2	1	3
	計	36	1	37

研究科	入学年度 専攻	3	2	合 計
工 学 研 究 科	電気工学専攻	7		7
	工業化学専攻	10		10
	金属工学専攻	13		13
	機械工学専攻	7		7
	生産機械工学専攻	4		4
	化学工学専攻	7		7
	電子工学専攻	13		13
	計	61		61
計		115	1	116

## 平成4年度富山大学大学院研究科修了者一覧

## 〔人文科学研究科（修士課程）〕

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
日本・東洋文化	平成3年度	亀 井 聡	古墳時代前半期における石製腕飾類出土古墳の研究
西 洋 文 化	平成3年度	石 坂 直 之	事実としての物語 ーフィクションとノンフィクションのはざまに挑んだ作家たちー
	〃	鈴 木 淳 一	15世紀前半カスティーリャにおけるユダヤ人・コンベルソ問題と トレードの反乱
	〃	陸 君	Hemingway's Dilemma : Between Woman and Writing

## 〔経済学研究科（修士課程）〕

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
地域・経済政策専攻 (4名)	平成3年度	雨 宮 洋 司	海運役「商品」の特殊性と海運生産力 ー新しい視点からの現代海運分析ー
	〃	魚 躬 委 司	国土政策とテクノポリス構想
	〃	坪 田 等	過疎山村の地域活性化
	〃	林 文 嫻	中国の企業集団
企業経営専攻 (10名)	〃	内 山 由香子	これからの女子キャリア研究
	〃	紙 博 文	リース会計に関する研究 ーリース資本化を中心としてー
	〃	五郎島 守	職員団体制度の沿革と現状 ー国家公務員法上の制度を中心としてー
	〃	澁 谷 理 映	1986年カナダ競争法における合併規制の規制基準
	〃	豊 本 治	公務員法における臨時職員に関する一考察
	〃	古 川 勝	情報技術と組織間の不協和解消策に関する一考察
	〃	松 本 眞 明	賃金制度改善に関する一考察 ー能力給の導入を基軸としてー



専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
企 業 経 営 専 攻 (10名)	平成3年度	吉 澤 剛	動機錯誤と情報に関する一考察 (消費者取引を中心として)
	"	林 志 盛	日本企業の海外子会社の経営現地化に関する一考察
	"	林 明 秋	組織的知識創造に関する一考察

## 〔理学研究科(修士課程)〕

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
数 学 専 攻 (3名)	平成3年度	岩 河 隆 一	Curvature homogeneous Riemannian manifolds
	"	岩 田 勝 美	Optimal Stopping Rules and Martingales
	"	島 野 輝	Some properties of maximal real places on formally real fields
物 理 学 専 攻 (10名)	平成3年度	上 田 志津代	ヘリウム3ガスの液化とその温度領域におけるセリウム化合物の物性
	"	鵜 飼 友 視	マイクロ波スペクトルによるメチルアルコール分子の研究
	"	北 西 正	小林・益川(KM)現象論と整合するクォーク質量行列
	"	大 丸 宏 紀	メチルアルコール分子のミリ波帯でのマイクロ波分光
	"	降 旗 順一郎	Al-Cu-Cr系合金の準結晶
	"	森 野 勇	$^{18}\text{OH}$ ラジカルの赤外及び遠赤外分光
	"	八 木 俊 樹	人工ニューロンの信号伝導メカニズムの研究
	"	和 田 敏 秋	電子顕微鏡によるアモルファス合金膜の研究
	"	唐 健	$\text{CH}_3\text{OH}$ 分子のねじれ振動一回転スペクトルの研究
	"	路 慶 鳳	低Tc酸化物超伝導体の輸送現象
化 学 専 攻 (10名)	平成3年度	井 野 和 仁	多核バナジウム(Ⅲ)錯体の構造と性質
	"	大 泉 淳 司	ジヒドロオキセピン誘導体の合成と反応
	"	小 川 正 司	含水イオン結晶のO-H伸縮域の振動解析
	"	押 田 浩 三	Bi-Mo複合酸化物と $\text{Ta}_2\text{O}_5$ 及び $\text{Nb}_2\text{O}_5$ の混合触媒によるイソブタンのアンモ酸化
	"	甲 山 慶 子	メンブランフィルターの吸着作用に関する研究
	"	細 川 智 司	フッ素系廃液の処理とフッ化物イオンの形態別定量
	"	前 田 晴 世	キレート配位子を配位したバナジウム錯体の合成と構造
	"	矢 矧 雅 彦	酵素を用いる不斉合成素子の創製と天然物合成への利用
	"	山 本 博 幸	ジアザアヌレン類の合成と性質に関する研究
	"	油 谷 英 治	りん酸塩混合ピロりん酸ジバナジル触媒によるn-ブタンの無水マレイン酸への選択的酸化
生 物 学 専 攻 (11名)	平成3年度	愛 宕 敏 弘	クラミドモナスの鞭毛運動とATP代謝活性
	"	石 川 幸 淑	アメフラシの腹部神経節に存在するカルシトニン免疫陽性細胞とその生理的役割
	"	鵜 川 健 一	キングョのカルシトニンの純化とその生理的役割

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
生 物 学 専 攻 (11名)	平成3年度	海 谷 啓 之	ウシガエルの鰓後腺の役割の解明とそのカルシトニンの純化の試み
	〃	春 日 一 江	突然変異体を用いたカニクサ生殖器官の形成機構の解析
	〃	能 勢 泰 寛	マイワシのカルシトニンおよびアメリカザリガニの中腸盲嚢に存在するカルシトニン様物質の特徴
	〃	松 田 学	シダ植物における葉緑体遺伝子 chlL (frxC) の構造と発現
	〃	松 永 茂	UV light-induced photomovements in <i>Euglena gracilis</i>
	〃	山 田 博 司	イワナのカルシトニンの遺伝子工学的手法を用いた解析
	〃	山 本 誠 士	チビイトマキヒトデの鰓胞胚の微細構造の観察
	〃	フランス エスペディラ エディリョ	イモリのカルシトニンとヒストンの純化
地 球 科 学 専 攻 (3名)	平成3年度	岩 月 輝 希	一酸化二窒素の地球化学的循環の同位体比による解析
	〃	小 堀 和 雄	北鹿ベースンの形成と発達
	平成2年度	森 定 尚	第四紀における日本の古地磁気変動 ー特に歴史時代における地域差についてー

## 〔工学研究科（修士課程）〕

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
電 気 工 学 専 攻 (7名)	平成3年度	加 藤 匡 章	負性抵抗を用いたハード・ウェアニューロンモデルの実験的解析に関する研究
	〃	庄 司 浩 之	針電極を用いた酵母の培養状態の検出
	〃	竹 井 英 夫	計算機制御に基づくジャーファーマンタを用いた植物細胞の培養
	〃	多 胡 久	変分原理に基づく境界要素法に関する研究
	〃	三 宅 和 哉	多足ロボットの歩行に関する基礎研究
	〃	山 口 正 人	コオログの中胸神経節内における発音に参与する神経活動の研究
	〃	李 英 丹	広帯域形平衡・不平衡変成器の解析
工 業 化 学 専 攻 (10名)	平成3年度	尾 崎 俊 昭	9-及び10-メチルペンゾ [de] アントラセン-6-オン、 -7-オンの重水素化反応に関する研究
	〃	近 藤 眞 人	アルマイトのグレー発色
	〃	齋 藤 晴 臣	スルフェン酸の分解反応機構における中間体及びシクロデキストリンの効果に関する研究
	〃	佐 野 健 治	電子環化反応による新規な架橋 [10] アヌレン類の合成に関する研究
	〃	柴 田 正 樹	水平電極型無隔膜亜鉛-臭素二次電池
	〃	中 嶋 隆 喜	アミノ-2, 2'-ビピリジン類の合成と性質に関する研究
	〃	名 越 裕 之	縮合多環キノン類の合成と性質に関する研究
	〃	原 陽 介	二酸化鉛電極によるオゾン発生
	〃	山 崎 悟	Synthesis and Reactions of Sterically Hindered Alkyl Sulfenic Acids
	〃	山 崎 正 志	亜鉛-アルキルハライド系下に於ける石炭の溶解 ー可溶化物中の飽和成分の検索と同定ー
金 属 工 学 専 攻	平成3年度	石 動 正 和	Al-Mg-Si合金における粒界析出物

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
金 属 工 学 専 攻 (13名)	平成3年度	井 上 謙 一	Ti-15V-3Cr-3Al-3Sn合金の $\alpha$ および $\omega$ 相の析出に及ぼす固溶化熱処理温度の影響
	〃	川 瀬 浩 嗣	溶媒抽出法を用いるチオ尿素溶液からの貴金属の回収
	〃	甲 部 昭 人	貴金属の湿式回収に関する電気化学的研究
	〃	小 森 英 芳	一方向凝固法による双結晶種付け粒界の観察
	〃	高 野 智	SCS11ステンレス鋳鋼の腐食特性に及ぼす炭素含有量の影響
	〃	中 濱 俊 介	Pr-Cu-O系複合酸化物に関する研究
	〃	中 村 伸 幸	SUS304ステンレス鋼の腐食特性に及ぼす加工誘起マルテンサイトの影響
	〃	早 川 到	Ni-15Cr-8Fe-6Nb合金における $\gamma$ 相の析出形態と $\delta$ 相の成長
	〃	福 田 明	Ti-6242合金の連続冷却過程における相変態
	〃	森 康 敏	Siを過剰に添加したAl-lwt, %Mg: Si合金に現れる板状析出物の方位関係と結晶構造の検討
	〃	森 村 剛	発生ガス分析用湿度センサーに関する研究
	〃	米 口 明 雄	疲労強度向上のための表面残留応力制御に関する研究
機 械 工 学 専 攻 (7名)	平成3年度	相 川 泰 範	Ti-6Al-4V合金の高温低サイクル疲労強度特性に及ぼす組織の影響に関する研究
	〃	荒 木 一 彦	ソース・シンク駆動による進行波型マイクロリアフィードの研究
	〃	小 林 隆 昭	干渉平衡型変位駆動振動機器の研究
	〃	東 田 義 彦	溶湯鍛造アルミニウム合金の微小疲労き裂伝ば挙動に関する研究
	〃	藤 井 猛	長期間使用Cr-Mo-V鋼の多軸高温低サイクル疲労挙動に関する研究
	〃	細 川 武 史	高温における粉体の熱伝導に関する研究
	〃	韓 玲	炭素鋼の疲労強度に及ぼす窒化チタン被覆の影響に関する研究
生 産 機 械 工 学 専 攻 (4名)	平成3年度	岡 野 宏	アルミニウム合金の熱間押し出し加工におけるディスクの切断に関する研究
	〃	高 橋 光 人	圧電セラミックスの性状に及ぼすラップ加工条件の影響
	〃	水 上 良 明	空気圧管路系の動特性と等価管路系に関する研究
	〃	湯 浅 和 宏	ポートホールダイスのメタルフロー制御による中空押し出し材の接合強度に関する研究
化 学 工 学 専 攻 (7名)	平成3年度	池 田 幸 一	微粒子懸濁液の沈殿現象への分散媒種の影響
	〃	奥 村 哲 也	回転振動円板による微細粒子群の形状分離—付着特性の影響—
	〃	竹 田 佳 靖	温度刺激応答性酵素を用いた有用物質の生産に関する研究
	〃	福 田 康 雄	2成分溶液における二重拡散対流の数値シミュレーション
	〃	牧 野 学	遠心沈降を利用した湿式粒子形状分離に関する基礎的検討
	〃	宮 長 広 明	複合微細造粒粒子の生成とその特性評価—造粒と粉碎と分粒との同時操作—
	〃	宮 本 裕	3成分溶液乾燥における乾燥速度曲線の相関
電 子 工 学 専 攻 (13名)	平成3年度	井 道 博 次	強誘電性液晶における電界誘起変形のシミュレーション
	〃	角 田 尚 義	MBE成長 $(\text{Si}_{1-x}\text{Ge}_x)_2/\text{Si}(001)$ 超格子界面の成長温度依存性

専 攻	入学年度	氏 名	論 文 題 目
	平成 3 年度	加 藤 豊 章	反強誘電性液晶の分子配列とその電界誘起変形
	〃	加 藤 英 明	強誘電性液晶セルにおける分子配列変化と電気光学特性
	〃	唐 木 哲 也	分子線エピタキシー法による高温超伝導薄膜の作製
	〃	佐々木 隆	図書目録カード理解システムのグラフィカルユーザーインターフェースの設計
	〃	鈴 木 保 春	階層型ニューラルネットとベクトル量子化法を用いた文字認識実験
	〃	中 田 学	画像処理による錐体モザイク測定法の開発に関する研究
	〃	中 村 巖	酸素ラジカルピームを用いたBiSrCaCuO超伝導薄膜のMBE成長
	〃	生田目 建	Si (100) 基板上的InSb薄膜の成長
	〃	藤 田 健 一	GaAs (001) 面上へGaSeの成長と界面の評価
	〃	松 田 晃 典	オブジェクト指向と状態遷移モデルに基づくシーケンス制御用言語の支援ルーツの作成
	〃	山 崎 英 治	手書き文字の変動評価に関する研究

## 関 係 法 令

### (法 律)

- 国立学校設置法の一部を改正する法律 (21) 4. 23
- 皇太子徳仁親王の結婚の儀が行われる日を休日とする法律 (32) 4. 30

### (政 令)

- 勤労者財産形成促進法施行令の一部を改正する政令 (40) 3. 17
- 毒物及び劇物指定令の一部を改正する政令 (41) 3. 19
- 平成 2 年度以後における国家公務員等共済組合法の年金の額改正に関する政令の一部を改正する政令 (44) 3. 24
- 児童扶養手当法施行令の一部を改正する政令 (51) 〃
- 特別児童扶養手当等の支給に関する法律施行令等の一部を改正する政令 (52) 〃
- 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令 (56) 3. 26
- 日本育英会施行令の一部を改正する政令 (68) 〃
- 著作権法施行令の一部を改正する政令 (69) 〃

- プログラムの著作物に係る登録の特例に関する法律施行令の一部を改正する政令 (70) 3. 26
- 人事統計報告に関する総理府令及び職員の兼業の許可に関する総理府令の一部を改正する総理府 (総理 5) 3. 29
- 日本体育・学校健康センター法施行規則一部を改正する政令 (155) 4. 23

### (省 令)

- 旅券法施行規則の一部を改正する省令 (外務 3) 3. 1
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令 (文部 2) 3. 3
- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令 (文部 3) 3. 10
- 高等学校設置基準の一部を改正する省令 (同 4) 〃
- 単位制高等学校教育規程の一部を改正する省令 (同 5) 〃
- 高等学校通信教育規程の一部を改正する省令 (同 6) 〃
- 毒物及び劇物取締法施行規則の一部を改正

する省令（厚生7）	3. 19	○平成5年大学入学資格検定の施行期日等を告示（同36）	3. 22
○債権管理事務取扱規則の一部を改正する省令（大蔵37）	3. 25		
○国有財産法施行細則の一部を改正する省令（同40）	3. 26	（規 則）	
○文部省設置法施行規則の一部を改正する省令（文部7）	3. 30	○人事院規則9-80（扶養手当）の一部改正する人事院規則（人事院9-80-4）	3. 15
○国立大学の大学附置の研究所の研究部門に関する省令（同8）	〃	○人事院規則17-0（管理職員等の範囲）の一部を改正する人事院規則（人事院17-0-29）	3. 25
○大学共同利用機関組織運営規則の一部を改正する省令（同9）	〃	○人事院規則16-0（職員の災害補償）の一部を改正する人事院規則（同16-0-14）	3. 29
○国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令（同10）	3. 31	○人事院規則16-3（災害を受けた職員の福祉施設）の一部を改正する人事院規則（同16-3-17）	〃
○国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（同11）	〃	○人事院規則16-4（補償及び福祉施設の実施）の一部を改正する人事院規則（同16-4-10）	〃
○教育公務員特例法施行令第一条の規定に基づき大学院に置かれる研究科の長を定める省令の一部を改正する省令（同12）	〃	○人事院規則9-8（初任給，昇格，昇給等の基準）の一部改正する人事院規則（同9-8-20）	3. 30
○歳入徴収官事務規程等の一部を改正する省令（大蔵42）	〃	○人事院規則2-7（人事院事務総局の職制）の一部を改正する人事院規則（同2-7-10）	4. 1
○国立学校における授業料その他の費用に関する省令（文部12）	4. 1	○人事院規則9-1（非常勤職員の給与）の一部を改正する人事院規則（同9-1-10）	〃
○日本体育・学校健康センター法施行規則の一部を改正する省令（文部23）	4. 23	○人事院規則9-17（俸給の特別調整額）の一部を改正する人事院規則（同9-17-42）	〃
（告 示）		○人事院規則9-55（特勤勤務手当等）の一部を改正する人事院規則（同9-55-25）	〃
○平成5年度民間学術研究機関補助金の交付申請書及び添付書類の提出期限を定める件（文部20）	3. 1	○人事院規則15-11（職員の休暇）の一部を改正する人事院規則（同15-11-3）	〃
○史跡に地域を追加して指定する件（同22・23）	3. 4	○人事院規則15-12（非常勤職員の勤務時間及び休暇）の一部改正する人事院規則（同15-12-5）	4. 1
○学校教育法施行規則第63条の4の規定により，別に定めることとされた学修について定める件（同24）	3. 10	○人事院規則1-5（特別職）の一部を改正する人事院規則（同1-5-6）	4. 23
○学校教育法施行規則第63条の5の規定により，知識及び技能に関する審査で別に定めることとされたものについて定める件（同25）	〃	○人事院規則9-55（特勤勤務手当等）の一部を改正する人事院規則（同9-55-27）	4. 30
○平成元年度文部省告示第26号の一部を改正する件（同26）	〃		
○国立教育会館における平成5年度社会教育主事講習を実施する件（同27）	〃		
○平成6年度科学研究費補助金国際学術研究による研究課題を公募する件（同29）	3. 16		



## 諸

## 会

## 議

## 第84回構内交通対策委員会（3月1日）

## （審議事項）

- (1) 構内交通規制業務の合理化について
- (2) その他

## 平成4年度第5回学園ニュース編集委員会（3月1日）

## （審議事項）

- (1) 第80号学園ニュースの編集について
- (2) その他

## 平成4年度第17回評議会（臨時）（3月6日）

## （審議事項）

- (1) 現場検証について
- (2) その他

## 平成4年度第11回補導協議会（臨時）（3月8日）

## （審議事項）

学生団体への対応について

## 平成4年度第1回放射性同位元素委員会（3月10日）

## （議 題）

- (1) 委員長の選出について
- (2) 富山大学水素同位体機能研究センター放射線障害予防規則の一部改正について
- (3) 富山大学放射性同位体元素総合実験室放射線障害予防規則の全部改正について
- (4) 富山大学放射性同位元素総合実験室放射線安全委員会内規の制定について
- (5) 富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則の一部改正について
- (6) その他

## 平成4年度第18回評議会（3月12日）

## （審議事項）

- (1) 平成5年3月卒業者及び修了者の認定について
- (2) 次期学生部長候補者の選考について
- (3) 富山大学教養教育委員会規則及び同委員会内規の制定について（継続）
- (4) 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の制定について（継続）

(5) 富山大学共通教育棟の教室等の使用に関する取扱要項の制定について（継続）

(6) 富山大学の教育改革に伴う関係規則の整備に関する規則の制定について（「教務委員会規則の一部改正」に係る事項）（継続）

(7) 富山大学補導協議会規則の一部改正について（継続）

(8) 富山大学学部補導委員会規則の一部改正について（継続）

(9) 富山大学授業料等減免選考委員会規則の一部改正について（継続）

(10) 富山大学学寮規則の一部改正について（継続）

(11) 富山大学学寮補導委員会規則の一部改正について（継続）

(12) 富山大学文化部会規則の廃止について（継続）

(13) 富山大学体育部会規則の廃止について（継続）

(14) 富山大学学生守則の一部改正について（継続）

(15) 富山大学学生会館規則の一部改正について（継続）

(16) 富山大学学生会館運営委員会規則の廃止について（継続）

(17) 富山大学学生会館運営学生委員会規程の廃止について（継続）

(18) 富山大学経済学部規則の一部改正について

(19) 富山大学工学部規則の一部改正について

(20) 富山大学教員（教授・助教授・講師）選考基準の一部改正について

(21) 富山大学学生部長選考基準の一部改正について

(22) 富山大学教養部長選考基準の廃止について

(23) 富山大学教養部運営協議会規則の廃止について

(24) 富山大学教養部教授会規則の廃止について

(25) 富山大学教養部学生の助言教官に関する規則の廃止について

(26) 富山大学教養部核燃料物質計量管理規則の廃止について

(27) 富山大学附属図書館利用規則の一部改正について

(28) 富山大学水素同位体機能研究センター放射線障害予防規則の一部改正について

(29) 富山大学放射性同位元素総合実験室放射線障害予防規則の全部改正について

(30) 富山大学廃液処理施設放射線障害予防規則の一部

改正について

(3) その他

平成 4 年度第 6 回大学院委員会 (3 月 12 日)

(審議事項)

(1) 平成 5 年 3 月 富山大学大学院修了者の認定について

(2) その他

平成 4 年度第 7 回情報処理センター運営委員会

(3 月 16 日)

(審議事項)

- (1) 平成 6 年度歳出概算要求について
- (2) センターの運営方法について
- (3) インターネットの運用について
- (4) 情報処理システムの更新に伴う研究室等端末の取扱いについて
- (5) 新教育課程の実施に当たりのセンターの役割について
- (6) その他

平成 4 年度第 19 回評議会 (臨時) (3 月 18 日)

(審議事項)

- (1) 学内検索について
- (2) その他

平成 4 年度第 20 回評議会 (臨時) (3 月 18 日)

(審議事項)

- (1) 学内検索について (継続)
- (2) その他

平成 4 年度第 11 回事務協議会 (3 月 19 日)

(議 題)

当面の諸課題について

平成 4 年度第 12 回補導協議会 (3 月 19 日)

(審議事項)

- (1) 学生の教室使用に関する取扱いについて
- (2) 日本育英会の推薦基準について
- (3) その他

平成 4 年度第 4 回国際交流委員会 (3 月 24 日)

(審議事項)

- (1) 平成 4 年度 富山大学国際交流事業基金決算について

て

(2) 平成 5 年度 富山大学国際交流事業基金予算 (案) について

(3) 平成 5 年度 富山大学国際交流事業基金各種事業の採択について

(4) その他

平成 4 年度第 2 回留学生指導相談室運営委員会

(3 月 24 日)

(議 題)

- (1) 平成 5 年度指導相談室の業務について
- (2) 第 4 条第 6 号委員の推薦について
- (3) その他

平成 4 年度第 7 回放射性同位元素総合実験室運営委員会

(3 月 25 日)

(議 題)

- (1) 平成 6 年度歳出概算要求について
- (2) 平成 6 年度 国立学校施設整備概算要求について
- (3) 平成 5 年度 総合実験室使用許可申請について
- (4) その他

平成 4 年度第 21 回評議会 (臨時) (3 月 26 日)

(審議事項)

- (1) 平成 5 年 3 月 卒業生の認定について
- (2) 富山大学人文学部規則の一部改正について
- (3) 富山大学理学部規則の一部改正について
- (4) 富山大学教育改革整備委員会規則の廃止について
- (5) 調査委員会の調査結果について
- (6) その他

平成 5 年度第 1 回事務協議会 (4 月 6 日)

(議 題)

当面の諸課題について

平成 5 年度第 1 回学生生活協議会 (4 月 6 日)

(審議事項)

- (1) 入学式当日の警備体制について
- (2) その他

平成 5 年度第 1 回放射性同位元素総合実験室運営委員会

(4 月 14 日)

(議 題)

- (1) 平成 5 年度 総合実験室使用許可申請について

(2) 平成 4 年度運営費決算及び平成 5 年度運営費予算  
(案) について

(3) 総合実験室放射線安全委員会委員の専任について

(4) その他

平成 5 年度第 1 回発明委員会 (4 月 28 日)

(議 題)

(1) 委員長の選出について

(2) 発明の届出について

(3) その他

平成 5 年度第 1 回評議会 (4 月 16 日)

(審議事項)

(1) 富山大学名誉教授称号授与について

(2) 富山大学教養教育委員会規則の一部改正について

(3) 学生の除籍について

(4) その他

平成 4 年度第 1 回留学生指導相談室運営委員会  
(4 月 28 日)

(議 題)

(1) 平成 5 年度日本語課外補講の計画について

(2) 年間事業計画について

(3) その他

平成 5 年度第 2 回評議会 (臨時) (4 月 20 日)

(議 題)

(1) 学内搜索について

(2) その他

平成 5 年度第 4 回評議会 (臨時) (4 月 29 日)

(議 題)

(1) 現場検証について

(2) その他

平成 5 年度第 3 回評議会 (臨時) (4 月 20 日)

(課 題)

(1) 学内搜索について (継続)

(2) その他

平成 5 年度第 1 回新教育課程実施委員会 (4 月 20 日)

(議 題)

(1) 教養教育委員会への申し送り事項について

(2) その他

平成 5 年度第 1 回水素同位体機能研究センター運営委員  
会 (4 月 20 日)

(審議事項)

(1) 平成 4 年度水素同位体機能研究センター使用申請  
及び放射線業務従事者の登録について

(2) センター長の選考について

(3) その他

平成 5 年度第 1 回授業料等減免選考委員会 (4 月 27 日)

(議 題)

(1) 平成 5 年度大学院入学生の入学料免除者の選考に  
ついて

(2) 平成 5 年度学部入学生の入学料免除者の選考につ  
いて

## お 知 ら せ

## 平成5年度における「さわやか行政サービス運動」の推進について

政府「さわやか行政サービス推進協議会」では、昭和63年度以来「国民の立場に立った親切的な行政」、「真心のこもった行政」の実現に向け、次の観点に立って「さわやか行政サービス運動」を推進しています。

## 文部省さわやか行政サービス運動の主な自主点検事項

## 1. 分かりやすい行政サービス

- (1) 案内標識・案内表示等の整備
- (2) 申請書等記載事項・方法の明確化
- (3) 業務に関する情報提供

## 2. 便利な行政サービス

- (1) 窓口受付機能の拡大
- (2) 窓口事務の取扱い時間の改善（昼休み、夜間等）
- (3) 申請等手続きの簡素化
- (4) 窓口環境の整備

## 3. 迅速な行政サービス

- (1) 事務処理に要する時間等の告知
- (2) 事務処理の迅速化・的確な対応

## 4. 清潔な行政サービス

- (1) 服装・身だしなみの清潔の保持
- (2) 窓口・待合室等の美化、清潔の保持

## 5. 丁寧な行政サービス

- (1) 窓口・電話等における親切・丁寧な対応

## 6. 安全に配慮した行政サービス

- (1) 高齢者・障害者等に配慮した対応

## 7. 人間性に配慮した行政サービス

- (1) 高齢者・障害者・非喫煙者等に配慮した対応
- (2) プライバシーに配慮した対応

本学においても、標記運動を踏まえ、一層の改善に努められるよう御協力ください。

## 他大学の自己点検評価報告書の供覧について

このことについて、報告書の有効利用をはかるため、別紙のとおり附属図書館及び庶務部企画室に配置し随時供覧できるようにいたしましたのでお知らせします。

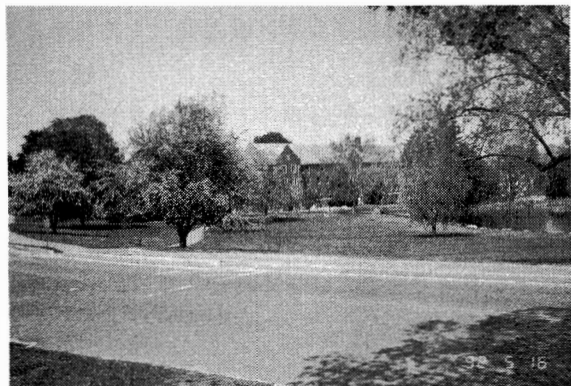
なお、今後報告書が送付されてきた際には、その都度ご連絡する予定ですので併せてお知らせします。

大 学 名	報 告 書 名	発 行 年 月	学内配置先		備 考
			図書館	庶務部 企画室	
東 京 大 学	東京大学の現状と課題	平成 4 年12月	2	1	
名 古 屋 大 学	明日を拓く名古屋大学	平成 5 年 1 月	2	1	
徳 島 大 学	徳島大学の現状と課題	平成 4 年12月	1	1	
東京農工大学	東京農工大学における教育研究の現状と課題	平成 5 年 2 月	2	1	
鳥 取 大 学	鳥取大学の現状と課題	平成 4 年12月	1	—	
大 阪 大 学	大阪大学白書・1993—地域に生き世界に伸びる	平成 5 年 4 月	2	1	
埼 玉 大 学	埼玉大学の現状と課題	平成 5 年 3 月	1	—	
静 岡 大 学	静岡大学の教育と研究	平成 5 年 3 月	1	—	
島 根 大 学	島根大学の現状と課題(Ⅰ)	平成 5 年 3 月	1	—	
香 川 大 学	香川大学現状と課題—教育と研究—	平成 5 年 5 月	1	—	

## コネチカット大学に滞在して

工学部 助教授 石原 外美

平成4年3月20日から平成5年1月19日までの10ヶ月間、文部省在外研究員としてアメリカ合衆国コネチカット州、ストールズにあるコネチカット大学に滞在した。コネチカット州は緯度としてはほぼ北海道程度であるが、東海岸に面しているため、大陸内部とは異なり冬季でもそれほど寒さは厳しくない。州都、ハートフォードは人口120万人の典型的な地方都市である。保険関連の会社が多く、大半の住民は周辺の町に住んでいるため、夜間やウィークエンドの人口はかなり少なくなる。上記人口はこれら周辺の町の人口を含めたもののようである。昨年はめったにないことらしいが4月16日に雪が降り、その寒さに閉口した。しかし、5月に入ってから、至るところで草木の花が一斉に咲きほころび、その匂い、香り、鮮やかな色には目を奪われた。



春たけなわのコネチカット大学キャンパス

に比較して5～7%高い。

筆者は大学保有のアパートを借り、そこから通っていたが、研究室まで徒歩30分と結構時間がかかるのと、バス等の公共輸送機関が一日3往復程度と少なく、近くの町のモールまで買い物へ出掛けるのに不便を感じたため、中古車を買った。国際免許証をもっていったが、コネチカット州では2ヶ月以内に免許証の取得を義務づけているので、ウイリマンテックという近くの町にあるDMV（自動車関連の事務所）で試験日の予約を行い、約2ヶ月後に同所で試験を受けた。視力試験、ペーパー試験16問と路上試験があった。ペーパー試験は、問いに対するいくつかの答えの中から正答を選択するもので、ボタンを押すとその場で正答か誤答かがわかる。したがって誤答が続くとあせってしまい、さらに間違ってしまう恐れがある。筆者は16問中13問正解できたが、12問正解が義務付けられているから、危うかった。路上試験はウイリマンテックの町の中で行われた。自分の車に試験官と一緒に乗り、交差点での運転技術、交通信号の意味を理解し、正確に実行しているかどうかを中心に試験された。合格すればその日の内に免許証がもらえる。免許証は5年間有効である。試験料29ドルと写真代38ドルが必要であった。

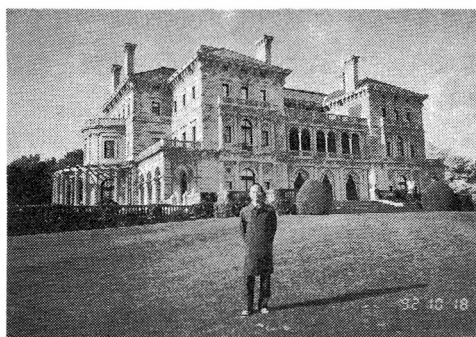
コネチカット大学は州内のいくつかの都市に分散しており、一番大きなキャンパスのあるストールズはニューヨークとボストンを結ぶ幹線道路の中間に位置しており、ニューヨークへは車で3時間半、ボストンへは車で2時間足らずの距離にある。従って大都会に遊びに行くにはそれほど不便な所ではない。金曜日の午後にはニューヨークやボストン行のバスがキャンパスから出発する。

キャンパス周辺にはブナ、ナラ等の落葉樹を主とした森と湖が多く、美しい環境に恵まれている。大学自身も美しい自然を維持することで、優秀な学生を呼び寄せたいとの思いもあるようで、キャンパス内の環境を維持するためにかなりのエネルギーをつぎ込んでいるように見受けられた。コネチカット大学はもともとは農学部から出発した州立大学で、キャンパスに隣接して広い農場を持っている。筆者も、土曜、日曜日には牧草地を散策し



たが、丸くなだらかな丘がどこまでも続く牧草地を歩いていると、牛、羊、馬がのんびりと牧草を食んでいる風景を目にすることができ、ゆったりとした安心感に包まれ、束の間のやすらぎを感じた。学生はキャンパス内にある寮に全員住み、そこから通学している。そのためか、講義のある時間帯が午前 8 時 30 分から午後 6 時頃までと長時間にわたり、よく勉強をしている学生が多いという印象をもった。

小生は Institute of Materials Science (以下 IMS と略) の A. J. McEvily 教授の研究室で、セラミックスの一種で、高温における製造部材として期待されている窒化ケイ素の静疲労並びに動疲労下の亀裂の成長特性を調査し、その機構を明確にする研究を行った。同教授は金属疲労の分野では世界的権威であるが、セラミックスに関してはごく最近研究に着手したばかりである。同教授の研究室には、最新のコンピュータ制御の疲労試験機が何台も用意されており、研究環境としては非常に恵まれていると感じた。IMS では、電子顕微鏡等の大型機器で、共通で使用する装置類はある部署で一括管理しており、使用したい場合はそこへ申し込まなければならない。しかし、このような方式は機器の有効利用には優れているが、使用時間が限定され、必要な時にすぐに使えない等、機動性の面で問題があった。筆者の研究テーマであるセラミックスの静疲労並びに動疲労下の亀裂の成長特性に関する研究では顕微鏡を随時使用しなければならず、A. J. McEvily 教授にこのことをお願いすると、翌日、筆者に対して顕微鏡室に何時でも入室し、使用することが許可された。一般に米国では何か問題があってもそれを言わなければ何も解決されないことを聞いて知ってはいたが、それを身をもって体験した。



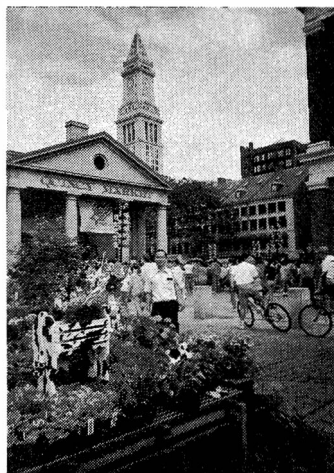
東海岸のとある大邸宅前

IMS は、学際的研究を行うために金属学科、高分子学科、化学科、物性物理関係の教官の一部が寄り合い、形成した研究所で、配属される学生は大学院生のみのいわゆる大学院大学である。所属学生はオフィスと称してい

る大部屋に、研究分野あるいは専攻に関係なく、各自の机と椅子をもらって入ってくる。しかし、学生の大半は朝くると実験室に直行し、そこで実験あるいは計算を行い、終わればそのまま帰るといった行動様式なので、オフィスの稼働率はそれほど高くないようである。学生達は一人の指導教授のもとで、また学際的な共同研究の場合には複数の教授の指導の下に、PHOの研究を遂行している。朝 9 時から夕方 5 時前後まで仕事をし、時には徹夜実験もやっているようだった。彼らは、研究助手もしくは教育助手のいずれかの身分で、大学もしくは指導教授から年間 1 万ドル程度のお金をもらっている場合が普通であり、生活面の心配がないためか、あるいはお金をもらうことで仕事を請け負っているとの感覚があるためなのか、その理由は明確ではないが、筆者は、彼らの中の一部の者の仕事ぶりにそれほどの情熱を感じなかった。

研究面に関しては、新しく何かを学ぶということとはなかったけれども、A. J. McEvily 教授が自分自身の健康維持に並々ならぬ努力を払っていることに深い感銘を覚えた。同教授は毎日 11 時半近くになると、ランニングシャツとジョギングシューズを身につけ、大学周辺の森の中を 5～6 マイル (8～10km) ジョギングし、さらに水泳をする。これは大事な来客が昼の時間にある場所を除いて、雨や雪の降る日でも続けられるのである。ウィークエンドには近隣で開催されるマラソン大会 (ほとんど毎週のように開催される) に出場し、完走し、結果として各種トロフィを受賞することに子供のような喜びを感じている。同教授が 68 才になっても、仕事においても、生活面においてもアグレッシブに生きる秘密をかいま見た気がする。

以上、米国滞在中の雑多な内容を思いつくまま脈絡なく



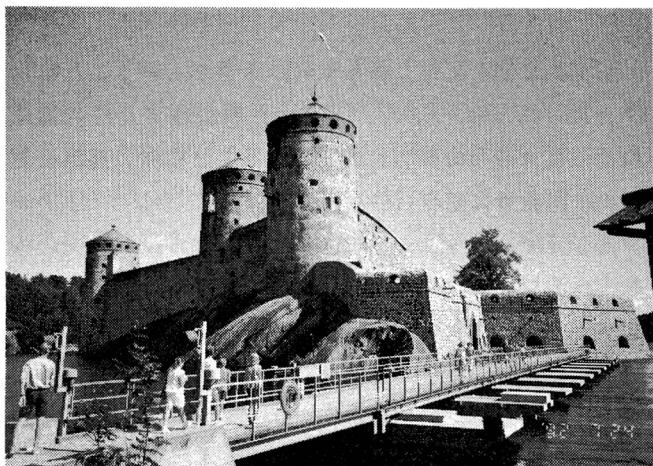
ボストン、クィンシーマーケット前にて

書き連ねたことをお詫び申し上げるとともに、筆者の勘違い、思い違いも多々あることをお断わりしておきたい。末筆ながら筆者の在外研究に当たり、種々御便宜をお図りいただいた本学関係各位に厚く御礼を申し上げる次第である。

## 「森と湖の国に滞在して」

教育学部助教授 堀田 朋基

私はこのたび文部省在外研究員若手教官として、平成 4 年 3 月後半から 5 年 1 月後半までの 10 ヶ月間フィンランドの Jyväskylä (ユバスキュラ) 大学に留学しました。フィンランドと言うとなじみがうすいと思いますが、フィンランドはスカンジナビア半島に位置し、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アイスランドといった国々と北欧諸国を形成しています。ひらたく言うと、スウェーデンの隣の国で面積は日本の約 90% で人口は約 500 万人です。ちなみに、日本からフィンランドへは、直通便が週 2 便運行しています。



今回私が留学先としてフィンランドを選んだ理由は、私が専攻している体育学のバイオメカニクスという分野で精力的に研究を行なっている Paavo V. Komi 教授がいたからでした。コミ教授は、バイオメカニクスの中でもとりわけ、跳躍と疲労に詳しく多くの業績をあげています。今から 10 数年前、私がまだ大学院生だったころに教授の論文を読み、もし留学するならこの先生の所でと考えていたので、今回の留学はいわば 10 年越しの恋？が実ったようなものでした。また、コミ教授は国際オリンピック委員会 (IOC) の医事委員会のメンバーでもあり、最近話題のドーピング問題等に直接関与しているスポーツ医学の第 1 人者の 1 人です。

さて、私達家族は春も近づいた 3 月下旬に日本を出発したわけですが、フィンランドの首都ヘルシンキに到着した夜は雪が降っており、改めて北にいることを実感しました。私の滞在地ユバスキュラは、ヘルシンキから北へ 300km に位置しており、そこまでは列車で行ったわけですが、切符は買ったもののどの列車に乗ってよいかわ

からずウロウロしていると、たまたま英語を話せる人が我々を助けてくれました。ちなみにフィンランドの公用語はフィンランド語とスウェーデン語で、フィンランド語は他の北欧の国の言語やロシア語、ドイツ語ともまったく異なっています。フィンランドの列車は軌道の幅が広く、ちょうど日本の新幹線程度の幅です。その列車の中には、2 人掛けのシートが 2 列並んでいるので日本の列車と比べると随分ゆったりとしています。また、感心させられたのは長距離を走る車両には必ず子供専用の車両があることです。これは、車両 1 両が子供の遊び場になっており、母乳を与えるミルク室もついており、我々のような子供連れには大変ありがたい車両でした。

ユバスキュラでは私達家族は、大学のゲストハウスに住みました。この建物は外見から判断する限りでは相当古いのですが、断熱効果は抜群で外が  $-15^{\circ}\text{C}$  でも室内は常に  $24^{\circ}\text{C}$  に保たれていました。ここでフィンランドの家の特長について述べてみると、まず外から出入りするドアは全て 2 重になっています。また、窓は窓枠も含めて 3 重窓になっているので窓の厚さが 20cm 以上もあります。外壁の中には、グラスウールが 20~30cm の厚さで充填されており、さらにその中にはビニールシートが貼りめぐらされているのです。ヒーティングシステムは、市内の住宅は町はずれにあるパワーステーションからお湯の供給を受けているので、お湯をパイプに通して暖房をしています。また、郊外の住宅では暖炉を使っています。私達は何回か地元の人の家に招かれましたが、暖炉で 1 回火をたくと 2~3 日は家の中が暖かいとのことでした。いまだに暖炉に付随したかまどでパンを焼いたりしている家もあります。

家の建て方も日本とは異なっており、フィンランドでは室内の壁自体に強度をもたせるパネル工法が多く見られます。また、日本では体育館のような大きな建築物は、まず鉄骨で骨組みをしますが、フィンランドではうすい木の板を何層も貼り合わせて太い梁を作り、それで骨組みをします。このようにフィンランドの家の構造及び暖房システムは日本とはまったく異なるもので、一言でいうと住む人に優しい住宅であるような気がします。

さて、ようやく異国での生活に慣れてきたころ、5 月 1 日はメーデーで祝日でした。日本ではメーデーといっ

でも別に大きなセレモニーはやりませんが、フィンランドでメーデーは特別な日であり、国をあげての大きなお祭りの日です。具体的には、当日まず労働者の人達がそれぞれの会社の旗をかかげて市内をパレードします。そして、これを合図に後は町をひっくり返すかのような大ドンチャン騒ぎが始まるのです。フィンランドも含めて北欧アルコールが規制されており、アルコール度の強い酒は国営の専売所でなければ買えません。したがって普段は、町中でも酔った人を見ることは皆無ですが、この日ばかりは無礼講で昼間から泥酔している人を何人も見ました。また、フィンランドでは高校を卒業する時に白い帽子をかぶるのですが、メーデーの日にはみんなこの白い帽子をかぶって町にやって来ます。老いも若きもみんな白い帽子をかぶって一緒にメーデーを祝う姿はとてもほほえましいものでした。そして、この日を境にして急速に冬が終わりを告げ、春の到来が始まります。

四季の区別がはっきりしており、ほぼ3ヶ月周期で移り変わる日本と比較すると、フィンランドの四季は冬がほぼ6ヶ月で、残りの6ヶ月間で春、夏、秋がめまぐるしく移り変わります。したがってここの人達にとって夏の太陽はとても重要で、6月をすぎるとビーチで日光浴をしている人をよく見かけました。また、夏は白夜で夜の12時過ぎでも明るいので野外で遊ぶには絶好の季節です。このような理由からか、地元の人々は最低でも1ヶ月という長い夏の休暇をとります。この休暇で人々はキャンピングカーで思い思いの所へ出かけたり、ボートをトレーラーで引いて国内で1,000以上もある湖に行ったりします。何しろ町からちょっと外へ出ると森と湖が無限大に広がっているので、ここの人達は小さいころから自然と慣れ親しんでいるのです。学校は完全週休2日（オフィスも週休2日制）、平日も午後1時を過ぎるとみんな学校から帰っていきます。子供達はその後、スポーツクラブへ行ったり友達と一緒に森や湖へ遊びに行きます。フィンランドには、学習塾とか受験戦争といったものではなく、子供達は実にのびのびとしているような気がします。また、親と子のコミュニケーションも密であるような感じがします。たとえば、子供の誕生日には両親が何日も前から準備をして、当日は親しい友達を囲んで盛大なパーティーを行い、パーティーの中のアトラクションもすべて両親が企画するのです。親しい人に、何故ここまでするのか聞いたところ「私達も昔両親にやってもらったので続けているのだ。」という答えが返ってきました。このような家庭からは、日本で言う不良少年・少女は生まれてこないのではないのでしょうか。

さて、秋も深まった9月中旬に私は画期的な研究プロジェクトに参加することができました。それは、人間のアキレス腱に作用している力を直接運動中に測定するというものです。この測定には、手術でアキレス腱にトランスデューサーをうめ込む必要があるのですが、全世界でこの測定を実施しているのはコミ教授の研究室だけです。したがってこのプロジェクトには、デンマークとドイツからも研究者が参加しました。研究の特性上、1日に2人しかテストできませんでしたが、私の仕事は実際に手術室内での測定をVTRに記録することでした。手術自体は、皮膚を切開してトランスデューサーをうめ込むだけですが、実際に自分の目でむき出しのアキレス腱が動く様を見ると、感動を覚えずにはいられませんでした。ちなみにその場で連続跳躍（ホッピング）した場合、アキレス腱には瞬間的に約400kgの力が加わっています。

フィンランドでは冬の訪れは早く、去年は10月10日に初雪が降りました。また冬は日照時間が短かく、最も短かい時で1日約4時間程度でした。しかし人達の行動様式が全く変わらないのには感心させられます。朝まだまっ暗のうちからスキーで森の中を歩き、家に帰ったらサウナで汗を流して、その後は自家製のビールで一杯やるというのが、休日の過ごし方の一つのパターンのようです。

今回の留学を通じて、強く印象に残ったのは、このような厳しい自然に培われた、地元の人々の素朴で優しい人間性でした。フィンランドは日本と比較すると経済力では劣りますが、日本はただ物があふれているだけで、人間として生きていく上で何が大事なものが欠けているような気がしてなりません。留学中地元の人達と親交を深めるにつれ、私はフィンランドを心のふる里と感じるようになりました。総じて見ると、今回の留学は自分の研究ばかりでなく、我々家族のあり方を見つめ直すよい機会だったような気がします。

最後に、私にこのような機会を与えて下さった富山大学の諸先生方ならびにユバスキュラ大学のコミ教授に感謝して本レポートをしめくりたいと思います。

## 学内トピックス ①



## 『地元中学生が本学を見学』



## 福 光 中 学 校



▲ 経済学部長の説明に熱心にメモをとる生徒たち

去る 5 月 14 日(金)に福光町立福光中学校 2 学年の生徒達が、学習を通して、さまざまな見識と豊かな情操を養うことを目的として本学を見学しました。

これは、富山市内及び高岡市内の事業所の見学実施の一環として訪れたもので、2 学年 150 名の生徒のうち 20 名が見学に訪れました。

日程は、午前中 2 つの班がそれぞれ理学部と工学部を、午後は 1 つの班は経済学部と教育学部を、もう一つの班は人文学部と教育学部を見学しました。



▲ 理学部 小助教授の話に耳を傾ける生徒たち

訪れた生徒たちは、案内をした教官に対し、「研究の分野」、「授業内容」を始め「大学の先生になった動機」、「大学の先生の苦勞」、「学生のサークル数」等、広い分野にわたって質問をし、熱心にメモをとっていました。

また、対応した教官が研究紹介を行う際に思わず専門用語を使い、すかさず生徒から聞き返される等、ほほえましい風景も見受けられました。

今後、このような機会の 1 つ 1 つを大事にしていくことが本学のイメージアップに連がり、これら外部の要望に精一杯応えていくことの大切さを痛感させられた生徒達の大学訪問でした。



▲ 棚座助教授の話に耳を傾ける生徒達



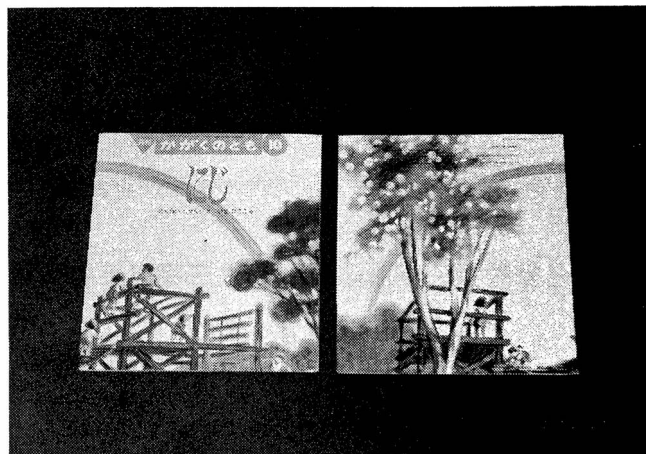
▲ 教育学部(左から宋教授、小西教授、諸岡助教授)で資料を見ながら質問をする生徒達

## 学内トピックス ②

## 『月刊「かがくのとも」10月号「にじ」』が刊行される

この度、福音館書店から出版された『月刊「かがくのとも」10月号「にじ」』を紹介いたします。

この本は、理学部櫻井教授が、物理現象に対する幼い関心が、そのまま科学へと延びていかないだろうか？という思いのもとで物理現象をテーマにした絵本を刊行されたものです。以下「にじ」の絵本の出版に当たってのいきさつなどの解説をいただきましたので併せて紹介いたします。



△ 物理現象をテーマにした絵本を刊行されました

## 「にじ」の絵本について



理学部教授（低温液化室長）  
櫻 井 醇 児

この度、私の書いた「にじ」と云う絵本ができ上がりました。福音館の「かがくのとも」からです。私にとって絵本を作るのは初めてのことです。理学部で実験に励んでおり、絵本とも子供とも日頃縁がない私がどうして絵本を？と周囲の方はご不審だったと思います。

絵本との接点といえば、娘が小さかったとき、娘に絵本を読んでやったことです。娘と一緒に私も絵本の世界に魅せられて、私は、私自身が子供だった時のことを、あれこれ思いました。そんな時、古い絵本が押し入れから出てきました。確かに見覚えがあります。ページをめくっていくと、その絵本のお話と絵が、私の幼い小さな頭いっぱい葉を広げて不思議な花を咲かせて、強烈に私の想像をかき立てたことがあった！のをはっきりと思い出しました。子供は親が読んでくれるお話を聞きながら、いつの間にか眠ったりします。すると、絵本から生えた不思議な植物もどんどん背が延びて、夢の世界にまで生き残り、そして意識以前の世界に地下茎が育まれるのだと思います。

私は絵本に対して新しい関心を持って、子供図書館に外向いたりしました。すると、私の専門の物理が絵本のテーマに殆ど顔を出していないのに気が付きました。そこで、物理現象をテーマにして、絵本にしてみればどうかと思うようになった次第です。

誰でも子供の時、虹を見て不思議さを感じた経験があったと思います。不思議さと驚きに誘われて、子供はじっと虹を見つめ、虹の色を数え、虹の形を目でたどったりします。自然現象に対する好奇心は科学の始まりです。そして、その好奇心の持続と発展が科学の全てなのです。だから子供の時は誰でも科学少年・少女であったと思います。でも高学年になるに従って、難しい計算や○×問題が解けずに、物理は面倒だという声が増えてくるのではないのでしょうか？物理科学に入学して来た新入生に将来どんな研究をしてみたいかを尋ねると、最近の新聞で話題になった大発見の周辺に殆どどの関心が集中しているようです。このような研究に関心を持つのは勿論重要なのですが、その関心が自分自身の好奇心に裏打ちされていないことを私は残念に思います。類似した危険が、研究者の研究の進め方にもあると思います。新しい話題、新しい方法にとび込んで、それ迄の自分を見失ってしまうような場合です。これでは新しいがり屋か道具屋でしかないと思うのです。



物理現象に対する幼い関心が、そのまま科学へと延びて行かないものだろうか？ こんな思いがゆっくり具体化して「にじ」の絵本ができた次第です。

これを読んで下さった知人から「絵本を通じて物理の原理を伝えていくなんて、とても夢のある仕事ですね。私は理科が大の苦手でしたが、こんな本に早く出会って

いましたら、もう少し理科の部分が成長していたかも知れない。…」、「私の虹の現れ方について知らなかったもので、一つ賢くなりました。」等々、いろいろうれしいコメントを頂きました。でも私が「にじ」の絵本に話したことは、絵本を通じて虹の現れ方の公式を伝えていくことではないのですがネ!!

## 叙

## 勲

去る4月29日付けで、平成5年春の勲章が発表され、本学関係では次の方が受章されました。

## 名誉教授 梅原隆章

## 勲三等旭日中綬章



今年の春の叙勲で勲三等旭日中綬章を受章することになり、まことに光栄の至りです。富山大学の発足の頃から定年まで、関係各位の御指導の結果無事に勤務させて頂きましたおかげによります。かつて、大学紛争という一時期に、学生部長をつとめ、横田学長が御入院の間に連続団交に当り苦勞をした思い出が、強く印象に残っています。大学本部が学生のバリエード封鎖で、学生部長室には任期中は入室できませんでした。

文理学部から教養部が創設される事になり、大学充実のためには、重要な課題でもあったので、その発足から積極的に努力して、主として定員増と予算の増加に重点を置いて、文部省の大学課に足を運んだ記憶があります。教養部長には前後三回就任して、次第に教養部が形態を設備する為に微力を尽くしましたが、今春四月、教養部は解体して苦勞を共にしてきた先生方が、全学部配置換えになることに決定し、いささか淋しい気も致しますが、富山大学全体の将来のためには有効であると安堵しています。いよいよ富大の拡大発展することを祈ります。

## 元事務局長 長谷川 登

## 勲三等瑞宝章



## 勲章の栄に浴して

新緑萌える頃となりました。皆様益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度はからず勲三等瑞宝章の栄に浴して身に余る光栄と感謝を致します。

これも遍えに皆様方の暖かいご指導とご援助の賜と存じ有り難く心から御礼申し上げます。

今後はこの受章を心の支えとして尚一層の精進を重ねるよう努力致す所存でございますので今後共変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

思い起こせば十年前の昭和55年4月富山大学に赴任致し微力ではございますが奉職中に工学部の移転と高岡産業短大の創設に全力投球をしてみようと考えました。初めのうちは紆余曲折もありましたが各界各層の人々のご理解とご協力を戴き陽の目を見ることが出来ました。これは富山県人の心の暖かさと県民が一体となって教育に傾ける情熱があったればこそと思います。

叙勲は五月十八日に伝達式と皇居参内となります。

終りに皆様方のご多幸と富山大学の益々のご発展を祈念いたします。



## 元附属中学校副校長 中山宇之一 勲五等双光旭日章



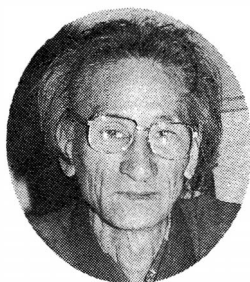
私は、教育学部附属中学校の副校長で退職いたしました。にもかかわらず、このたび叙勲の栄に浴しました。前例のないことであり、かつは驚き、かつは光栄に存じている次第です。

4月18日、国立劇場で受章し、胸に勲章をつけた一行が、バスを連ねて皇居に入りました。クスやケヤキの大木が空高く生い茂り、その若葉のみどりが、鮮やかに輝いていました。豊明殿の入口には、大きな壺に白い牡丹の花が、豊かに活けてありました。

天皇陛下から「長年にわたり、国のため、社会のため、人々のために尽くされて、ご苦労であった。感謝している。」とのお言葉を賜りました。

来年、金婚式を迎える老夫婦が、健康で、皇居に参内できたことを喜び、ご推薦をいただいた学長さんをはじめ、ご支援くださった学内関係者に、深く謝意を表し、厚くお礼を申し上げます。

## 元文部事務官 黒田信吉 勲五等瑞宝章



## あ の 頃

紺野定三氏は私が仕えた上司の中では、最も忘れ難い課長である。山口大学の学生次長で退職された筈だが、ばんがら風の性格は辞めるまで直らなかったようである。

さて、昭和36年1月1日、大学に未曾有の事件をもたらした。年暮の28日、剣岳下の赤谷山へ向っていた本学山岳部アタック隊の遭難報が留守隊員から学生係長の小生宅へと連絡、翌日慌しく学生部に対策本部が設置された。仔細は「富山大学、あの日あの頃」の中の大島教授の記に盡しているが、結果としては、1月24日に一遺体を残し、五遺体を収容して一応は対策本部は解散した。

予期せぬ事件ではあったが、学生の課外活動を支える学生課に取って、総てが未知への心の内圧に堪えることばかりであった。対策本部解散のあと、紺野課長は執務中も暫らくはアノラック、長靴の姿を解こうとしなかった。

3月に入って、あの一遺体が収容されたが、私には忘れ得ぬ記憶の一事であった。

## 学 内 規 則

## 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の制定

## 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の制定理由

富山大学における教養科目及び共通基礎科目の履修について、必要な事項を定める。

富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黑 千足

## 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則

(趣 旨)

第 1 条 富山大学学則第31条に定める教養科目及び共通基礎科目（以下「教養教育」という。）の履修については、各学部規則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(開設授業科目及び単位数)

第 2 条 教養教育として開設する授業科目及び単位数は、別表 1 及び別表 2 のとおりとする。

(履修単位数)

第 3 条 教養教育として、修得しなければならない選択科目の単位数は、次のとおりとする。

授 業 科 目		単 位 数	
		各 学 部 (経済学部夜間主 コースを除く。)	経 済 学 部 夜間主コース
教 養 科 目	教養原論 (教養原論演習を除く。)	12単位	12単位
	総 合 科 目	6 単位	4 単位
共通基礎科目	外国語科目	8 単位 (2カ国語各4単位)	4 単位 (英語)
	保健体育科目	2 単位	2 単位
	情報処理科目 又は言語表現科目	2 単位	
計		30単位	22単位

2 前項に定めるもののほか、教養教育として履修できる単位は次のとおりとする。

授 業 科 目		単 位 数	
		各 学 部 (経済学部夜間主 コースを除く。)	経 済 学 部 夜間主コース
教 養 科 目	教養原論	4 単位	8 単位(教養 原論、総合科 目、外国語科 目のうちから 8単位)
	総 合 科 目	2 単位	
共通基礎科目	外国語科目	4 単位	
	保健体育科目	4 単位	
	情報処理科目 又は言語表現科目	2 単位	
計		16単位	8 単位

3 前項により修得した単位は、自由科目の修得単位として、各学部の定めるところにより10単位（経済学部夜間主コースにあっては8単位）を限界として卒業に必要な単位数に含めることができる。

(単位の計算方法)

第 4 条 各授業科目の 1 単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 教養原論、総合科目、情報処理科目及び言語表現科目は、15時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 外国語科目は、30時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 保健体育科目は、講義及び演習の形態による授業科目にあっては15時間の授業をもって 1 単位とし、実技の形態による授業科目にあっては30時間の授業をもって 1 単位とする。

(各学部における教養原論の履修)

第 5 条 各学部における教養原論の履修については、次のとおりとする。

学 部	選 択 科 目	自 由 科 目
人文学部	人文科学系授業科目 12単位 社会科学系授業科目 (各系から2単位以上) 自然科学系授業科目	人文科学系授業科目 社会科学系授業科目 4 単位まで 自然科学系授業科目
教育学部	人文科学系授業科目 12単位 社会科学系授業科目 自然科学系授業科目	
経済学部 (昼間主コース)	人文科学系授業科目 12単位 社会科学系授業科目 自然科学系授業科目	
理学部	人文科学系授業科目 12単位 社会科学系授業科目	
工学部	人文科学系授業科目 12単位 社会科学系授業科目	
経済学部 (夜間主コース)	人文科学系授業科目 12単位 社会科学系授業科目 自然科学系授業科目	人文科学系授業科目 社会科学系授業科目 8 単位まで 自然科学系授業科目

(授業の編成及び履修申告)

第6条 授業科目は、各年次に配当して編成し、授業時間数及び授業担当教官をあらかじめ公示する。

2 学生は、各期の始めに履修しようとする授業科目を、所定の履修届により、所属学部長に届け出なければならない。届け出のない授業科目は履修することができない。

(各期別履修単位数)

第7条 各期に履修できる単位数は、別表3のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、各期の終了時における修得単位数の合計が、前項に定める各期に履修できる単位数の合計に満たない場合は、不足する単位について、在籍年次及び低学年次に対して開設する授業科目を履修することができる。

(外国人留学生の外国語科目)

第8条 外国人留学生は、母語以外の外国語を選択するものとする。

(成績評価)

第9条 履修した授業科目の成績評価は、筆記試験又はその他の方法により、授業担当教官が行う。

2 成績評価は、100点を満点として、次のとおりとし、可以上を合格とする。

優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

(試験)

第10条 試験は、学期末に行う。ただし、必要がある場合は、学期末以外の時期に行うことがある。

2 特別な理由により試験を受けることができなかった者に対しては、別に定めるところにより追試験を許可することができる。

附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

別表1 (第2条関係) 教養科目の授業科目名及び単位数

#### 1 教養原論

系列	主 題 名	授 業 科 目 名	単 位	備 考
人文科学系	思想と倫理	哲学のすすめ	2	
		人間の倫理	2	
	心理と教育	こころの科学	2	教育学部の学生は履修できない。
		教育と社会	2	

人文学科	歴史の世界	日本の歴史と社会 東洋の歴史と社会 西洋の歴史と社会	2 2 2	
	文学の世界	日本文学 外国文学	2 2	
	言語と文化	言語と文化	2	
	芸術の世界	音楽 美術	2 2	2科目の履修はできない。
社会科学系	社会理論と現代	社会科学の方法と理論 現代社会論Ⅰ 現代社会論Ⅱ	2 2 2	
	法と政治	日本国憲法 国家と政治 経済生活と法 市民生活と法	2 2 2 2	
	産業と経済	経済・経営データを読む 企業と仕事 世界経済の過去と現在 日本の経済と産業 日本の企業経営	2 2 2 2 2	
	地域と生活	地域の社会と文化 富山の経済と社会	2 2	
自然科学系	地球と環境	地球の構造と活動 地球の環境	2 2	
	生命の世界	生命のしくみ 生命と環境	2 2	
	自然の構造	宇宙の構造 化学物質の世界 物質の構造 量子の世界	2 2 2 2	
	数理の世界	自然と数理 社会と数理 情報と数理	2 2 2	
工学系	技術の世界	機械の力学 生産のための技術 電気・電子機器 材料の科学	2 2 2 2	
	生活の科学	生活の科学 睡眠の科学 園芸	2 2 2	
	情報の科学	コンピュータの話	2	
	教養原論演習		2又は4	ゼミ形式で実施する。

#### 2 総合科目

授 業 科 目 名	単位数	備 考
環境	2	
生と死	2	
ジェンダー(性)	2	
心と身体	2	
技術と社会	2	
現代文化	2	
生活と福祉	2	
人権と差別	2	
環日本海	2	
科学と社会	2	
現代の世界(時事的問題)	2	
日本事情	6	外国人留学生対象

別表 2 (第 2 条関係) 共通基礎科目の授業科目名及び単位数

## 1 外国語科目

授 業 科 目 名	単 位 数		備 考
	選 択	自 由	
英 語 A	4		外国人留学生対象 外国人留学生対象
英 語 B		4	
ド イ ツ 語 A	4		
ド イ ツ 語 B		4	
フ ラ ン ス 語 A	4		
フ ラ ン ス 語 B		4	
ロ シ ア 語 A	4		
ロ シ ア 語 B		4	
中 国 語 A	4		
中 国 語 B		4	
朝 鮮 語 A	4		
朝 鮮 語 B		4	
ラ テ ン 語 B		2	
日 本 語 A	4		
日 本 語 B		4	

## 2 保健体育科目

授 業 科 目 名	単位数	備 考
健康・スポーツ論	3	講義
健康・スポーツ演習	2	演習
健康スポーツ	4	実技

## 3 情報処理科目

授 業 科 目 名	単位数	備 考
情 報 処 理	2	

## 4 言語表現科目

授 業 科 目 名	単位数	備 考
言 語 表 現	2	

別表 3 (第 7 条関係) 各期に履修できる単位数

各学部 (経済学部夜間主コースを除く。)

区 分	1 年		2 年		3 年		備 考
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養科目 教養原論 総合科目	4	4	4 2	4 2	2 2	2	
共通基礎科目 外国語科目	2	2	2	2			2 年次開講は自由科目の単位とする。
保健体育科目	2	2					
健康・スポーツ論 (講義)	$\begin{pmatrix} & 1 \\ 1 & \end{pmatrix}$	1	$\begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}$	1			1 年次は前期・後期から合わせて 2 単位を, 2 年次は, 前期・後期から合わせて 4 単位を履修できる。
健康・スポーツ演習 (演習)				1			
健康スポーツ (実技)		1		1			
情報処理科目	$\begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix} 2$	$\begin{pmatrix} 2 \\ 2 \end{pmatrix} 2$					
言語表現科目	2	2					

注: 表の単位は, 各期に履修できる上限単位数である。

## 経済学部夜間主コース

区 分	1 年		2 年		備 考
	前 期	後 期	前 期	後 期	
教養科目 教養原論 総合科目	6	6 2	2		
共通基礎科目 外国語科目 (英語)	2	2			
保健体育科目 (実技)	1		1		

注: 表の単位は, 各期に履修できる上限単位数である。

## 富山大学における教養科目及び共通基礎科目に係る追試験に関する内規の制定

### 富山大学における教養科目及び共通基礎科目に係る追試験に関する内規の制定理由

富山大学における教養科目及び共通基礎科目に係る追試験に関して、必要な事項を定める。

#### 富山大学における教養科目及び共通基礎科目に係る追試験に関する内規

富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則第10条第2項の規定に基づき、追試験に関する必要な事項を定める。

第1条 急病、3親等以内の近親者の死亡、災害、その他不慮の事故により試験を受けることができなかった者については、追試験を許可することがある。

第2条 追試験を願い出ようとする者は、試験を受けることができなかった理由を証明する書類を添付して、当該科目の試験終了後5日以内に庶務部企画室に追試験許可願を提出するものとする。

第3条 追試験は、担当教官が随時行う。

#### 附 則

この内規は、平成5年4月1日から実施する。

## 富山大学の教育改革に伴う関係規則の整備に関する規則の制定

### 富山大学の教育改革に伴う関係規則の整備に関する規則の制定理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成5年3月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 平成3年6月24日付け文高大第184号文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき、所要事項を改める。
- 3 字句の整備を行う。

富山大学の教育改革に伴う関係規則の整備に関する規則を次のように定める。

平成5年4月1日

富山大学長 小黒 千足

#### 富山大学の教育改革に伴う関係規則の整備に関する規則

（富山大学評議会規則の一部改正）

第1条 富山大学評議会規則（昭和28年5月28日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第2号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に改め、同条第3号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改める。

第3条中「、当該学部及び教養部」を「、当該学部」に改める。

第8条第1項第3号中「、学科及び教養部」を「、学科」に改め、同項第5号中「学生定員」を「学生の収容定員」に改める。

第9条中「学部長又は教養部長」を「学部長」に改める。

（富山大学入学試験委員会規則の一部改正）

第2条 富山大学入学試験委員会規則（平成3年11月22日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に改め、同項第3号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「、学部長又は教養部長」を「、学部長」に改める。

第9条第1項中「並びに各学部及び教養部試験場本部」を「及び各学部試験場本部」に改め、同条第2項中「、各学部及び教養部試験場本部」を「、各学部試験場本部」に、「、各学部長及び教養部長」を「、各

学部長」に改める。

(富山大学入学試験実施委員会規則の一部改正)

第3条 富山大学入学試験実施委員会規則(平成3年11月22日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項第2号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「学部長又は教養部長」を「学部長」に改める。

(富山大学入学者選抜方法研究委員会規則の一部改正)

第4条 富山大学入学者選抜方法研究委員会規則(平成3年11月22日全部改正)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「学部長又は教養部長」を「学部長」に改める。

(富山大学学部等図書委員会規則の一部改正)

第5条 富山大学学部等図書委員会規則(昭和24年8月19日制定)の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

富山大学学部図書委員会規則

第1条中「学部等図書委員会」を「学部図書委員会」に改める。

第2条中「各学部又は教養部」を「各学部」に改める。

(富山大学将来計画委員会規則の一部改正)

第6条 富山大学将来計画委員会規則(昭和55年6月27日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項第2号中「学部長及び教養部長」を「学部長」に改め、同項第4号中「学部及び教養部」を「学部」に、「各1名」を「各1人」に改める。

(富山大学施設整備委員会規則の一部改正)

第7条 富山大学施設整備委員会規則(昭和45年2月16日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「学部長及び教養部長」を「学部長」に改め、同項第3号中「学部及び教養部」を「学部」に、「各1名」を「各1人」に改め、同条第2項中「学部長又は教養部長」を「学部長」に改める。

(富山大学教務委員会規則の一部改正)

第8条 富山大学教務委員会規則(昭和55年4月18日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第4号中「学部(教養部を含む。)」を「学部」に改める。

第3条第1項第2号及び第3号を次のように改める。

(2) 各学部長

(3) 各学部教務委員長

同項中第4号を第5号とし、第3号の次に次の1号を加える。

(4) 教養教育委員会企画専門委員会委員長

同条第2項を削る。

第4条を次のように改める。

第4条 削除

(富山大学公務員宿舍委員会規則の一部改正)

第9条 富山大学公務員宿舍委員会規則(昭和38年11月1日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第4号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「当該学部等の長」を「当該学部長」に、「各1名」を「各1人」に改める。

(富山大学レクリエーション委員会規則の一部改正)

第10条 富山大学レクリエーション委員会規則(昭和38年11月1日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第3号中「3名」を「3人」に、同条第4号中「2名」を「2人」に、同条第5号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に、「各3名」を「各3人」に、同条第6号中「1名」を「1人」に、同条7号中「2名」を「2人」に改める。

(富山大学大学改革準備委員会規則の一部改正)

第11条 富山大学大学改革準備委員会規則(昭和45年12月4日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項第1号中「学部および教養部」を「学部」に、同項第2号中「若干名」を「若干人」に改める。

(富山大学構内交通対策委員会規則の一部改正)

第12条 富山大学構内交通対策委員会規則(昭和51年12月17日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第1号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「当該部局の長」を「当該学部長」に改める。

(富山大学附属図書館商議会規則の一部改正)

第13条 富山大学附属図書館商議会規則(昭和24年8月19日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「各学部及び教養部」を「各学部」に改める。

(富山大学発明規則の一部改正)

第14条 富山大学発明規則(昭和53年12月22日制定)の一部を次のように改正する。

第5条第1項中「各学部、教養部」を「各学部」に、「各1名」を「各1人」に改める。



（富山大学事務電算化委員会規則の一部改正）

第15条 富山大学事務電算化委員会規則（昭和54年12月21日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第4号中「課長」を「課長、室長」に改める。

第6条中「課長補佐」を「課長補佐並びに企画室の室長補佐」に改める。

（富山大学公開講座規則の一部改正）

第16条 富山大学公開講座規則（昭和57年11月12日制定）の一部を次のように改正する。

第9条第1項第1号中「学部及び教養部」を「学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「当該学部等の長」を「当該学部長」に改める。第11条中「庶務部庶務課」を「庶務部企画室」に改める。

（富山大学国際交流委員会規則の一部改正）

第17条 富山大学国際交流委員会規則（昭和59年2月17日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に改め、同項第3号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「当該学部等の長」を「当該学部長」に改める。

（富山大学体育施設委員会規則の一部改正）

第18条 富山大学体育施設委員会規則（昭和61年12月19日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第1項第2号中「学部及び教養部」を「学部」に、「各1名」を「各1人」に改め、同項第3号中「教育学部及び教養部」を「教育学部」に、「各1名」を「1人」に改め、同条第2項中「当該学部長又は教養部長」を「当該学部長」に改める。

（富山大学自己点検評価規則の一部改正）

第19条 富山大学自己点検評価規則（平成4年9月11日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第2号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に改め、同条第3号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各1名」を「各1人」に改める。

第14条中「庶務部庶務課」を「庶務部企画室」に改める。

（富山大学新教育課程実施委員会規則の一部改正）

第20条 富山大学新教育課程実施委員会規則（平成4年5月15日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に改め、同項第3号中「各学部及び教養

部」を「各学部」に改め、同項第4号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各1名」を「各1人」に改める。

（富山大学事務組織規則の一部改正）

第21条 富山大学事務組織規則（昭和39年1月1日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第2項中「及び人事課」を「人事課及び企画室」に改める。

第3条中「工学部、教養部」を「工学部」に改める。

第4条中「課」を「課、室」に改める。

第6条の次に次の1条を加える。

第6条の2 企画室においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教養教育委員会に係る事務に関すること。
- (2) 教養教育の企画立案に係る事務に関すること。
- (3) 教養教育の実施に係る事務に関すること。
- (4) 教養教育に関する各学部との連絡調整に係る事務に関すること。
- (5) 全学の自己点検・評価に関すること。
- (6) 生涯学習に係る事務に関すること。
- (7) 大学教育の調査及び統計に係る事務に関すること。
- (8) その他教養教育に係る事務に関すること。

「第3章 学部及び教養部」を「第3章 学部」に改める。

第12条中「工学部、教養部」を「工学部」に改める。

第14条第1項中「課長補佐」を「課長補佐を企画室に室長補佐」に改め、同条第2項中「課長補佐」を「課長補佐、室長補佐」に、「課長」を「課長、室長」に改める。

（富山大学における旅行命令権の復委任に関する規則の一部改正）

第22条 富山大学における旅行命令権の復委任に関する規則（昭和55年3月31日制定）の一部を次のように改正する。

第2条の表中

事務局長	事務局所属職員（局長、部長及び課長を除く。）に対する旅行命令権	を
事務局長	事務局所属職員（局長、部長、課長及び室長を除く。）に対する旅行命令権	に、

学 部 長	学部所属職員に対する旅行命令権	を
教養部長	教養部所属職員に対する旅行命令権	
学 部 長	学部所属職員に対する旅行命令権	に、

改める。

（富山大学文書処理規則の一部改正）

第23条 富山大学文書処理規則（昭和63年3月31日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第3項中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

第7条中「，課」を「，課，室」に，「課係等」を「課室係等」に改める。

第9条第2項中第7号を削り，第8号を第7号とし，第9号から第11号までを1号ずつ繰り上げる。

第17条第2項中「課長」を「課長，室長」に改める。

第25条中「，課長名」を「，課長名，室長名」に改める。

第33条第2項中「，課長」を「，課長，室長」に改める。

別表1中

「富大人 第 号 庶務部人事課所管のもの」を  
「富大人 第 号 庶務部人事課所管のもの」  
「富大企 第 号 庶務部企画室所管のもの」に，  
「富大工工第 号 工学部工場係所管のもの」  
「富大養庶第 号 教養部庶務係所管のもの」  
「富大養会第 号 教養部会計係所管のもの」  
「富大養教第 号 教養部教務係所管のもの」  
「富大養学第 号 教養部学生係所管のもの」を  
「富大工工第 号 工学部工場係所管のもの」に改める。

同表備考1中「，所管部局課係」を「，所管部局課室係」に改める。

様式第6号（第28条関係）中

学 長	部局長	部長・次長	課長	係長	起案者
			課長補佐	係員	起案部・課・係名 電（ ）

を

	(決 裁 欄)	係長	起案者
		係員	起案部・課・室・係名 電（ ）

に、

様式第6号の2（第28条関係）中

学 長	部局長	部長・次長	課長	係長	係員
			課長補佐	文書係長	担 当 者

を

	(決 裁 欄)	係長	係員
		文書係長	担 当 者

に、

様式第9号（第36条関係）中

部局長	部長	課 長	課長補佐	係長	取扱者
	次長	(事務長)	(事務長補佐)		

を

部局長	部長	課 長	課長補佐	係長	取扱者
	次長	(室 長)	(室長補佐)		
		(事務長)	(事務長補佐)		

に改める。

（富山大学文書決裁規則の一部改正）

第24条 富山大学文書決裁規則（昭和48年12月21日制定）の一部を次のように改正する。

別表第1中

1 法令等に基づく学長への内申，協議，承認等の申請及び報告	学 部 長 教 養 部 長 附属図書館長
2 予算に関するもののうち，重要なもの	
3 学外に対する各種照会及び回答のうち，重要なもの	
4 前各号に掲げるもののほか，部局長の名義を用いることが適当と認められるもの	

を

1 法令等に基づく学長への内申、協議、承認等の申請及び報告	学 部 長 附属図書館長
2 予算に関するもののうち、重要なもの	
3 学外に対する各種照会及び回答のうち、重要なもの	
4 前各号に掲げるもののほか、部局長の名義を用いることが適当と認められるもの	

に、

課の所掌事務に属する軽易なもの	主管課長	を
課及び企画室の所掌事務に属する軽易なもの	企画室長	

に改める。

別表第2中「(各課共通事項)」の項を「各課及び企画室共通事項」に改め、同項第3号、第4号及び第6号中「課長」を「課長及び室長」に、同項第7号中「課長以上(事務局長を除く。)」を「課長及び室長以上(事務局長を除く。)」の職員に、同項第9号中「主管課長」を「主管課長、企画室長」に改める。

同表人事課関係の項第4号中「事務長」を「室長及び事務長」に改め、同項第19号中「課長、事務長」を「課長、室長及び事務長」に改める。

同表「(学部、教養部、附属図書館関係)」の項を「(学部、附属図書館関係)」に改め、同項第1号、第2号、第5号、第8号、第11号及び第15号中「教養部長」を削る。

同項第16号中「学部長及び教養部長」を「学部長」に改め、「教養部長」を削る。

同項第17号、第21号及び第22号中「教養部長」を削る。

同項第23号及び第24号中「聴講生」を「科目等履修生、聴講生」に改め、「教養部長」を削る。

(富山大学公印管理規則の一部改正)

第25条 富山大学公印管理規則(昭和48年4月13日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第4項中「学部長、教養部長」を「学部長」に改める。

別表第1中

事務局	富山大学の印	ミリメートル平方 73	庶務課長	文書係長	卒業証書用
	富山大学の印				

を

事務局	富山大学の印	ミリメートル平方 73	庶務課長	文書係長	学位記用
	富山大学の印				

に、

工学部	富山大学工学部の印	28	事務長	庶務係長	
	富山大学大学院研究科の印	28			
教養部	富山大学教養部の印	28	事務長	庶務係長	

を

工学部	富山大学工学部の印	28	事務長	庶務係長	
	富山大学大学院研究科の印	28			

に改める。

別表第2中

	富山大学庶務部人事課長の印	20	〃	〃	
--	---------------	----	---	---	--

を

	富山大学庶務部人事課長の印	20	〃	〃	
	富山大学庶務部企画室長の印	20	〃	〃	

に、

工学部	富山大学工学部長の印	30	事務長	庶務係長	
	富山大学工学部事務長の印	20			
	富山大学大学院工学研究科長の印	23			
教養部	富山大学教養部長の印	30	事務長	庶務係長	
	富山大学教養部事務長の印	20			

を

工学部	富山大学工学部長の印	30	事務長	庶務係長	
	富山大学工学部事務長の印	20			
	富山大学大学院工学研究科長の印	23			

に改める。

（富山大学における事務の委任に関する規則の一部改正）

第26条 富山大学における事務の委任に関する規則（昭和55年 9 月27日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条中「，学部長，教養部長」を「，学部長」に改める。

（富山大学組換えDNA実験安全管理規則の一部改正）

第27条 富山大学組換えDNA実験安全管理規則（昭和61年 2 月21日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項中「各学部，教養部」を「各学部」に改める。

第 6 条第 1 項第 1 号中「若干名」を「若干人」に，同項第 2 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に，「各 1 名」を「各 1 人」に改め，同項第 5 号及び第 6 号中「1 名」を「1 人」に改める。

（富山大学学長選考規則の一部改正）

第28条 富山大学学長選考規則（昭和62年 6 月26日制定）の一部を次のように改正する。

第 7 条第 2 項中「，各学部及び教養部」を「，各学部」に，「各 1 名」を「各 1 人」に改め，同条第 6 項中「，当該学部又は教養部」を「，当該学部」に改める。

第11条中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

（富山大学名誉教授称号授与規則の一部改正）

第29条 富山大学名誉教授称号授与規則（昭和33年 4 月25日制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項中「，当該学部長又は教養部長」を「，当該学部長」に改める。

（富山大学職員健康安全管理規則の一部改正）

第30条 富山大学職員健康安全管理規則（昭和51年10月 1 日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項中「，学部，教養部」を「，学部」に改める。

別表第 1 中

工 学 部					
	工学部	工学部	工学部	工学部	工学部及び地域
地域共同研究	事務長	庶務係長	事務長	用度係長	共同研究センタ
セ ン タ ー					ー
教 養 部	事務長	庶務係長	事務長	会計係長	教 養 部

を

工 学 部	工学部	工学部	工学部	工学部	工学部及び地域
地域共同研究	事務長	庶務係長	事務長	用度係長	共同研究センタ
セ ン タ ー					ー

に改める。

（富山大学に勤務する職員の勤務を要しない日等に関する規則の一部改正）

第31条 富山大学に勤務する職員の勤務を要しない日等に関する規則（平成 4 年 5 月 1 日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

別表 2 職員の区分欄中

各学部及び教養部に勤務する職員のうち，教育，研究及び学生指導等の業務に従事する職員（教育学部附属学校教員を除く。）で当該部局長が指定する者

を

各学部に勤務する職員のうち，教育，研究及び学生指導等の業務に従事する職員（教育学部附属学校教員を除く。）で該当部局長が指定する者

に改める。

（富山大学受託研究取扱規則の一部改正）

第32条 富山大学受託研究取扱規則（昭和45年 8 月 7 日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

（富山大学と民間等との共同研究取扱規則の一部改正）

第33条 富山大学と民間等との共同研究取扱規則（昭和59年10月26日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 2 項中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

（富山大学国有財産取扱規則の一部改正）

第34条 富山大学国有財産取扱規則（昭和33年 3 月 7 日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項中「，学部，教養部」を「，学部」に改める。

（富山大学防火管理規則の一部改正）

第35条 富山大学防火管理規則（昭和39年 9 月18日制定）

の一部を次のように改正する。

別表第3第3項第3号中「課長」を「課長、室長」に改める。

（富山大学電気工作物保安規則の一部改正）

第36条 富山大学電気工作物保安規則（昭和41年3月15日制定）の一部を次のように改正する。

第4条第5号中「学部、教養部」を「学部」に改める。

別表第1中

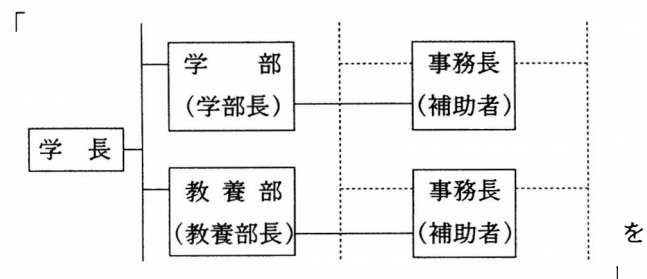
五福団地	富山市五福3190	工学部 教養部	6,600V	別途電気需給 契約による
------	-----------	------------	--------	-----------------

を

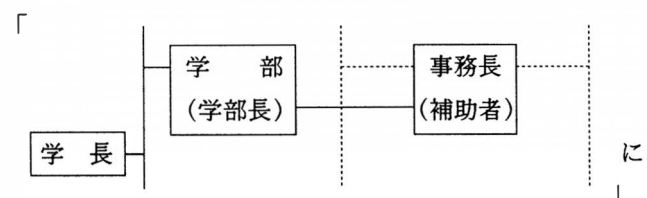
五福団地	富山市五福3190	工学部	6,600V	別途電気需給 契約による
------	-----------	-----	--------	-----------------

に改める。

別表第2中



を



に

改める。

（富山大学水素同位体機能研究センター規則の一部改正）

第37条 富山大学水素同位体機能研究センター規則（平成2年6月8日制定）の一部を次のように改正する。

第6条第1項第3号中「3名」を「3人」に改め、同項第4号中「2名」を「2人」に改め、同項第5号中「教育学部及び教養部」を「教育学部」に、「各1名」を「1人」に改め、同項第6号中「1名」を「1人」に改め、同条第2項中「当該学部、教養部」を「当該学部」に改める。

（富山大学地域共同研究センター規則の一部改正）

第38条 富山大学地域共同研究センター規則（昭和62年5月21日制定）の一部を次のように改正する。

第7条第1項第3号中「4名」を「4人」に改め、同項第4号中「8名」を「8人」に改め、同項第5号中「教育学部、教養部」を「教育学部」に、「各1名」を「各1人」に改め、同条第2項中「当該学部、教養部」を「当該学部」に改める。

（富山大学保健管理センター規則の一部改正）

第39条 富山大学保健管理センター規則（昭和50年5月30日制定）の一部を次のように改正する。

第7条第1項第2号中「各学部長及び教養部長」を「各学部長」に改め、同項第4号中「若干名」を「若干人」に改める。

（富山大学情報処理センター規則の一部改正）

第40条 富山大学情報処理センター規則（昭和59年7月20日制定）の一部を次のように改正する。

第9条第1項第3号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「各学部等（各学部及び教養部をいう。以下同じ。）」を「各学部」に、「当該学部等の長」を「当該学部長」に改める。

（富山大学放射性同位元素委員会規則の一部改正）

第41条 富山大学放射性同位元素委員会規則（昭和40年1月1日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第1号中「学部及び教養部」を「学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同条第2項中「当該学部長又は教養部長」を「当該学部長」に改める。

（富山大学放射性同位元素総合実験室規則の一部改正）

第42条 富山大学放射性同位元素総合実験室規則（昭和40年4月22日制定）の一部を次のように改正する。

第6条第1項第2号中「工学部及び教養部」を「及び工学部」に、「各1名」を「各1人」に改め、同項第3号中「8名」を「8人」に改める。

（富山大学低温液化室運営委員会規則の一部改正）

第43条 富山大学低温液化室運営委員会規則（昭和51年7月27日制定）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第2号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各2名」を「各2人」に改め、同項に次の1号を加える。

(4) その他委員会が必要と認める者 若干人

同条第2項中「第2号」を「第2号及び第4号」に、「各学部長又は教養部長」を「各学部長」に改める。

（富山大学廃液処理施設運営委員会規則の一部改正）

第44条 富山大学廃液処理施設運営委員会規則（昭和61年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 2 号中「学部及び教養部」を「学部」に、「各 2 名」を「各 2 人」に改める。

（富山大学自然観察実習センター規則の一部改正）

第45条 富山大学自然観察実習センター規則（昭和56年 7 月17日制定）の一部を次のように改正する。

第 7 条第 1 項第 2 号中「4 名」を「4 人」に改め、同項第 3 号中「理学部及び教養部」を「理学部」に、「各 2 名」を「2 人」に改め、同条第 2 項中「学部長又は教養部長」を「学部長」に改める。

（富山大学黒田講堂運営規則の一部改正）

第46条 富山大学黒田講堂運営規則（平成 2 年 6 月22日制定）の一部を次のように改正する。

第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各 1 名」を「各 1 人」に改め、同条第 2 項中「当該学部等の長」を「当該学部長」に改める。

（富山大学黒田講堂使用規則の一部改正）

第47条 富山大学黒田講堂使用規則（平成 2 年 6 月22日

制定）の一部を次のように改正する。

第 6 条中「工学部、教養部」を「工学部」に改める。

（富山大学留学生指導相談室規則の一部改正）

第48条 富山大学留学生指導相談室規則（平成 5 年 1 月22日制定）の一部を次のように改正する。

第 4 条第 1 項第 4 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に改める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則施行後、富山大学低温液化室運営委員会規則第 3 条第 1 項第 4 号の委員として最初に任命される委員の任期は、同規則第 3 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 5 年10月19日までとする。

## 富山大学の教育改革に伴う関係要項の整備に関する要項の制定

### 富山大学の教育改革に伴う関係要項の整備に関する要項の制定理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 科目等履修生について規定されたことに伴い、所要事項を改める。
- 3 字句の整理を行う。

### 富山大学の教育改革に伴う関係要項の整備に関する要項

（富山大学五福地区構内交通規制に関する実施要項の一部改正）

第 1 条 富山大学五福地区構内交通規制に関する実施要項（平成 2 年 3 月28日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 2 項中「各学部、教養部」を「各学部」に改める。

（富山大学事務組織等検討委員会要項の一部改正）

第 2 条 富山大学事務組織等検討委員会要項（平成 3 年11月29日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 7 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に改め、同号を第 8 号とする。

同条中第 6 号を 7 号とし、第 5 号を第 6 号とし、第 4 号を第 5 号とし、第 3 号の次に次の 1 号を加える。

#### (4) 企画室長

（富山大学身分証明書発行要項の一部改正）

第 3 条 富山大学身分証明書発行要項（昭和55年 2 月14日制定）の一部を次のように改正する。

工学部及び地域共同研究センター 教養部 附属図書館	501～600 601～700 701～800
---------------------------------	-------------------------------

を

工学部及び地域共同研究センター 附属図書館	501～600 601～700
--------------------------	--------------------

に改める。

（富山大学学報発行要項の一部改正）

第 4 条 富山大学学報発行要項（昭和56年 4 月13日制定）の一部を次のように改正する。

別表原稿作成課等の欄中「本部各課」を「本部各課又は企画室」に改める。

同表中

4 諸会議	(1) 評議会, 大学院委員会, 教養部運営協議会, 補導協議, 附属図書館商議会, その他全学的に組織されている委員会の全部	を
4 諸会議	(1) 評議会, 大学院委員会, その他全学的に組織されている委員会の全部	に,
7 学内諸報	(1) 学長, 学部長, 教養部長等の選出	を
7 学内諸報	(1) 学長, 学部長等の選出	に

改める。

(富山大学綱紀点検調査委員会要項の一部改正)

第 5 条 富山大学綱紀点検調査委員会要項(平成元年 6 月 23 日制定)の一部を次のように改正する。

第 2 条第 5 号中「課長」を「課長, 室長」に改め, 同条第 6 号中「課長補佐」を「課長補佐, 室長補佐」に改める。

別表中

庶務課 (放射性同位元素総合実験室及び低温液化室を含む。)	庶務部長	を	庶務課 (放射性同位元素総合実験室及び低温液化室を含む。)	庶務部長
人事課			人事課	
水素同位体機能研究センター			企画室	
			水素同位体機能研究センター	

学 部		を	学 部	
教 養 部			附属図書館	
附属図書館 (教育学部附属学校及び附属教育実践研究指導センターは教育学部に含む。)	事務長		(教育学部附属学校及び附属教育実践研究指導センターは教育学部に含む。)	事務長

に改める。

(富山大学金庫管守要項の一部改正)

第 6 条 富山大学金庫管守要項(昭和 61 年 10 月 27 日制定)の一部を次のように改正する。

第 2 条中「学部, 教養部」を「学部」に改める。

別表中

工 学 部	経理係金庫	経理係長	を
教 養 部	会計係金庫	会計係長	

工 学 部	経理係金庫	経理係長	に
-------	-------	------	---

改める。

(富山大学債権管理事務取扱要項の一部改正)

第 7 条 富山大学債権管理事務取扱要項(昭和 53 年 9 月 20 日制定)の一部を次のように改正する。

第 6 条第 1 項中「, 各学部及び教養部」を「, 各学部」に改める。

別表第 1 中

授業料債権	1-A	研究生, 聴講生 (以下「研究生等」という。)	当該部局長	当該部局の学務係 (経済学部及び教養部においては教務係)	を
授業料債権	1-A	研究生, 科目等履修生, 聴講生 以下「研究生等」という。)	当該部局長	当該部局の学務係 (経済学部においては教務係)	に,
入学料及び入学検定料債権	1-B -b	研究生等	当該部局長	当該部局の学務係 (経済学部及び教養部においては教務係)	を
入学料及び入学検定料債権	1-B -b	研究生等	当該部局長	当該部局の学務係 (経済学部においては教務係)	に

改める。

別紙第 5 号書式保証書記入上の注意第 7 号中「研究生及び聴講生」を「研究生, 科目等履修生及び聴講生」に改める。

(富山大学支出負担行為等事務取扱要項の一部改正)

第 8 条 富山大学支出負担行為等事務取扱要項(昭和



39年 4 月 1 日制定)の一部を次のように改正する。

別紙 1

経済学部 教養部	1 当該部局の請求に基づく物件費、役務費関係のものうち、事務局及び附属図書館において起案するもの以外の支出負担行為書 2 当該部局に係る工事のうち、予定価格が1件30万円を超えない支出負担行為書 3 当該部局に係る諸謝金及び旅費の支出負担行為書 4 当該部局における外国人留学生、外国派遣留学生の給与の支出負担行為書
-------------	---

を

経済学部	1 経済学部の請求に基づく物件費、役務費関係のものうち、事務局及び附属図書館において起案するもの以外の支出負担行為書 2 経済学部に係る工事のうち、予定価格が1件30万円を超えない支出負担行為書 3 経済学部に係る諸謝金及び旅費の支出負担行為書 4 経済学部における外国人留学生、外国派遣留学生の給与の支出負担行為書
------	---

に改める。

(富山大学奨学寄附金受入れ及び委任経理金経理事務取扱要項の一部改正)

第9条 富山大学奨学寄附金受入れ及び委任経理金経理事務取扱要項(昭和58年 3 月18日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「各学部、教養部」を「各学部」に改める。

(富山大学における購入物品の機種選定に関する取扱要項の一部改正)

第10条 富山大学における購入物品の機種選定に関する

取扱要項(昭和59年12月 1 日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「各学部、教養部」を「各学部」に改める。

(富山大学における大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項の一部改正)

第11条 富山大学における大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項(平成 3 年 6 月28日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「各学部、教養部」を「各学部」に改める。

(富山大学体育施設運営協議会要項の一部改正)

第12条 富山大学体育施設運営協議会要項(昭和62年 2 月16日制定)の一部を次のように改正する。

第3条第2号中「教育学部及び教養部」を「教育学部」に、「各2名」を「2人」に改め、同条第4号中「教育学部及び教養部の事務長」を「教育学部事務長」に改める。

(富山大学職員の財形貯蓄等関係事務取扱要項の一部改正)

第13条 富山大学職員の財形貯蓄等関係事務取扱要項(昭和59年 8 月20日制定)の一部を次のように改正する。

第2項第9号中「学部(工学部にあつては地域共同研究センターを含む。)、教養部」を「学部(工学部にあつては地域共同研究センターを含む。)」に改める。

附 則

この要項は、平成 5 年 4 月 1 日から実施する。

## 富山大学の教育改革に伴う関係内規の整備に関する内規の制定

### 富山大学の教育改革に伴う関係内規の整備に関する内規の制定理由

- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(平成 5 年 3 月31日文部省令第11号)が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 字句の整理を行う。

### 富山大学の教育改革に伴う関係内規の整備に関する内規

(富山大学国際交流委員会学術交流部会内規の一部改正)

第1条 富山大学国際交流委員会学術交流部会内規(昭和62年 7 月17日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1号中「各学部及び教養部各1名」を「各

学部各1人」に改める。

(富山大学国際交流委員会留学生部会内規の一部改正)

第2条 富山大学国際交流委員会留学生部会内規(昭和62年 7 月17日制定)の一部を次のように改正する。

第2条第1項第2号中「各学部及び教養部各1名」を「各学部各1人」に改め、同条第2項中「当該学

部等の長」を「当該学部長」に改める。

(富山大学における予算執行職員の補助者の官職指定に関する内規の一部改正)

第3条 富山大学における予算執行職員の補助者の官職指定に関する内規(昭和61年4月1日制定)の一部を次のように改正する。

別表第1中

事務局 学生部 学部 教養部 附属図書館 水素同位体機能研究センター 地域共同研究センター 保健管理センター	経理部長	<p>本学における支出負担行為(施設課に属するもの及び図書館資料を除く。)に関する次の事務</p> <p>(1) 予定価格調査書案の作成(予定価格が1,000万円以上のもの)</p> <p>(2) 業者の選定に関すること。(予定価格が1,000万円以上のもの)</p>
	主計課長	<p>主計課に属する支出負担行為に関する次の事務</p> <p>(1) 予定価格調査書案の作成(予定価格が1,000万円未満のもの)</p> <p>(2) 業者の選定に関すること。(予定価格が1,000万円のもの)</p> <p>(3) 入札の執行に関すること。</p>

を

事務局 学生部 学部 教養部 附属図書館 水素同位体機能研究センター 地域共同研究センター 保健管理センター	経理部長	<p>本学における支出負担行為(施設課に属するもの及び図書館資料を除く。)に関する次の事務</p> <p>(1) 予定価格調査書案の作成(予定価格1,000万円以上のもの)</p> <p>(2) 業者の選定に関すること。(予定価格が1,000万円以上のもの)</p>
	主計課長	<p>主計課に属する支出負担行為に関する次の事務</p> <p>(1) 予定価格調査書案の作成(予定価格が1,000万円未満のもの)</p> <p>(2) 業者の選定に関すること。(予定価格が1,000万円未満のもの)</p> <p>(3) 入札の執行に関すること。</p>

に改め、「経済学部 教養部」の項中「教養部」を削り、「当該部局」を「経済学部」に改める。

別表第2中

事務局 学生部 学部 教養部 附属図書館 水素同位体機能研究センター 地域共同研究センター 保健管理センター	主計課長	支出負担行為の確認に関すること。
	審計係長	支出負担行為差引簿の登記
	管財係長	土地、建物等財産の買入れ、借入れに係る支出決議書案の作成並びに係書類の収集及び作成に関すること。
	経理課長	支出官印の保管及び押印に関すること。

を

事務局 学生部 学部 教養部 附属図書館 水素同位体機能研究センター 地域共同研究センター 保健管理センター	審計課長	支出負担行為の確認に関すること。
	司計係長	支出負担行為差引簿の登記
	管財係長	土地、建物等財産の買入れ、借入れに係る支出決議書案の作成並びに係書類の収集及び作成に関すること。
	経理課長	支出官印の保管及び押印に関すること。

に改め、「経済学部 教養部」の項中「教養部」を削り、「当該部局」を「経済学部」に改める。

別表第3中

事務局 学生部 学部 教養部 附属図書館 水素同位体機能研究センター 地域共同研究センター 保健管理センター	経理部長	<p>1 予定価格調査書案の作成(予定価格案の作成)に関すること。(予定価格が100万円以上のもの)</p> <p>2 業者の選定に関すること。(予定価格が100万円以上のもの)</p>
	主計課長	<p>主計課に属する支出負担行為に関する次の事務</p> <p>(1) 業者の選定に関すること。(予定価格が100万円未満のもの)</p> <p>(2) 入札の執行に関すること。</p>

を

事務局 学生部 学部 教養部 附属図書館 水素同位体機能研究センター 地域共同研究センター 保健管理センター	経理部長	<p>1 予定価格調査書案の作成(予定価格案の作成)に関すること。(予定価格が100万円以上のもの)</p> <p>2 業者の選定に関すること。(予定価格が100万円以上のもの)</p>
	主計課長	<p>主計課に属する支出負担行為に関する次の事務</p> <p>(1) 業者の選定に関すること。(予定価格が100万円未満のもの)</p> <p>(2) 入札の執行に関すること。</p>

に改める。

別表第 4 中

事務局 学生部 学 部 教 養 部 附属図書館 水素同位 体機能研 究センタ ー 地 域 共同研究 センター 保健管理 センター	施設課長	施設課に属する支出負担行為に 関する次の事務 (1) 業者の選定に関するこ と。 (2) 工事設計の委嘱に関するこ と。
	施設課 課長補佐	施設課に属する支出負担行為に 関する次の事務 (1) 業者の選定に関するこ と。 (2) 見積書の徴取に関するこ と。 (3) 検査及び検査調書の作成に 関すること。

を

事務局 学生部 学 部 附属図書館 水素同位 体機能研 究センタ ー 地 域 共同研究 センター 保健管理 センター	施設課長	施設課に属する支出負担行為に 関する次の事務 (1) 業者の選定に関するこ と。 (2) 工事設計の委嘱に関するこ と。
	施設課 課長補佐	施設課に属する支出負担行為に 関する次の事務 (1) 業者の選定に関するこ と。 (2) 見積書の徴取に関するこ と。 (3) 検査及び検査調書の作成に 関すること。

に改め、「経済学部  
教 養 部」の項中「教養部」を削り、「当該  
部局」を「経済学部」に改め、

事務局 学生部 学 部 教 養 部 附属図書館 水素同位 体機能研 究センタ ー 地 域 共同研究 センター 保健管理 センター	受入係長	図書館資料の支出負担行為に 関する次の事務 (1) 予定価格調書案の作成（予 定価格案の作成、市場価格調 査、予定価格算出内訳書の作 成）に関するこ (2) 業者選定案の作成に関する こと。 (3) 見積書の徴取に関するこ と。 (4) 支出負担行為書案及び関係 書類の作成に関するこ (5) 発注の連絡に関するこ (6) 請書の徴取に関するこ (7) 監督に関するこ。(検査を 行う契約を除く。) (8) 検査及び検査調書の作成に 関すること。(契約金額が200 万円未満のもの)
---	------	---

を

事務局 学生部 学 部 附属図書館 水素同位 体機能研 究センタ ー 地 域 共同研究 センター 保健管理 センター	受入係長	図書館資料の支出負担行為に 関する次の事務 (1) 予定価格調書案の作成（予 定価格案の作成、市場価格調 査、予定価格算出内訳書の作 成）に関するこ (2) 業者選定案の作成に関する こと。 (3) 見積書の徴取に関するこ (4) 支出負担行為書案及び関係 書類の作成に関するこ (5) 発注の連絡に関するこ (6) 請書の徴取に関するこ (7) 監督に関するこ。(検査を 行う契約を除く。) (8) 検査及び検査調書の作成に 関すること。(契約金額が200 万円未満のもの)
--	------	---

に改める。

別表第 5 「経済学部  
教 養 部」の項中「教養部」を削り、「当  
該部局」を「経済学部」に改め、

事務局 学生部 水素同位 体機能研 究センタ ー 保健管理 センター 学 部 教 養 部 附属図書館 地 域 共同研究 センター	受入係長	図書館資料の支出決議書案の作 成並びに関係書類の収集及び作 成に関するこ。
---	------	---

を

事務局 学 生 部 水素同位 体機能研 究センタ ー 保健管理 センター 学 部 附属図書館 地 域 共同研究 センター	受入係長	図書館資料の支出決議書案の作 成並びに関係書類の収集及び作 成に関するこ。
--	------	---

に改める。

（富山大学会計機関の事務の一部を処理させる職員等を定める内規の一部改正）

第4条 富山大学会計機関の事務の一部を処理させる職員等を定める内規（昭和47年5月25日制定）の一部を次のように改正する。

第2条中「，学部，教養部」を「，学部」に改める。

別表第2中

人文学部 理学部	事務長	当該部局における支出負担行為に関する事務のうち、次に掲げるものに関する事務 (1) 予算決算及び会計令第99条の規定によるもの ア 予算価格が1件250万円を超えない工事又は製造 イ 予定価格が1件160万円を超えない財産の買い入れ（学部，教養部及び地域共同研究センターにあっては図書館資料を除く。）ただし，国有財産法第2条に掲げるものを除く。
教育学部 経済学部 教養部 附属図書館	事務長	

を

人文学部 理学部	事務長	当該部局における支出負担行為に関する事務のうち、次に掲げるものに関する事務 (1) 予算決算及び会計令第99条の規定によるもの ア 予算価格が1件250万円を超えない工事又は製造 イ 予定価格が1件160万円を超えない財産の買い入れ（学部及び地域共同研究センターにあっては図書館資料を除く。）ただし，国有財産法第2条に掲げるものを除く。
教育学部 経済学部 附属図書館	事務長	

に改める。

別表第3中

教育学部 経済学部 教養部 附属図書館	事務長	教育学部 経済学部 附属図書館	事務長
------------------------------	-----	-----------------------	-----

改める。

別表第7中

教育学部 経済学部 教養部	事務長補佐	教育学部 経済学部	事務長補佐
---------------------	-------	--------------	-------

改める。

（富山大学における出納官吏等の官職指定に関する内規の一部改正）

第5条 富山大学における出納官吏等の官職指定に関する内規（昭和61年6月12日制定）の一部を次のように改正する。

第2条第1項中「，学部，教養部」を「，学部」に改める。

別表第1中

工学部 地域共同研究センター	経理係長	工学部及び地域共同研究センターに属する給与金及び児童手当の出納保管
教養部	会計係長	教養部に属する給与金及び児童手当の出納保管

を

工学部 地域共同研究センター	経理係長	工学部及び地域共同研究センターに属する給与金及び児童手当の出納保管
-------------------	------	-----------------------------------

に改める。

別表第2中

工学部 地域共同研究センター	経理係長	事務長補佐	工学部に属する歳入金の収納
教養部	会計係長	事務長補佐	教養部に属する歳入金の収納

を

工学部 地域共同研究センター	経理係長	事務長補佐	工学部に属する歳入金の収納
-------------------	------	-------	---------------

に改める。

別表第3中

工学部 地域共同研究センター	経理係長	事務長補佐	工学部及び地域共同研究センターに属する委任経理金の出納保管
教養部	会計係長	事務長補佐	教養部に属する委任経理金の出納保管

を

工学部 地域共同研究センター	経理係長	事務長補佐	工学部及び地域共同研究センターに属する委任経理金の出納保管
-------------------	------	-------	-------------------------------

に改める。

（富山大学科学研究費補助金経理取扱内規の一部改正）

第 6 条 富山大学科学研究費補助金経理取扱内規（昭和 51 年 10 月 27 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

別表中

工 学 部	事 務 長	経 理 係 長
教 養 部	事 務 長	会 計 係 長

」を

工 学 部	事 務 長	経 理 係 長
-------	-------	---------

」に改める。

（富山大学学内会計監査実施内規の一部改正）

第 7 条 富山大学学内会計監査実施内規（昭和 60 年 1 月 18 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 1 項中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

（富山大学体育館使用内規の一部改正）

第 8 条 富山大学体育館使用内規（昭和 62 年 6 月 29 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 4 条中「，教育学部及び教養部の保健体育担当教官」を「，教育学部の保健体育担当教官」に改める。

（富山大学水素同位体機能研究センター自己点検評価委員会内規の一部改正）

第 9 条 富山大学水素同位体機能研究センター自己点検評価委員会内規（平成 4 年 9 月 29 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 3 号中「各 1 名」を「各 1 人」に改め、同項第 4 号中「教育学部，教養部」を「教育学部」に、「1 名」を「1 人」に改める。

（富山大学地域共同研究センター自己点検評価委員会内規の一部改正）

第 10 条 富山大学地域共同研究センター自己点検評価委員会内規（平成 4 年 9 月 30 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 3 号中「4 名」を「4 人」に改め、同項第 4 号中「2 名」を「2 人」に改め、同項第 5 号中「教育学部，教養部」を「教育学部」に、「1 名」を「1 人」に改める。

（富山大学情報処理センター自己点検評価委員会内規の一部改正）

第 11 条 富山大学情報処理センター自己点検評価委員会内規（平成 4 年 9 月 21 日 制定）の一部を次のように改

正する。

第 3 条第 1 項第 3 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各 1 名」を「各 1 人」に改める。

（富山大学放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会内規の一部改正）

第 12 条 富山大学放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会内規（平成 4 年 9 月 29 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 3 号中「，工学部及び教養部」を「及び工学部」に、「各 1 名」を「各 1 人」に改める。

（富山大学低温液化室自己点検評価委員会内規の一部改正）

第 13 条 富山大学低温液化室自己点検評価委員会内規（平成 4 年 9 月 29 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 3 条第 1 項第 2 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各 1 名」を「各 1 人」に改める。

（富山大学廃液処理施設自己点検評価委員会内規の一部改正）

第 14 条 富山大学廃液処理施設自己点検評価委員会内規（平成 4 年 12 月 14 日 制定）の一部を次のように改正する。第 3 条第 1 項第 2 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各 1 名」を「各 1 人」に改める。

## 附 則

この内規は、平成 5 年 4 月 1 日から実施する。

## 富山大学学則の一部改正

### 富山大学学則の改正理由

- 1 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日文部省令第 10 号）が施行され、人文学部の人文学科及び語学文学科が人文学科，国際文化学科及び言語文化学科に，理学部の数学科，物理学科，化学科，生物学科及び地球科学科が，従来の 5 学科に，新たに生物圏環境科学科を加えて，6 学科に改組されたことに伴い，所要事項を改める。
- 2 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日文部省令第 11 号）が施行され，教養部が廃止されたことに伴い，所要事項を改める。
- 3 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（平成 5 年 4 月 1 日文部省令第 18 号）の施行に伴い，所要事項を改める。
- 4 平成 3 年 6 月 24 日付け文高大第 184 号文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき，所要事項を改める。
- 5 人文学部及び理学部の各学科及び教育学部の情報教育課程が，教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）に基づき，教員の免許状の所要資格を得させるための課程として認定されたことに伴い，所要事項を改める。
- 6 字句の整備を図る。

富山大学学則の一部を改正する学則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学学則の一部を改正する学則

富山大学学則（昭和 59 年 3 月 12 日制定）の一部を次のように改正する。

第 1 条の次に次の 1 条を加える。

（自己評価等）

第 1 条の 2 本学は，その教育研究水準の向上を図り，前条の目的及び社会的使命を達成するため，本学における教育研究活動等の状況について自ら点検評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制等については，別に定める。

「第 2 章 学部，教養部及び大学院等」を「第 2 章 学部及び大学院等」に改める。

第 2 条第 1 項中「，語学文学科」を「，国際文化学科，言語文化学科」に，「，地球科学科」を「，地球科学科，生物圏環境科学科」に改める。

第 3 条を次のように改める。

第 3 条 削除

第 4 条中「各学部及び教養部」を「各学部」に改める。

第 15 条中「，教養部に教養部長を置く。」を「置く。」に改める。

第 17 条中「各学部及び教養部」を「各学部」に改める。

第 22 条を次のように改める。

（修業年限）

第 22 条 本学の修業年限は，4 年とする。

第 29 条第 2 項ただし書を削る。

第 30 条及び第 31 条を次のように改める。

（教育課程の編成方針）

第 30 条 教育課程は，本学，学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し，体系的に課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては，学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに，幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い，豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

（教育課程の編成方法等）

第 31 条 授業科目は，各授業科目を必修科目，選択科目及び自由科目に分け，これを各年次に配当して編成するものとする。

2 授業科目は，専門科目，教養科目及び共通基礎科目とする。

3 前項に規定する授業科目は，専門科目を専攻科目及び専門基礎科目に，教養科目を教養原論及び総合科目に，共通基礎科目を外国語科目，保健体育科目，情報処理科目及び言語表現科目に分けるものとする。

- 4 教養科目及び共通基礎科目の授業は、全学で行い、専門科目の授業は、各学部が行う。

第32条の見出しを「(履修方法等)」に改め、同条中「課程」を「教育課程」に、「各学部及び教養部」を「各学部」に改める。

第33条及び第34条を次のように改める。

(他学部における授業科目の履修)

第33条 学部において、教育上有益と認めるときは、他の学部との協議に基づき、学生が学部において履修した授業科目について修得した単位を、教育課程終了に要する修得単位として認定することができる。

(他の大学又は外国の大学における授業科目の履修等)

第34条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学(短期大学を含む。)又は外国の大学(短期大学を含む。)との協議に基づき、学生が当該大学において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で、学部の定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第34条の次に次の1条を加える。

(大学以外の教育施設等における学修)

第34条の2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

第35条及び第36条を次のように改める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第35条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学(短期大学を含む。)又は外国の大学(短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を

除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

(単位計算方法)

第36条 各授業科目の単位数は、1単位の授業時間を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準によるものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

第37条に次のただし書を加える。

ただし、前条第2項に規定する授業科目については、学修の成果を評価して単位を授与することができる。

第39条中「当該学部長又は教養部長」を「当該学部長」に改める。

第40条中「当該学部長又は教養部長」を「当該学部長」に改める。

第43条及び第44条中「当該学部長又は教養部長」を「当該学部長」に改める。

第46条中「当該学部長又は教養部長」を「当該学部長」に改める。

「第14章 研究生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生」を「第14章 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生」に改める。

第55条の次に次の1条を加える。

(科目等履修生)

第55条の2 本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、教育に支障のない場合に限り、科目等履修生として入学を許可し、単位を授与することができる。

2 科目等履修生を志願することのできる者は、第25条の各号の一に該当する者とする。

- 3 科目等履修生の入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別の理由がある場合は、この限りでない。
- 第59条中「研究生」を「研究生、科目等履修生」に改



める。

第62条（見出しを含む。）中「研究生」を「研究生、科目等履修生」に改める。

別表第 1 を次のように改める。（別添 1 のとおり）

別表第 2 人文学部の部を次のように改める。

人文学部	人文学科	70人	280人
	国際文化学科	40	160
	言語文化学科	95	380
	計	205	820

同表理学部の部を次のように改める。

理学部	数学科	53	212
	物理学科	47	188
	化学科	38	152
	生物学科	40	160
	地球科学科	32	128
	生物圏環境科学科	30	120
	計	240	960

同表中

合	計	1,512	6,048
---	---	-------	-------

を

合	計	1,532	6,128
---	---	-------	-------

に改める。

別表第 3 を次のように改める。（別添 2 のとおり）

別表第 4 中

研 究 生	8,000円	69,000円	月額	22,900円
-------	--------	---------	----	---------

を

研 究 生	8,000円	69,000円	月額	22,900円
科 目 等 履 修 生	8,000円	23,000円	1単位ごとに	11,500円

に改める。

附 則

- この学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 4 年度以前の入学者については、改正後の学則第 22 条、第 30 条、第 31 条、第 32 条、第 35 条、第 36 条及び別表第 3 の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、改正前の学則第 31 条第 3 項に規定する一般教育課程における授業は、全学で行う。

3 学部において必要と認める場合には、前項の規定にかかわらず、改正後の学則第 36 条の規定を、平成 4 年度以前の入学者にも適用することができる。

4 学部において必要と認める場合には、平成 4 年度以前の入学者に、改正後の学則第 31 条及び第 32 条の規定に基づき開設される授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の学則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を授与することができる。

5 別表第 2 に定める収容定員は、平成 5 年度から平成 7 年度までは、次のとおりとする。

学 部	学 科 等	平成5年度	平成6年度	平成7年度
人文学部	人文学科	355人	330人	305人
	国際文化学科	40	80	120
	言語文化学科	95	190	285
	計	490	600	710
教育学部	小学校教員養成課程	400	400	400
	中学校教員養成課程	200	200	200
	養護学校教員養成課程	80	80	80
	幼稚園教員養成課程	120	120	120
	情報教育課程	160	160	160
	計	960	960	960
経済学部	経済学科			
	昼間主コース	636	636	636
	夜間主コース	80		
	経営学科			
	昼間主コース	496	496	496
	夜間主コース	80	80	80
	経営法学科			
	昼間主コース	408	408	408
理学部	夜間主コース	80	80	80
	計	1,780	1,780	1,780
	数学科	202	212	212
	物理学科	188	188	188
	化学科	167	162	157
	生物学科	155	160	165
	地球科学科	128	128	128
	生物圏環境科学科	30	60	90
工学科	計	870	910	940
	電子情報工学科	528	528	528
	機械システム工学科	404	404	404
	物質工学科	332	332	332
	化学生物工学科	344	344	344
	計	1,608	1,608	1,608
合 計		5,708	5,858	5,998

6 平成 5 年 3 月 31 日における人文学部語学文学科については、平成 5 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が当該学科に在学なくなる日までの間、存続するものとする。

## 別表第 1

別添 1

## 人文学部

## 人文学科

△人間基礎論

△歴史文化

△行動文化

## 国際文化学科

△環境地域論

△国際文化関係論

## 言語文化学科

△日本東洋言語文化

△英米言語文化

△ヨーロッパ言語文化

## 経済学部

## 経済学科

△理論経済学

△比較経済論

△政策科学

△応用経済学

## 経営学科

△経営学

△応用経営

△管理科学

## 経営法学科

△基礎法

△民事法

△企業関係法

## 教育学部

小学校教員養成課程・中学校教員養成課程・養護学校  
教員養成課程・幼稚園教員養成課程・情報教育課程

## 国語学

## 国文学

## 書道

## 国語科教育

日本語・日本事情

## 歴史学

## 地理学

## 法律学

## 社会学

## 経済学

## 社会科教育

代数学及び幾何学

解析学及び応用数学

美術理論・美術史

## 美術科教育

## 体育実技

生理学及び衛生学

## 学校保健

体育理論・体育史

## 保健体育科教育

## 木材加工

## 電気

## 機械

## 技術科教育

## 食物学

## 被服学

## 家庭管理

## 家庭科教育

## 農業

## 英語学

## 英米文学

## 数学科教育

## 物理学

## 化学

## 生物学

## 地学

## 理科教育

## 声楽

## 器楽

## 作曲

## 音楽科教育

## 絵画

## 彫塑

## 構成

## 英語科教育

ドイツ語

## 障害児教育

## 障害児心理

## 障害児病理

## 幼児教育

## 幼児心理

保育内容の研究

## 教育学

## 教育史

## 教育制度

## 教育社会学

## 教育心理学

## 発達心理学

## 教育情報科学

## 環境科学

## 理学部

## 数学科

△数理解析

△情報数理

## 物理学科

△物性物理学

△量子物理学

## 化学科

△反応物性化学

△合成有機化学

## 生物学科

△生体構造学

△生体制御学

## 地球科学科

△地球圏物理学

△地球進化学

## 生物圏環境科学科

△環境化学計測

△生物圏機能

## 工学部

## 電子情報工学科

△電気システム工学

△物性デバイス工学

△計算機工学

△基礎情報工学

△知識情報工学

## 機械システム工学科

△強度設計工学

△熱流体システム工学

△生産システム工学

△制御システム工学

△機械情報システム工学

## 物質工学科

△物質化学工学

△機能性材料工学

△材料設計工学

△材料物性工学

## 化学生物工学科

△生物反応化学

△生物プロセス工学

△生体分子化学

△細胞工学

備考 △印を付するものは修士講座である。

別表第 3

別添 2

学 部 名	学 科 等 名	免 許 状 の 種 類	免 許 教 科
人文学部	人文学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	公民
	国際文化学科	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
	言語文化学科	中学校教諭一種免許状	国語
		中学校教諭一種免許状	英語
		中学校教諭一種免許状	中国語
		中学校教諭一種免許状	ドイツ語
		高等学校教諭一種免許状	国語
		高等学校教諭一種免許状	英語
		高等学校教諭一種免許状	中国語
		高等学校教諭一種免許状	ドイツ語
教育学部	小学校教員 養成課程	小学校教諭一種免許状	国語
		中学校教諭一種免許状	
	中学校教員 養成課程	中学校教諭一種免許状	社会
		中学校教諭一種免許状	数学
	養護学校教員 養成課程	中学校教諭一種免許状	理科
		中学校教諭一種免許状	音楽
	幼稚園教員 養成課程	中学校教諭一種免許状	美術
		中学校教諭一種免許状	保健体育
		中学校教諭一種免許状	家庭
		中学校教諭一種免許状	英語
		中学校教諭一種免許状	技術
		高等学校教諭一種免許状	国語
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	音楽
		高等学校教諭一種免許状	美術
		高等学校教諭一種免許状	書道
		高等学校教諭一種免許状	保健体育
		高等学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	英語
		養護学校教諭一種免許状	
		幼稚園教諭一種免許状	
	情報教育課程	中学校教諭一種免許状	数学
		中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	理科

経済学部	経済学科 (昼間主コース)	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	商業
	経済学科 (夜間主コース)	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	商業
	経営学科 (昼間主コース)	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	商業
	経営学科 (夜間主コース)	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		高等学校教諭一種免許状	公民
		高等学校教諭一種免許状	商業
	経営法学科 (昼間主コース)	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史
	経営法学科 (夜間主コース)	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
理 学 部	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学
	物理学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	化学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	生物学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
工 学 部	地球科学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	生物圏環境科学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	電子情報工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
		高等学校教諭一種免許状	工業
	機械システム工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
		高等学校教諭一種免許状	工業
	物質工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
		高等学校教諭一種免許状	工業
	化学生物工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
		高等学校教諭一種免許状	工業

## 富山大学人文学部規則の一部改正

### 富山大学人文学部規則の改正理由

- 1 人文学科及び語学文学科を人文学科、国際文化学科及び言語文化学科に改組したことに伴い、所要事項を改める。
- 2 平成 3 年 6 月 24 日 付け文高大第 184 号 文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき、所要事項を改める。

富山大学人文学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学人文学部規則の一部を改正する規則

富山大学人文学部規則（昭和 52 年 5 月 16 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「卒業及び聴講生等」を「卒業、科目等履修生及び聴講生等」に改める。

第 2 条中「語学文学科」を「国際文化学科  
言語文化学科」に改める。

第 3 条から第 6 条までを次のように改める。

（授業科目及び単位数、卒業に必要な修得単位数、履修期間）

第 3 条 授業科目は、教養科目、共通基礎科目及び専門科目とする。

2 開設する授業科目及びその単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

第 4 条 学生は、卒業に必要な修得単位数として別表Ⅱに定めるところにより、124 単位を修得しなければならない。

2 単位の修得方法は、別に定めるところによる。

第 5 条 履修期間は 4 年とし、これを 8 学期に分け、各学期の期間は 15 週以上とする。

（単位の計算方法）

第 6 条 各授業科目の単位数は、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (2) 演習及び購読については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、授業科目によっては 30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 実験及び実習の授業については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、授業科目によっては 45 時間の授業をもって 1 単位とする。

第 7 条の前に見出しとして「(履修届等)」を付する。

第 10 条の見出し中「課程」を「教育課程」に改める。

第 12 条中「課程」を「教育課程」に改める。

第 13 条第 2 項中「一般教育課程を終え、専門教育課程移行の時期」を「2 学年の始め」に改める。

第 14 条中「専門教育課程全期間」を「6 学期間」に改める。

第 16 条の前の見出し中「(聴講生)」を「(科目等履修生、聴講生)」に改め、同条中「聴講生」を「科目等履修生又は聴講生（以下「科目等履修生等」という。）」に改める。

第 17 条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

同条第 2 項中「聴講期間」を「履修期間」に改める。

第 18 条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

第 20 条中「認められた者」を「認められた者及び科目等履修生」に改める。

第 21 条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

別表中「別表」を「別表（第 3 条第 2 項関係）」に改め、同表を別表 1 とし、同表の次に次の 1 表を加える。（別添 1 及び別添 2 のとおり）

### 附 則

- 1 この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 4 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表Ⅰ（第3条第2項関係）

別添1

## 授業科目及び単位数

## 教養科目及び共通基礎科目

区 分	主 題 等	授 業 科 目	単位数
教 養 科 目	人 文 系 科 目	思想と倫理	哲学のすすめ 2 人間と倫理 2
		心理と教育	こころの科学 2 教育と社会 2
		歴史の世界	日本の歴史と社会 2 東洋の歴史と社会 2 西洋の歴史と社会 2
		文学の世界	日本文学 2 外国文学 2
		言語と文化	言語と文化 2
		芸術の世界	音楽 2 美術 2
	社 会 系 科 目	社会理論と現代	社会科学の方法と理論 2 現代社会論Ⅰ 2 現代社会論Ⅱ 2
		法と政治	日本国憲法 2 国家と政治 2 経済生活と法 2 市民生活と法 2
		産業と経済	経済・経営データを読む 2 企業と仕事 2 世界経済の過去と現在 2 日本の経済と産業 2 日本の企業経営 2
		地域と生活	地域の社会と文化 2 富山の経済と社会 2
	自 然 系 科 目	地球と環境	地球の構造と活動 2 地球の環境 2
		生命の世界	生命のしくみ 2 生命と環境 2
		自然の構造	宇宙の構造 2 化学物質の世界 2 物質の構造 2 量子の世界 2
		数理の世界	自然と数理 2 社会と数理 2 情報と数理 2
	技 術 系 科 目	機械の力学	2
		生産のための技術	2
		電気・電子機器	2
		材料の科学	2
	生 活 系 科 目	生活の科学	2
		睡眠の科学	2
	情 報 系 科 目	園芸	2
		情報の科学	コンピュータの話 2
	教養原論演習		2又は4

教 養 科 目	総 合 科 目	環境	2
		生と死	2
教 養 科 目	総 合 科 目	ジェンダー(性)	2
		心と身体	2
教 養 科 目	総 合 科 目	技術と社会	2
		現代文化	2
教 養 科 目	総 合 科 目	生活と福祉	2
		人権と差別	2
教 養 科 目	総 合 科 目	環 日 本 海	2
		科学と社会	2
教 養 科 目	総 合 科 目	現代の社会(時事的問題)	2
		日本事情	6
共 通 基 礎 科 目	外 国 語 科 目	英語 A	4
		英語 B	4
		ドイツ語 A	4
		ドイツ語 B	4
		フランス語 A	4
		フランス語 B	4
		中国語 A	4
		中国語 B	4
		ロシア語 A	4
		ロシア語 B	4
		朝鮮語 A	4
		朝鮮語 B	4
		ラテン語 B	2
		日本語 A	4
		日本語 B	4
	保 育 健 科 目	健康・スポーツ論	3
		健康・スポーツ演習	2
		健康スポーツ	4
	情 報 科 目	情報処理	2
		言語表現	2

## 専 門 科 目

## 人文学科

授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数
人間基礎論入門	4	西洋史実習	2
人文学基礎論	2	西洋史基礎演習	4
哲学概論	4	文化構造概論	4
西洋哲学史Ⅰ	4	文化構造実習	2
西洋哲学史Ⅱ	2	文化構造演習	12
西洋哲学史Ⅲ	4	文化構造講読	4
東洋思想史	6	文化構造特殊講義	18
倫理思想	4	生活文化史	2
宗教思想	2	芸術文化史	2
美学	2	美学	2
現代と思想	4	美術史	2
比較思想	2	行動文化入門	4
哲学特殊講義	6	行動文化研究法	2
人間学特殊講義	6	行動文化特殊講義	6
哲学演習	10	言語学概論	4
人間学演習	10	音声学	4
哲学講読	6	言語学実験実習	2
人間学講読	6	言語学演習	16
論理学	2	言語学特殊講義	18
西洋古典語Ⅰ	4	個別言語論	4
西洋古典語Ⅱ	4	心理学概論	4
日本史概説	8	心理学実験Ⅰ	4
日本史特殊講義	12	心理学実験Ⅱ	4
日本史演習	20	心理学演習	12
日本史実習	4	心理学特殊講義	16
日本史史料講読	4	心理学研究法	2
日本史基礎演習	4	社会学概論	4
古文書学実習	4	社会学実習	4
史学概論	2	社会経済史	4
史学史	2	社会学演習	8
東西交流史特殊講義	2	社会学講読	8
東アジア交流史特殊講義	2	社会学特殊講義	18
文書館学	2	社会学調査方法論	4
文書館学実習	3	法制史	2
歴史学入門	2	社会教育概論	2
世界史序説	4	教育原理	2
東洋史概説	8	卒業研究	10
東洋史特殊講義	12		
東洋史演習	24		
東洋史実習	2		
東洋史基礎演習	4		
西洋史概説	8		
西洋史特殊講義	12		
西洋史演習	28		

## 国際文化学科

授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数
環境地域論入門	2	比較社会論講読	4
国際文化概論	2	比較社会論実習	2
考古学概論	4	環日本海文化関係論	4
考古学特殊講義	20	ヨーロッパ文化関係論	4
考古学演習	8	国際文化関係論	8
考古学講読	2	比較文化論	8
考古学実習	6	国際文化関係論実習	4
環境地域論演習	4	日中文化関係論演習	12
環境地域論講読	2	日中文化関係論講読	12
都市研究	2	日中文化関係論特殊講義	12
国際地域研究（地誌学）	2	中国語会話	8
マイノリティ研究	2	中国語作文	4
国際社会研究（政治学）	2	日ロ文化関係論演習	12
民俗学	2	日ロ文化関係論講読	8
地球環境研究（自然地理学）	2	日ロ文化関係論特殊講義	10
国際動態研究	2	ロシア語表現	8
人文地理学概論	4	ロシア語会話	6
人文地理学特殊講義	12	比較文学概論	8
人文地理学演習	8	比較文学演習	12
人文地理学講読	4	比較文学講読	12
人文地理学実習	5	比較文化特殊講義	12
文化人類学概論	2	国際文化概論	2
文化人類学特殊講義	10	イタリア文学	2
文化人類学演習	8	博物館学	4
文化人類学講読	4	博物館実習	3
文化人類学実習	3	視聴覚教育	2
自然人類学	2	卒業研究	10
比較社会概論	2		
比較社会論特殊講義	8		
比較社会論演習	8		

## 別表Ⅱ（第4条関係）

別添 2

## 言語文化学科

## 卒業に必要な修得単位数

授 業 科 目	単 位 数	授 業 科 目	単 位 数
日本語文化演習	12	英米文化論	4
日本語文化講読	10	英語講読	4
日本語文化特殊講義	20	英語コミュニケーション(作文)	4
日本語学概論	4	英語コミュニケーション(会話)	4
日本文学史	8	アメリカ文学史	4
日本文化論	4	アメリカ言語文化特殊講義	8
言語文化概論	2	アメリカ言語文化講読	8
書道史	4	アメリカ言語文化演習	8
朝鮮言語文化演習	8	専門基礎ドイツ語	2
朝鮮言語文化講読	8	ドイツ言語文化演習	18
朝鮮言語文化概論	10	ドイツ言語文化講読	18
朝鮮言語文化特殊講義	10	ドイツ文化論	4
朝鮮語会話	10	ドイツ文学史	8
朝鮮語作文	2	ドイツ言語文化特殊講義	10
朝鮮史	2	ドイツ語会話	10
朝鮮学入門	2	ドイツ語作文	4
中国学入門	2	専門基礎フランス語	2
中国言語文化演習	8	フランス言語文化演習	12
中国言語文化講読	8	フランス言語文化講読	12
中国言語文化概論	10	フランス文化論	4
中国言語文化特殊講義	20	フランス言語文化特殊講義	10
中国語会話	8	比較言語文化講読	4
中国語作文	4	ロシア言語文化演習	12
イギリス文学史	4	ロシア言語文化講読	12
イギリス言語文化特殊講義	8	ロシア文化論	4
イギリス言語文化講読	8	ロシア言語文化特殊講義	12
イギリス言語文化演習	8	ロシア語会話	6
英語史	2	専門基礎ロシア語	2
英文法	2	卒業研究	10
英語学特殊講義	8		
英語学講読	8		
英語学演習	8		

区 分		人文学科・国際文化学科・言語文化学科		
		必 修	選 択	自 由
教 養 科 目	教 養 原 論	12		10
	総 合 科 目	6		
共 通 基 礎 科 目	外 国 語 科 目 （ 2 ケ 国 語 ）	8		
	保健体育科目	2		
	情報処理科目	2		
	言語表現科目			
専 門 科 目		84		
計		124		

1

教養原論は、人文、社会、自然の各系列から、各2単位以上、計12単位を修得すること。

2

外国語は、2ヶ国語各4単位計8単位を修得すること。

3

外国人留学生に対し、日本事情及び日本語に関する科目を開講しているが、修得方法は別に定める。

4

自由単位には上記のほか他学部の専門科目も含めることができる。



## 富山大学教育学部規則の一部改正

### 富山大学教育学部規則の改正理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成5年3月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 平成3年6月24日付け大高第184号文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき、所要事項を改める。
- 3 情報教育課程が、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に基づき、教員の免許状の所要資格を得させるための課程として認定されたことに伴い、所要事項を改める。
- 4 国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（平成5年4月1日文部省令第18号）の施行に伴い、所要事項を改める。
- 5 字句の整備を図る。

富山大学教育学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成5年4月1日

富山大学長 小黑 千足

### 富山大学教育学部規則の一部を改正する規則

富山大学教育学部規則（昭和27年4月18日制定）の一部を次のように改正する。

第4条を次のように改める。

第4条 教養科目及び共通基礎科目の履修は、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の定めるところによる。ただし、次の科目は必ず修得しなければならない。

（教養原論）	日本国憲法	2単位
（保健体育科目）	健康スポーツ	1単位
	健康・スポーツ論又は 健康・スポーツ演習	1単位

2 専門科目の履修は、別表Ⅱから別表Ⅵに示すとおりとする。

第3条を削る。

第2条の見出しを「(授業科目及び履修方法)」に改め、同条中「別表Ⅰ」を「別表Ⅰ(イ)及び(ロ)」に改め、同条を第3条とする。

第1条を第2条とし、第1条として次の1条を加える。  
(趣 旨)

第1条 この規則は、富山大学学則（以下「学則」という。）第2条第2項の規定に基づき、富山大学教育学部（以下「本学部」という。）の授業科目、履修、試験、卒業及び科目等履修生等に関する事項を定める。  
第5条を削る。

第6条第1項中「他の大学又は外国の大学」を「他の大学（短期大学を含む。）又は外国の大学（短期大学を含む。）」に改め、同条第3項中「本学部の単位として認定する」を「本学部における授業科目の履修により修得したものとみなす」に改め、同条を第5条とし、同条の次に次の2条を加える。

（大学以外の教育施設等における学修）

第6条 学則第34条の2第1項の規定により、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部大臣が定める学修を、本学部における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数については、前条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第6条の2 学則第35条第1項の規定により、本学部入学前に大学（短期大学を含む。）又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、教授会の議を経て、本学部入学後の本学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学則第35条第2項の規定により、本学部入学前に行った前条第1項に規定する学修を、本学部における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、富山大学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

第10条の見出しを「(転学部、転課程及び転専攻(コース))」に改め、同条中「、転入学及び編入学」を「及び転専攻(コース)(以下「転学部等」という。)」に改める。

第11条第1項中「、転課程、転入学」を「等」に、「一般教育課程を終了したとき」を「2年次の始め」に改め、同条第2項を削り、同条第1項の次に次の2項を加える。

2 転学部等を願い出る者は、教養科目及び共通基礎科目を合計16単位以上修得していなければならない。

3 転学部等を許可された者は、許可された課程又は専攻(コース)に3年以上在学することを原則とする。

第12条第1項中「、転課程」を「等」に改め、同条第2項を削り、同条第1項の次に次の1項を加える。

2 転学部等の選考は、教授会が行う。

第13条及び第14条を削り、第12条の次に次の2条を加える。

(再入学、編入学、転入学)

第13条 定員に余裕があるときは、選考の上、再入学、編入学及び転入学(以下「再入学等」という。)を許可することができる。

第14条 再入学等を出願する者は、学部長を経て、学長あてに(1)再(編・転)入学願 (2)在学する大学の受験許可書(在職者は所属長の承認書) (3)履歴書 (4)成績証明書(人物所見を含む。) (5)健康診断書を提出しなければならない。

2 再入学等の選考は、教授会が行う。

3 再入学等を許可する者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教

授会において認定する。

第15条に「(教育専攻科)」の見出しを加える。

第16条の見出しを「(科目等履修生及び聴講生)」に改め、同条中「聴講を出願する者は、(1)聴講願」を「科目等履修生及び聴講生(以下「科目等履修生等」という。)を志願する者は、(1)科目等履修(聴講)願」に、「(3)健康診断証明書」を「(3)健康診断書」に改める。

第17条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

第19条を削る。

第18条第1項中「聴講生」を「科目等履修生等」に改め、同条の次に次の1条を加える。

第18条の2 第7条及び第9条の規定は、科目等履修生に準用する。

第19条の2第2項中「第16条及び第19条」を「第7条、第9条及び第16条」に改め、同条を第19条とする。

第20条中「それぞれの課程において」を「教育職員免許法施行規則に定める」に改める。

第21条の見出し及び同条中「専門科目」を「科目」に改め、同条中「別表Xのうちから履修しなければならない。」を「別表Xに示すとおりとする。」に改める。別表I(イ)、I(ロ)、II(イ)、II(ロ)、III(イ)、III(ロ)、IV、V、VI、X及びXを次のように改める。(別添のとおり)

#### 附 則

1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。

2 平成4年度以前の入学生については、なお従前の例による。

#### 別表I(イ)

小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護学校教員養成課程、幼稚園教員養成課程

課 程  授 業 科目の区分		小 学 校 教 員 程		中学校教員 養成課程	養 護 学 校 教 員 程			幼稚園教員 養成課程
		教 育 学 教育心理学	専攻 教科専攻		第一類	第 二 類		
						第1群	第2群	
科教 目養	教 養 原 論	12						
	総 合 科 目	6						
科共 通 基 礎 目礎	外 国 語 科 目	8 (2ヶ国語各4)						
	保 健 体 育 科 目	2						
	情 報 処 理 科 目	2						
	言 語 表 現 科 目							
小 計		30						

専 門 科 目	教 科	専 攻 科 目		12	40		24	20	
		基 本 科 目	18	16		10			16
		計	18	28	40	10	24	20	16
	教 職	第二欄 別 表 II (イ) に よ る	12	12	8	12	8		12
		第三欄 教科教育法	18	18	2	12	2		
		道徳教育	2	2	2	2	2		
		特別活動	2	2	2	2	2		
		第五欄 生徒指導・ 教育相談・ 進路指導	2	2	2	2	2		
		第六欄 教育実習	5	5	4	5	4		5
		教育学・教育心理学	10						
		計	51	41	20	35	20		17
	特 殊 教 育 (別表 V による)					23	23		
	幼 稚 園 教 育 (別表 V による)								30
	特 別 研 究		10	10	10	10	10		10
	小 計		79	79	70	78	77	73	73
	自 由 選 択		21	21	30	22	23	27	27
	合 計		130		130		130		130

## 備考 1 養護学校教員養成課程

(1) 第一類は、小学校教諭普通免許状を取得する課程である。

第二類は、中学校教諭普通免許状を取得する課程である。

(2) 第1群は、社会、理科、家庭及び技術を専攻する場合を示す。

第2群は、国語、数学、音楽、美術、保健体育及び英語を専攻する場合を示す。

2 幼稚園教育の30単位には、教育職員免許法施行規則第6条の表の第四欄に定める、教職に関する科目の最低修得単位18単位を含むものとする。

3 「第二欄」、「第三欄」等は、教育職員免許法施行規則第6条の表の規定である。

4 自由選択に、教養科目及び共通基礎科目の単位を10単位まで含むことができる。

## 別表 I (ロ)

## 情報教育課程

課 程		情 報 教 育
授 業 科目の区分		課 程
教科	教 養 原 論	12
養目	総 合 科 目	6
共科	外 国 語 科 目	8 (2ヶ国語各4)
通	保 健 体 育 科 目	2
基	情 報 処 理 科 目	2
礎	言 語 表 現 科 目	
小 計		30
専	専 攻 科 目 (別表 VI による)	50
門	特 別 研 究	10
科	小 計	60
目	自 由 選 択	40
合 計		130

備考 自由選択に、教養科目及び共通基礎科目の単位を10単位まで含むことができる。

別表Ⅱ(イ)

## 教 職 に 関 する 科 目

免許法施行規則 に定める科目 区分等	授 業 科 目	開 設 単 位	小学校教員 養成課程		中学校教員 養成課程		養 護 学 校 教 員 養 成 課 程				幼稚園教員 養成課程	
			必	選	必	選	第 一 類		第 二 類		必	選
教育の本質及び 目標に関する科目 (A群)	教 育 哲 学	2		2		2		2		2		2
	西 洋 教 育 史	4		2		2		2		2		2
	日 本 教 育 史	4		2		2		2		2		2
	幼児教育学概論	2		2		2		2		2	2	
	○教育学基礎論	2										
幼児・児童又は生徒の心身 の発達及び学習の過程 に関する科目 (B群)	*児 童 心 理 学	2		2		2		2		2		2
	*青 年 心 理 学	2		2		2		2		2		2
	幼児心理学概論	2		2		2		2		2	2	
	○教育心理学	2										
教育に係る社会的、 制度的又は経営的 な事項に関する科目 (C群)	教 育 社 会 学	4		2		2		2		2		2
	社 会 教 育	2		2		2		2		2		2
	教 育 制 度	2		2	8	2	4	2	8	2	4	2
	教 育 行 政	2		2		2		2		2		2
	教 育 経 営	2		2		2		2		2		2
	*学級経営の心理	2		2		2		2		2		2
	○教育社会心理学	2										
教育の方法及び 技術（情報機器 及び教材の活用 を含む。）に関する 科目 (D群)	教 育 課 程	2		2		2		2		2		2
	学 習 指 導	4		2		2		2		2		2
	授 業 研 究	2		2		2		2		2		2
	教 育 工 学	2		2		2		2		2		2
	視 聴 覚 教 育	2		2		2		2		2		2
	教育情報科学	2		2		2		2		2		2
	*学 習 心 理 学	2		2		2		2		2		2
	○教育方法学概論	2										
A・C群を包括する科目	教 育 学 概 論	2	2		2		2		2		2	
B・D群を包括する科目	教育心理学概論	2	2		2		2		2		2	
教科教育法に関する科目	別 表 Ⅱ (ロ) 参 照		18		2		12		2			
道德教育に関する科目	道 徳 教 育 論	2	2		2		2		2			
特別活動に関する科目	特 別 活 動 論	2	2		2		2		2			
教育課程一般に関する科目	別 表 Ⅴ 参 照											
保育内容に関する科目											18	
指導法に関する科目												
生徒指導及び教育相談 に関する科目	生徒指導論(小)	2	2				2					
生徒指導、教育相談及び 進路指導に関する科目	生徒指導論(中)	2			2				2			
教 育 実 習 (事前及び事後の指導1単位を含む)	教 育 実 習	5	5		4		5		4		5	
計			33	8	16	4	27	8	16	4	31	4
			41		20		35		20		35	

備考 1 小学校教員養成課程及び養護学校教員養成課程（第一類）の選択8単位には、\*印を付した授業科目の単位（1科目2単位以上）を含むものとする。

2 小学校教員養成課程の教育学及び教育心理学専攻の学生のための専門科目は、別表Ⅲによる。

3 ○印を付した授業科目は、他の学部学生専用の開設授業科目である。

## 別表Ⅱ(ロ)

## 教科教育法に関する科目

小学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(第一類)		中学校教員養成課程 養護学校教員養成課程(第二類)	
授 業 科 目	開設 単位	授 業 科 目	開設 単位
国語科教育法(小)	2	国語科教育法(中)	2
社会科教育法(小)	2	社会科教育法(中)	2
算数科教育法(小)	2	数学科教育法(中)	2
理科教育法(小)	2	理科教育法(中)	2
生活科教育法(小)	2	音楽科教育法(中)	2
音楽科教育法(小)	2	美術科教育法(中)	2
図画工作科教育法(小)	2	保健体育科教育法(中)	2
家庭科教育法(小)	2	技術科教育法(中)	2
体育科教育法(小)	2	家庭科教育法(中)	2
		英語科教育法(中)	2
		地理歴史科教育法	2
		公民科教育法	2
		書道科教育法	2
計	18	計	26

備考 指定以外のものは、自由単位として認定する。

## (2) 養護学校教員養成課程(第一類)

上記の小学校教員養成課程の教科専門科目のうち5以上の教科に関する科目(音楽、図画工作及び体育の教科に関する科目のうち1以上を含む。)についてそれぞれ2単位以上を修得するものとする。

なお、これは小学校教諭の2種免許状取得に必要な単位数である。

## (3) 幼稚園教員養成課程

教 科	授 業 科 目	必	選
音 楽	音 楽 通 論	2	
	ソルフェージュ	1	
	ピアノ奏法	1	
図画工作	図 画 工 作 I	1	
	図 画 工 作 II	1	
	素 描 演 習		1
	絵 画 演 習		1
	塑 造		1
	彫 刻		1
	デザイン(立体)		1
	デザイン(平面)		1
	木 工 芸 演 習		1
体 育	基 本 体 育 I	1	
	基 本 体 育 II	1	
	体 育 生 理 学		2
	救急処置・看護法		2
	発 育 学		2
国 語	基 本 国 語	2	
算 数	基 本 数 学	2	> (2教科)
生 活	基 本 生 活	2	

## 別表Ⅲ

## 教科に関する科目

## (イ) 基本科目

## (1) 小学校教員養成課程

教 科	授 業 科 目	必
国 語	基 本 国 語	2
社 会	基 本 社 会	2
算 数	基 本 数 学	2
理 科	基 本 理 科	2
生 活	基 本 生 活	2
音 楽	ソルフェージュ	1
	ピアノ奏法	1
図画工作	図 画 工 作 I	1
	図 画 工 作 II	1
体 育	基 本 体 育 I	1
	基 本 体 育 II	1
家 庭	基 本 家 庭	2

## (ロ) 専攻教科

国 語 専 攻										
学 科 目	専 門 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程		中 学 校 教 員 養 成 課 程		養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 第 二 類		幼 稚 園 教 員 養 成 課 程
				必	選	必	選	必	選	
										選
国 語 学  国 文 学  書 道  国 語 科 教 育  日 本 語 ・ 日 本 事 情	国 語 学	国 語 史	4				2 } 2	2	2	
		国 語 学 各 論	6				2 } 2	4		
		国 語 学 演 習	6			2		4		
		* 国 語 表 現 論	2	2		2		2		
		国 語 学 概 論	2	2		2		2		
		国 語 学 特 別 講 義	2					2		
	国 文 学	日 本 文 学 史	8	2		2	2 } 2	4	2	
		日本文学各論Ⅰ(古典)	6		2 } 2	2	2 } 2	4	2	
		日本文学各論Ⅱ(近代)	6		2 } 2		2 } 2	4	2	
		日本文学演習Ⅰ(古典)	6			1		5		
		日本文学演習Ⅱ(近代)	6			1		5		
		文 学 概 論	2					2		
		日本文学特別講義	4					4	2	
	漢 文 学	中 国 文 学 史	4			2	2 } 2		2 } 2	
		漢 文 学 概 論	4			2	2 } 2		2 } 2	
	書 道	書 道 史	4			2		2		
		* 書 道 各 論	4					4		
		書 法 Ⅰ ( 楷 書 )	6	1		1		5	1	
		書 法 Ⅱ ( 行 書 )	6	1		1		5	1	
		書 法 Ⅲ ( 草 書 )	3				1 } 2	2	1 } 2	
		書 法 Ⅲ ( かな )	3				1 } 2	2	1 } 2	
		書 法 Ⅲ ( 策 隸 )	6				1 } 2	5	1 } 2	
		書 道 特 別 講 義	4					4		
	国語科教育	国語教育概説	2	2			2 } 2			
		国語教育各論	4				2 } 2	2		
		国語教育演習	4					4		
	基本科目	* 基 本 国 語	2							2
	特設科目									
計				116	10	2	20	10	16	4
					12			40	20	2
特 別 研 究				必 修 10 単 位						

備考 1 \*印の授業科目のうち

「国語表現論」は《「音声言語」及び「文章表現」に関するものを含む》科目である。

「書道各論」は《「書論」及び「鑑賞」を含む》科目である。

「基本国語」は《「書写」及び「書写教育」を含む》科目である。

2 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

		社 会 専 攻										養護学校教員 養 成 課 程 第 二 類				
学 科 目	専 門 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小学校教員 養 成 課 程 必 選	中 学 校 教 員 養 成 課 程											
					共通 必修	歴 史 必 選		地 理 必 選		法律・社会・経済 必 選		必	選			
歴史学	日 本 史 及 び 外 国 史	日 本 史 学 概 論	2	2	2									2		
		日 本 史 学 各 論 I	2	2		2		2				2		2		
		日 本 史 学 各 論 II	2	2				2		2		2		2		
		日 本 史 学 演 習	4		> 4			* 2	2		4		4			
		東 洋 史 学	2	2	2									2	> 2	
		西 洋 史 学 概 論	2	2	2								2			
		西 洋 史 学 各 論 I	2	2		2		2				2		2		
		西 洋 史 学 各 論 II	2	2				2		2		2		2		
		西 洋 史 学 演 習	4					* 2	2		4		4			
		史 学 概 論	2					2		2		2		2		
		考 古 学	2				2		2				2			
地理学	地 理 学	地 理 学 総 論 I	2	2	2									2		
		地 理 学 総 論 II	2	2	> 4	2									2	
		地 誌 学 I	4	4	2			2		2			2	2		
		地 誌 学 II	4				2		2	2		2		4	2	
		人文地理学各論 I	2					2		2			2		2	
		人文地理学各論 II	2					2		2			2		2	
		人文地理学各論 III	2					2		2			2			
		人文地理学各論 IV	2					2		2			2			
		自然地理学各論 I	2				2		2				2		2	
		自然地理学各論 II	2				2		2				2			
		地理学演習 I (巡検を含む。)	5						5		* 3	2		5		
		地理学演習 II (巡検を含む。)	5						5		* 3	2		5		
		地 図 学	2						2		2			2		
法学	法 律 学 政 治 学	法 学 概 論 (国憲法を含む。)	2	2	2									2		
		憲 法	2	2				2		2	2					
		法 律 学 各 論	2					2		2			2			
		法 律 学 演 習	4					4		4		* 2	2			
		政 治 学 (国憲政治を含む。)	2	2				2		2	2				2	
社会学	社 会 学 経 済 学	社 会 学 概 論 I	2	2	2									2		
		社 会 学 概 論 II	2	2	> 4			2		2	2				2	
		社 会 学 各 論 I	2					2		2			2			
		社 会 学 各 論 II	2					2		2			2		> 2	
		社 会 学 各 論 III	2					2		2			2			
		社 会 学 演 習	4					4		4		* 2	2			
		経 済 原 論 I (国憲経済を含む。)	2	2	2									2		
		経 済 原 論 II	2	2				2		2	2				2	
		経 済 政 策	2					2		2			2			
		経 済 史	2					2		2			2			
		国 民 所 得 論	2					2		2			2			
		経 済 学 演 習	4						4		4		* 2	2		



社会 科 教 育	哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学	哲 学	2			2									2		
		哲 学 各 論 I	2					2			2			2			
		哲 学 各 論 II	2					2			2			2			
		哲 学 演 習	4					4			4			4			
		倫 理 学	2			2									2		
		宗 教 学	2					2			2			2			
		心 理 学 概 論	2					2			2	2					
		社 会 心 理 学	2					2			2	2					
		認 知 心 理 学	2					2			2			2			
	社会科教育	社会科教育演習(地理歴史)	2					2			2			2			
		社会科教育演習(公 民)	2					2			2			2			
		社会科特別講義(地理歴史)	4					4			4			4			
		社会科特別講義(公 民)	4					4			4			4			
	基本科目	基 本 社 会	2														
特設科目																	
計			136		12	22	12	2	4	12	3 (巡検1を 含む)	3	12	2	4	18	6
				12		40				40		40		40		24	
特 別 研 究			必 修 10 単 位														

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

\* いずれか1科目を履修する。

		数 学		専 攻							
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程		中 学 校 教 員 養 成 課 程			養護学校教員 養 成 課 程		幼稚園教員 養 成 課 程
									第 二 類		
				必	選	必	選		必	選	選
代数学及び幾何学	代 数 学	線 形 代 数 学	2			2					
		代 数 学 I	4		4	4			4		
		代 数 学 II	2				2			2	
		代 数 学 III	2					2			
		整 数 論	2					2			
	幾 何 学	幾 何 概 論	2			2					
		幾 何 学 I	4		4	4			4		
		幾 何 学 II	2				2			2	
		幾 何 学 III	2					2			
		位 相 幾 何 学	2					2			

解析学及び応用数学 数学科教育	解析学	解析学Ⅰ	4		4	4			4		
		解析学Ⅱ	4			2	2				
		解析学Ⅲ	2					2			
		関数解析	4					4			
	確率論, 統計学	確率論	2				2			2	
		統計学	2		2	2			2		
	コンピュータ	コンピュータ	2		2	2			2		
	応用数学	応用数学Ⅰ	4					4			
		応用数学Ⅱ	2					2			
		応用数学Ⅲ	2					2			
	数学科教育	数学科教育各論	2					2			
		数学特別講義	8					8			
	基本科目	基本数学	2								2
	特設科目										
計			64		12	22	6		16	4	
					12		40	12	20		2
特 別 研 究			必 修 10 単 位								

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

理 科 専 攻															養護学校教員 養成課程 第二類
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小学校教員 養成課程		中 学 校 教 員 養 成 課 程									
						物 理		化 学		生 物		地 学			
				必	選	必	選	必	選	必	選	必	選	必	
物 理 学	物 理 学	一 般 物 理 学Ⅰ	2	2			2		2		2		2	2	
		一 般 物 理 学Ⅱ	2		2	2		2		2		2		2	
		一 般 物 理 学Ⅲ	2		2	2		2		2		2			
		物 理 学 各 論Ⅰ	2			2		2		2		2			
		物 理 学 各 論Ⅱ	2			2		2		2		2			
		物 理 学 各 論Ⅲ	2				2		2		2		2		
		物 理 学 各 論Ⅳ	2				2		2		2		2		
		物 理 学 各 論Ⅴ	2				2		2		2		2		
		物 理 学 演 習	2			2		2		2		2			
		物理学特別講義	2				2		2		2		2		
		物理学実験Ⅰ	2		2	2		2		2		2		2	
		物理学実験Ⅱ	2			2		2		2		2			
	化 学	化 学 総 論Ⅰ	2	2		2		2		2		2		2	
		化 学 総 論Ⅱ	2		2	2		2		2		2		2	

化学  
--

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

音 楽 専 攻											養護学校教員 養成課程		幼稚園教員 養成課程
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程		中 学 校 教 員 養 成 課 程			第 二 類				
				必	選	必	選		必	選	必		
声 楽	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	3	2									
		ソルフェージュⅡ	3			2		1	2				
声 楽		独 唱 法 Ⅰ	5	2									
		独 唱 法 Ⅱ	2			2			2				
		独 唱 法 Ⅲ	3				2	1	2				
器 楽		合 唱 法	4	1		2		2	2				
		ピ ア ノ 奏 法 Ⅰ	5	2			> * 2			> * 2			
		ピ ア ノ 奏 法 Ⅱ	2			2			2				
		ピ ア ノ 奏 法 Ⅲ	3				2	1	2				
		弦 楽 器 奏 法	5				5	5		5			
		管 楽 器 奏 法	3				3	> 2	3 > 8		3 > 2		
		打 楽 器 奏 法	2				2	2		2			
		合 奏 法	3	1		2		1	2				
		指 揮 法	指 揮 法	2	1		2			2			
		音 楽 科 教 育	音楽理論、 作曲法 及び 音楽史	音 楽 理 論 Ⅰ	1	1		1			1		
音 楽 理 論 Ⅱ	2							2					
作 曲 法 Ⅰ	1					1			1				
作 曲 法 Ⅱ	2							2					
作 曲 法 Ⅲ	2							2					
作 曲 法 Ⅳ	2							2					
音 楽 史 Ⅰ	2			2		2			2				
音 楽 史 Ⅱ	2							2					
音楽科教育	音 楽 史 Ⅲ		2					2					
	音楽科教育各論		2					2					
	音楽特別講義		4					4					
基本科目	音 楽 通 論		2									2	
	ソルフェージュ		1									1	
	ピ ア ノ 奏 法	1									1		
	特設科目												
計			71	12		16	4		16	4			
				12			20		20		4		
特 別 研 究				必 修		10	単 位						

備考 1 \* いずれか1科目(2単位)を修得する。

2 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

図 画 工 作 ・ 美 術 専 攻												
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程		中 学 校 教 員 養 成 課 程			養護学校教員 養 成 課 程 第 二 類		幼稚園教員 養 成 課 程	
				必	選	必	選		必	選	必	選
絵 画 彫 塑 構 成  美 術 理 論 ・ 美 術 史  美 術 科 教 育	絵 画	素 描	10		2	1		9	1			
		素 描 演 習	5		1	1		4	1			1
		絵 画	5		2	1		4	1			
		絵 画 演 習	5		1	1		4	1			1
		版 画	2		1	1		1				
		絵 画 技 法 演 習	2					2				
	彫 刻	塑 造	10		2	2		8	2			1
		彫 刻	10		2	2	2		8	2		1
		彫 刻 技 法 演 習	2		1	1	1		1			
	デザイン	デザイン理論	2		2			2				> 2
		デザイン(立体)	4		1	2		2	2			1
		デザイン(平面)	2		1	2			2			1
		色彩学演習	2		1	1		1				
		総合造形	4		1			4				
		環境情報デザイン	4		1			4				
	工 芸	工 芸理論	2		2			2				
		木 工 芸	6		2	2		4	2			
		木 工 芸 演 習	2		1			2				1
		金 属 工 芸	2					2	1			
		陶 芸	4			2		2	1			
		図法及び製図	4		1	1		3				
	美術理論 および 美術史	美学概論	4		2	2		2	2			
		日本美術史	4		2		2		2			
		東洋美術史	2				2			2		
		西洋美術史	4		2		2			2		
		美術理論・美術史演習	2			1		1				
		美術解剖学	2					2				
	美術科教育	美術科教育各論	2					2				
		美術科教育演習	2					2				
	基本科目	図 画 工 作 I	1									1
		図 画 工 作 II	1									1
	特設科目											
計			113		12	23	2		18	2	2	2
							15					
					12		40		20		4	
特 別 研 究					必 修 10 単 位							

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

体 育 ・ 保 健 体 育 専 攻										
学 科 目	専 門 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程		中 学 校 教 員 養 成 課 程		養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	
				必	選	必	選	第 二 類 必	必	選
体 育 実 技   										

保健体育科教育	保健体育教育論	2		2		2			
	保健体育特別演習	2	2		2				
	保健体育特別講義	10				10			
基本科目	基 本 体 育 I	1						1	
	基 本 体 育 II	1						1	
特設科目									
計		93	2	10	24	16	20	2	2
			12		40			4	
特 別 研 究		必 修 10 単 位							

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

家 庭 専 攻											養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	
学 科 目	専 門 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程		中 学 校 教 員 養 成 課 程			第 二 類			
				必	選	必	選		必	選		
食 物 学	家庭経営学	家 庭 管 理 学	2					2				
		家庭管理学実験	1					1				
		家 族 関 係 学	2	2		2			2			
		家 庭 経 済 学	2		2	2			2			
		家 政 学 原 論	2		2			2				
被 服 学	被 服 学	被 服 材 料 学	2	2		2			2			
		被 服 整 理 学 I	2					2				
		被 服 整 理 学 II	2					2				
		被 服 構 成 学 I	2		2	2	┌ └ 2		2	┌ └ 2		
		被 服 構 成 学 II	2			2		2	2		2	
		被 服 衛 生 学	2			2			2			
		被 服 材 料 学 実 験	1		1	1	┌ └ 1					
		被 服 整 理 学 実 験 I	1			1						
		被 服 整 理 学 実 験 II	1			1						
		被 服 構 成 学 実 験	1		1	1						
		被 服 衛 生 学 実 験	1					1				
		被 服 構 成 学 実 習 I	1	1		1			1			
		被 服 構 成 学 実 習 II	1					1				
		被 服 構 成 学 実 習 III	1					1				
		衣 文 化 論	2					2				
		食 物 学	米 養 学 I	2	2		2			2		
			米 養 学 II	2					2			



家庭 科 教 育	家庭管理	食物学	食 品 学 I	2		2	2				
			食 品 学 II	2					2		
			食 品 衛 生 学	2				$\frac{2}{2} > 2$			$\frac{2}{2} > 2$
			調 理 科 学	2		2		$\frac{2}{2}$			$\frac{2}{2}$
			栄 養 学 演 習 I	1					1		
			栄 養 学 演 習 II	1					1		
			食 品 学 実 験 I	1		1	1				
			食 品 学 実 験 II	1					1		
			食 品 衛 生 学 実 験	1					1		
			調 理 科 学 実 験	1		1	1			1	
			調 理 I	1	1		1			1	
			調 理 II	1					1		
			調 理 III	1					1		
			食 文 化 論	2					2		
	家庭科教育	住居学	住 居 学 I	2	2		2			2	
			住 居 学 II	2					2		
			住居学実 験 I	1				$\frac{1}{1} > 1$			
			住居学実 験 II	1				$\frac{1}{1}$			
			家 庭 工 作	1					1		
			製 図	1		1	1			1	
保育学		保育学 I (家庭科を含む)	2		2	2			2		
		保 育 学 II	2					2			
家庭電気・機械		家庭電気・機械	2		2	2			2		
		家庭電気・機械実習	1					1			
	情 報 処 理	2					2				
家庭科教育	家庭科教育各論	2					2				
	家庭科教育演習	2					2				
	家庭科特別講義	6					6				
基本科目	基 本 家 庭	2									
特設科目											
計				83	10	2	22	6	20	4	
							12				
					12		40		24		
特 別 研 究				必 修 10 単 位							

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)、基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

技 術 専 攻							養 護 学 校 教 員 養 成 課 程 第 二 類 必
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	中 学 校 教 員 養 成 課 程			
				必	選		
木 材 加 工	木材加工	図 学 ・ 製 図	2	2			2
		木 材 加 工 学	2			2	
		木材加工・同実習	2	2			2
	金属加工	金 属 加 工 学	2			2	
		金属加工・同実習	2	2			2
	機 械	機 械 工 学 概 論	4	4			4
		材 料 力 学	2		2	> 2	
		工 業 力 学	2		2		
		工 業 熱 力 学	2				2
		機 構 学	2		2		
		機 械 設 計 法	2				2
		機 械 工 作 法	2		2		
		機 械 材 料	2			2	
		機 械 工 学 演 習	2	1		1	1
		機械工学実験・実習	2	1		1	1
機 電 気	電 気 工 学 概 論	4	4			4	
	電 気 磁 気 学	2		2	> 2		
	電 気 回 路	2		2			
	電 子 工 学	4		2		2	
	電 気 機 器 学	2		2			
	電 力 応 用	2			2		
	電 気 工 学 演 習	2	1		1	1	
	電 気 工 学 実 習	2	1		1	1	
	電 気 工 学 実 験	2			2		
農 業	栽 培	栽 培 学	2	2		2	
		園 芸 学	2			2	
		作 物 学	2			2	
		応 用 昆 虫 学	2			2	
		土 壌 肥 料 学	2			2	
		栽培学・同実習	2	2			2
	栽 培 学 実 験	1			1		
技 術 科 教 育	情報基礎	情 報 基 礎 概 論	4			4	
		情報基礎・同実習	2	2			2
	技術科教育	技 術 科 教 育 概 論	2			2	
		技術科教育演習	2			2	
	職業指導	職 業 指 導 原 理	4			4	
		技 術 科 特 別 講 義	8			8	
	特設科目						

計	89	24	4		24
				12	
		40			
特 別 研 究	必 修 10 単 位				

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)に示す。

英 語 専 攻						養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	中学校教員養成課程		第 二 類	
				必	選	必	選
英 語 学	英 語 学	英 語 音 声 学	4	2	2	2	2
		英 文 法	4	2	2	2	
		英 語 史	2		2	2	
		英 語 学 演 習	5	1	4	5	
		英 語 学 講 読	5	1	4	5	
英 米 文 学	英米文学	英 文 学 史	4	2	2		4
		米 文 学 史	2		2		2
		英 米 文 学 演 習	7	1	6		7
		英 米 文 学 講 読Ⅰ	5	1	4	1	4
		英 米 文 学 講 読Ⅱ	5	1	4	1	4
		英 米 文 学 講 読Ⅲ	5	1	4	1	4
英 語 科 教 育	英語コミュニ ケーション	英 会 話Ⅰ (オーラルコミュニケーション)	5	2	3	2	
		英 会 話Ⅱ (オーラルコミュニケーション)	4	1	3	1	
		英 作 文Ⅰ	5	2	3	2	
		英 作 文Ⅱ	4	1	3	1	
ド イ ツ 語	比較文化	異文化理解と外国事情	4	2	2	2	
	英語科教育	英 語 教 育 各 論	2		2		
		英 語 教 育 演 習	3		3		
		英語科特別講義	10		10		
		言 語 学 概 論	2		2		
		ド イ ツ 語 中 級	4		4		
	特設科目						
計			91	20	20	15	5
				40		20	
特 別 研 究			必 修 10 単 位				

備考 教科教育法は、別表Ⅱ(ロ)に示す。

教 育 学 専 攻					
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程	
				必	選
教育学	教育哲学・ 教育史	教 育 哲 学	2		2
		西 洋 教 育 史	4		4
		日 本 教 育 史	4		4
教育史	教育制度	教 育 制 度	2		2
		教 育 行 政	2		2
		教 育 財 政	2		2
		教 育 法 規	2		2
		教 育 経 営	2		2
教育社会学	教育社会学	教 育 社 会 学	4		4
		社 会 教 育	2		2
		教 育 調 査	2		2
		図 書 館 学	2		2
教育方法	教育方法	教 育 課 程	2		2
		学 習 指 導	4		4
		視 聴 覚 教 育	2		2
		教 育 工 学	2		2
		授 業 研 究	2		2
教育社会学		教育学特別講義	4		4
		教育学文献講読	2		1
		教 育 学 演 習	4	2	
特設科目					
計			52	2	8
				10	
特 別 研 究			必 修 10 単 位		

備考 専攻科目は、別表Ⅱ(イ)の教職に関する科目(A～D群)として履修した授業科目以外のものから履修するものとする。

教 育 心 理 学 専 攻					
学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	小 学 校 教 員 養 成 課 程	
				必	選
教 育 心 理 学	教育心理学	学級経営の心理	2		2
		学 習 心 理 学	2		2
		社 会 心 理 学	2		2
		人 格 心 理 学	2		2
		精 神 保 健 学	2		2
		精神遅滞児心理学	2		2
		臨 床 心 理 学	2		2
		教 育 統 計	2		2
		教育心理学特別講義	2		2
		教育心理学演習	2	1	1
発 達 心 理 学	発達心理学	児 童 心 理 学	2		2
		青 年 心 理 学	2		2
		発達心理学各論	2		2
		発達心理学特別講義	2		2
		発達心理学演習	2	1	
		教育心理学実験Ⅰ	2	1	
		教育心理学実験Ⅱ	2	1	
心 理 学 研 究 法		2	2		
特設科目					
計			36	6	4
				10	
特 別 研 究			必 修 10 単 位		

備考 専攻科目は、別表Ⅱ(イ)の教職に関する科目(A～D群)として履修した授業科目以外のものから履修するものとする。

別表Ⅳ

## 特 殊 教 育 専 攻

学 科 目	専 門 科 目 区 分 等	授 業 科 目	開 設 単 位	第一類・第二類	
				必	選
障害児教育	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育の本質及び目標に関する科目	障 害 児 教 育 原 論	2	2	
		障 害 児 教 育 特 別 講 義	2		2
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育に係る社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目	精 神 遅 滞 児 教 育 概 論	2	2	
		精 神 遅 滞 児 教 育 特 別 講 義	2		2
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	障 害 児 心 理 学	2		2
		障 害 児 心 理 学 各 論	2		2
		精 神 遅 滞 児 心 理 学	2	2	
		精 神 遅 滞 心 理 学 各 論	2		2

障 害 児 病 理		障 害 児 心 理 学 実 験	2		2	> 4
		障 害 児 心 理 学 演 習	2		2	
		精 神 遅 滞 児 心 理 学 演 習	2		2	
		障 害 児 心 理 研 究 法	2		2	
		神 経 生 理 学	2	2		
		精 神 遅 滞 児 臨 床	2	2		
		肢 体 不 自 由 児 臨 床	2		2	
		児 童 ・ 青 年 精 神 医 学	2		2	
		精 神 保 健 学	2		2	
		障 害 児 の 病 理 ・ 保 健 演 習 I	2		2	
	障 害 児 の 病 理 ・ 保 健 演 習 II	2		2		
	心 身 に 障 害 の あ る 幼 児 ， 児 童 又 は 生 徒 の 教 育 課 程 及 び 指 導 法 に 関 す る 科 目	精 神 遅 滞 児 教 育 課 程 論	2	2		
		精 神 遅 滞 児 教 育 指 導 法	2	2		
		精 神 遅 滞 児 教 育 指 導 法 特 別 講 義	2		2	
		言 語 障 害 児 療 育	2		2	
		精 神 遅 滞 児 の 心 理 診 断 実 習	1	1		
		障 害 児 教 育 演 習	1	1		
	心 身 に 障 害 の あ る 幼 児 ， 児 童 又 は 生 徒 に つ い て の 教 育 実 習	精 神 遅 滞 児 教 育 実 習	3	3		
		社 会 福 祉 概 論	2		2	
		児 童 心 理 学	2		2	
		臨 床 心 理 学	2		2	
		幼 児 教 育 方 法 論	2		2	
		救 急 処 置 ・ 看 護 法	2		2	
	特 設 科 目					
計			61	19	4	
			23			
特 別 研 究			必 修 10 単 位			

別表V

## 幼 稚 園 教 育 専 攻

学科目	専門科目区分等	授 業 科 目	開設単位	必	選	
幼 児 教 育	幼 児 教 育 幼 児 心 理	幼 児 教 育 学 演 習	2	2		
		幼 児 教 育 学 特 別 講 義	2			2
		幼 児 心 理 学 演 習	2	2		
		幼 児 心 理 学 研 究 法	2		2	
		幼 児 心 理 学 特 別 講 義	2		2	2
		幼 児 臨 床 心 理 学	2		2	
		幼 児 心 理 学 実 験	1			1
		幼 児 の 環 境 と 文 化	2			2
		幼 児 教 育 史	2		2	

心 幼	理 児	家 庭 教 育 論	2		> 2	2
		幼 児 教 育 方 法 論	2		2	
保 育 内 容 の 研 究	教 育 課 程 一 般 に 関 する 科 目	幼 児 教 育 課 程 論	2	2		
		保 育 内 容 総 論	2	2		
	保 育 内 容 に 関 する 科 目	保 育 内 容「心身の健康」Ⅰ	2	2		
		保 育 内 容「心身の健康」Ⅱ	1		1	
		保 育 内 容「人とのかかわり」	2	2		
		保 育 内 容「環境とのかかわり」	2	2		
		保 育 内 容「こ と ば 」	2	2	> 1	
		保 育 内 容「感性と表現」Ⅰ	1	1		
		保 育 内 容「感性と表現」Ⅱ	2	2		
		保 育 内 容「感性と表現」Ⅲ	2			2
		保 育 内 容「感性と表現」Ⅳ	1		1	
		保 育 内 容 特 別 演 習	2			2
		保 育 内 容 特 別 講 義	2			2
	指 導 法 に 関 する 科 目	指 導 法 ( 保 育 方 法 ) の 研 究	2	2		
	特 設 科 目					
計			46	21	5	4
				30		
特 別 研 究			必 修 10 単 位			

備考 基本科目は、別表Ⅲ(イ)に一覧で示す。

別表Ⅵ

## 情 報 教 育 課 程

学 科 目	授 業 科 目	開設 単位	教育情報コース		環境情報コース	
			必	選	必	選
教 育 情 報 科 学	計算機概論	2	2		2	
	情報処理Ⅰ（情報処理概論）	2	2		2	
	情報処理Ⅱ（基礎プログラミング）	2	2		2	
	情報処理Ⅲ（応用プログラミング）	2		2		
	情報処理演習Ⅰ	2		2		
	情報処理演習Ⅱ	2		2		
	情報科学Ⅰ（基礎情報理論）	2	2			
	情報科学Ⅱ（データ構造とアルゴリズム）	2	2			
	情報科学Ⅲ（オペレーティングシステム）	2		2		
	情報科学Ⅳ（コンピュータグラフィックス）	2		2		
	教育情報科学Ⅰ（教育情報科学概論）	2	2			
	教育情報科学Ⅱ（教育情報処理）	2		2		
	教育情報科学Ⅲ（教育測定・評価）	2		2		
	教育情報科学Ⅳ（教育工学）	2		2		

環境科学	教育情報科学講究	8	8		
	教育システム科学Ⅰ	2	2		
	教育システム科学Ⅱ	2		2	
	教育情報学	2		2	
	教育情報学演習	4		4	
	認知科学Ⅰ（認知科学概論）	2	2		
	認知科学Ⅱ（認知科学基礎）	2		2	
	認知科学Ⅲ（認知科学応用）	2		2	
	生体情報システムⅠ	2		2	
	生体情報システムⅡ	2		2	
	基礎数学Ⅰ	2		2	
	基礎数学Ⅱ	2		2	
	情報数学Ⅰ	2		2	
	情報数学Ⅱ	2		2	
	情報幾何学Ⅰ（集合位相論）	2		2	
	情報幾何学Ⅱ（基礎グラフ理論）	2		2	
	情報幾何学Ⅲ（応用グラフ理論）	2		2	
	応用解析Ⅰ（応用数学）	2		2	
	応用解析Ⅱ（力学系基礎）	2		2	
	応用解析Ⅲ（数値解析）	2		2	
	計画数理Ⅰ	2		2	
	計画数理Ⅱ	2		2	
	環境科学概論	2			2
	環境科学Ⅰ（生物環境）	2			2
	環境科学Ⅱ（地球環境）	2			2
	環境科学Ⅲ（化学環境）	2			2
	環境科学Ⅳ（物理環境）	2			2
	環境科学実験Ⅰ（生物系）	2			2
	環境科学実験Ⅱ（地学系）	2			2
	環境科学実験Ⅲ（化学系）	2			2
	環境科学実験Ⅳ（物理系）	2			2
	自然環境論演習Ⅰ（生物系）	2			2
	自然環境論演習Ⅱ（地学系）	2			2
	自然環境論演習Ⅲ（化学系）	2			2
	自然環境論演習Ⅳ（物理系）	2			2
	自然環境野外実習	2			2
	*ボランティア概論	2			2
	*ボランティア活動	2			2
	環境科学特論Ⅰ	2			2
	環境科学特論Ⅱ	2			2
	環境科学特別講義	8			8
	*地域環境論Ⅰ	2			2
	*地域環境論Ⅱ	2			2
	*生活環境論Ⅰ	2			2



*生活環境論Ⅱ	2				2
*環境デザイン	2				2
*科学技術史	2				2
一般物理学Ⅱ	2				2
一般物理学Ⅲ	2				2
化学総論Ⅰ	2				2
化学総論Ⅱ	2				2
生物学総論Ⅰ	2				2
生物学総論Ⅱ	2				2
地学総論Ⅰ	2				2
地学総論Ⅱ	2				2
*特設科目					
計	152	24	26	24	26
		50		50	
*特 別 研 究	必 修 10 単 位				

備考 \*印の授業科目は、教育職員免許状を取得するための教科に関する科目とすることができない。

別表Ⅸ

取得できる免許状の種類

課 程	免 許 状 の 種 類	
小学校教員養成課程	小 学 校 教 諭 1 種 免 許 状	
中学校教員養成課程	中学校教諭1種免許状の教科	高等学校教諭1種免許状の教科
	国 語 社 会 数 学 理 科 音 楽 美 術 保健体育 技 術 家 庭 英 語	国 語 地 理 歴 史 公 民 数 学 理 科 音 楽 美 術 書 道 保健体育 家 庭 英 語
養護学校教員養成課程	養 護 学 校 教 諭 1 種 免 許 状	
幼稚園教員養成課程	幼 稚 園 教 諭 1 種 免 許 状	
情 報 教 育 課 程 教育情報コース 環境情報コース	中学校教諭1種免許状の教科	高等学校教諭1種免許状の教科
	数 学 理 科	数 学 理 科

備考 教育職員免許法施行規則に定める所定の単位を修得したときは、所属課程以外の免許状をあわせて取得することができる。

別表Ⅹ

免許状の種類	授 業 科 目	開 設 単 位
ド イ ツ 語	ドイツ語科教育法	2
中 国 語	中国語科教育法	2
商 業	商業科教育法	2
工 業	工業科教育法	2

## 富山大学経済学部規則の一部改正

### 富山大学経済学部規則の改正理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日 文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 平成 3 年 6 月 24 日 付け文高大第 184 号 文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき、所要事項を改める。

富山大学経済学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学経済学部規則の一部を改正する規則

富山大学経済学部規則（昭和 50 年 6 月 27 日 制定）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「卒業及び聴講生等」を「卒業、科目等履修生及び聴講生等」に改める。

第 3 条（見出しを含む。）を次のように改める。

（授業科目及び単位数）

第 3 条 授業科目は、教養科目、共通基礎科目及び専門科目とする。

2 教養科目及び共通基礎科目に関する授業科目及び単位数は、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の定めるところによる。

3 専門科目の授業は、一般講義、特殊講義、外国書講読、演習及び卒業論文とし、授業科目及び単位数は、別表第 1 のとおりとする。

第 4 条を次のように改める。

（単位の計算方法）

第 4 条 各授業科目の単位数は、次の基準により計算するものとする。

(1) 教養科目及び共通基礎科目については、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の定めるところによる。

(2) 専門科目における講義、演習及び外国書講読については、毎週 15 時間の授業をもって 1 単位とする。

第 5 条を次のように改める。

（履修期間及び履修方法）

第 5 条 本学部の履修期間は、4 年とする。

第 6 条を次のように改める。

第 6 条 教養科目及び共通基礎科目の履修方法は、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定

めるところによる。

第 7 条を次のように改める。

第 7 条 専門科目の履修方法は、別表第 2 のとおりとする。

2 専門科目の履修は、原則として 4 単位を基準とする。

第 8 条及び第 9 条を削り、第 10 条を第 8 条とし、第 11 条を第 9 条とし、第 12 条を第 10 条とする。

第 13 条の見出しを「（試験及び教育課程の修了認定）」に改め、同条を第 11 条とする。

第 14 条を第 12 条とし、第 15 条を第 13 条とする。

第 16 条中「課程の修了は」を「教育課程の修了は」に改め、同条を第 14 条とする。

第 17 条を削り、第 18 条を第 15 条とし、第 19 条を第 16 条とし、同条の次に次の 3 条を加える。

（科目等履修生）

第 17 条 科目等履修生として入学を願い出た者については、選考の上教授会の議を経て許可することができる。

第 18 条 科目等履修生として入学を希望する者は、各学期開始前に次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

(1) 願書

(2) 履歴書（写真添付）

(3) 健康診断書

(4) 在職中の者は、所属長の承認書

第 19 条 科目等履修生に対しては、その履修した授業科目の試験に合格した場合には、所定の単位を与え、単位修得証明書を交付する。

第 20 条を次のように改める。

第 20 条 科目等履修生として不適当であると認められたときは、その科目等履修生としての資格を取り消すことがある。

第 21 条中「聴講生として入学を希望する者があるとき

は」を「聴講生として入学を願い出た者については」に改める。

第22条中「聴講希望者は」を「聴講生として入学を希望する者は」に改める。

第23条を次のように改める。

第23条 聴講生として不適当であると認められたときは、その聴講生としての資格を取り消すことがある。

第24条及び第25条を削り、第26条を第24条とし、第27条から第29条までを2条ずつ繰り上げる。

第30条を第28条とし、同条中「第21条から第23条まで及び第25条の規定は」を第17条から第20条までの規定は」に改める。

別表第1

第31条を第30条とし、同条の前に次の1条を加える。  
(研究生)

第29条 研究生については、第17条、第18条及び第20条の規定を準用する。

別表第1及び別表第2を次のように改める。

(別添1及び別添2のとおり)

### 附 則

- 1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 平成4年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別添1

### 授 業 科 目 及 び 単 位 数

#### 昼間主コース

系 列	授 業 科 目		開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科			系 列	授 業 科 目		開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科				
				必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択					必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必
経済学	理論経済学	ミクロ経済学	4		4				4			4	経営学	経営学	論	4			4		4				4		
		組織論	4					4		4		4				4			4		4				4		
		戦略論	4					4		4		4				4			4		4				4		
		環境論	4		4				4		4				4		4			4		4				4	
		歴史論	4					4		4		4				4			4		4				4		
	比較経済学	社会学	4					4				4			応用経営学	理論	4										4
		経済学	4					4				4				総論	4			4							4
		経済学	4					4				4				マーケティング論	4			4		4					4
		経済学	4					4				4				通論	4			4		4					4
		経済学	4					4				4				リスク・マネジメント論	4			4		4					4
学	政策科学	経済学	4					4				4	管理科学	基礎数学	4			4		4					4		
		社会学	4					4				4		経営学	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		意思決定論	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		オペレーションズ・リサーチ	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		ゲーム分析	4			4		4					4		
	応用経済学	社会学	4					4				4	経営法学	情報論	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		システム分析	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		生産システム論	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		情報処理演習	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		憲法Ⅰ(統治機構)	4			4		4			4				
系	応用経済学	社会学	4					4				4	基礎法学	憲法Ⅱ(人権)	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		行政法各論	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		税法	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		刑法	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		総論	4			4		4					4		
		経済学	4					4				4		総論	4			4		4					4		

系 列	授 業 科 目				開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科			系 列	授 業 科 目				開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科				
						必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択							必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択		
経 営 法 学	基礎 法	刑法	民法	訴訟法	4			4			4			4	共 通	法学演習	8											8			
		民法	民法	民法	4			4			4			4		経済学卒業論文	6	6													
		民法	民法	民法	4			4			4			4		経営学卒業論文	6														
		民法	民法	民法	4			4			4			4		法学卒業論文	6														
	民事 法	民法	民法	民法	4			4			4			4		経済学基礎演習	2	2													
		民法	民法	民法	4			4			4			4		経営学基礎演習	2														
		民法	民法	民法	4			4			4			4		法学基礎演習	2														
		民法	民法	民法	4			4			4			4		経済学外国書講読	4														
		民法	民法	民法	4			4			4			4		経営学外国書講読	4														
		民法	民法	民法	4			4			4			4		法学外国書講読	4														
法 学	企業 関 係 法	民法	民法	民法	4			4			4			4	教育職員 免許状取 得のための 授業科目	日本史学総論				2									2		
		民法	民法	民法	4			4			4			4	日本史概説				2										2		
		民法	民法	民法	4			4			4			4	西洋史概説				2										2		
		民法	民法	民法	4			4			4			4	東洋史概説				2										2		
		民法	民法	民法	4			4			4			4	職業指導				4										4		
		民法	民法	民法	4			4			4			4	計		16	16		16	12		16	16		48					
		民法	民法	民法	4			4			4			4				56		52				108							
		民法	民法	民法	4			4			4			4																	
		民法	民法	民法	4			4			4			4																	
		民法	民法	民法	4			4			4			4																	
共 通	経済学演習	8	8			8																									
	経営学演習	8																													

備考

1 この表に掲げる授業科目のほか、特殊講義を設けることができる。

2 自由科目としての教養科目（社会系4単位以下を含む）及び共通基礎科目のうち、10単位までは専門科目の選択科目を履修したものとみなし、卒業要件単位に含めることができる。

3 教育職員免許状取得のための授業科目は、卒業要件単位のうちに加えない。

系 列	授 業 科 目		開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科			系 列	授 業 科 目		開設 単位	経済学科			経営学科			経営法学科			
				必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択					必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	必修	選 必	選 択	
経営学系	管理科学	オペレーションズ・リサーチ	4			4			4			4	法経企 系営保業	国際公法	4			4			4			4		
		ゲーム分析	4			4			4			4		国際経済組織法	2			2			2			2		
		経営情報論	4			4			4			4		経済学演習	8			8			8			8		
		生産システム論	4			4			4			4		経営学演習	8	8		8			8			8		
		情報処理演習	4			4			4			4		法学演習	8			8			8			8		
経営学系	基礎 法	憲行政法	4			4			4			4	共通 教育職員 免許状取 得のため の授業科 目	経済学卒業論文	6			6			6			6		
		税法	4			4			4			4		経営学卒業論文	6			6			6			6		
		地方自治法	2			2			2			2		法学卒業論文	6			6			6			6		
		地方公務員法	2			2			2			2		法学外国語講読	4			4			4			4		
		刑事訴訟法	4			4			4			4		経済学Ⅰ	4	4		4			4			4		
		刑事訴訟法	4			4			4			4		経済学Ⅱ	4	4		4			4			4		
		民法	4			4			4			4		日本史学総論	2			2			2			2		
		民法	4			4			4			4		日本史概説	2			2			2			2		
		民法	4			4			4			4		西洋史学総論	2			2			2			2		
		民法	4			4			4			4		西洋史概説	2			2			2			2		
		民法	4			4			4			4		職業指導	4			4			4			4		
		民法	2			2			2			2		計		8 12		8 12			8 12			32		
		民法	4			4			4			4				102		102			102			102		
		民法	4			4			4			4		備考	1 この表に掲げる授業科目のほか、特殊講義を設けることができる。											
		民法	4			4			4			4			2 自由科目としての教養科目及び外国語科目のうち、8単位までは専門科目の選択科目を履修したものとみなし、卒業要件単位に含めることができる。											
民法	4			4			4			4	3 教育職員免許状取得のための授業科目は、卒業要件単位のうちに加えない。															
民法	2			2			2			2																
民法	2			2			2			2																

別表第2

別添2

## 単 位 修 得 方 法

(昼間主コース)

区分	経 済 学 科		経 営 学 科		経 営 法 学 科	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
必修 科目	経済学基礎演習	2 A	経営学基礎演習	2 A	法学基礎演習	2
	経営学基礎演習	8 B	経済学基礎演習	8 B	法学演習	8
	経済学演習	6	経営学演習	6	法学卒業論文	6
	卒業論文	6	卒業論文	6	法学卒業論文	6
計		16		16		16
選択 必修 科目	経済学Ⅰ	4	経営学概論	4	憲法Ⅰ	4
	経済学Ⅱ	4	会計学総論	4	刑法総論	4
	マクロ経済学	4	流通総論	4	民法総論	4
	ミクロ経済学	4	経営基礎数学	4	法学Ⅰ	4
計		16		12	法学Ⅱ	4
選択 科目	経済学系56単位を含め	76以上	経営学系52単位を含め	80以上	経営法学系48単位を含め	76以上
計		76以上		80以上		76以上
合計		108以上		108以上		108以上

注1 A：基礎演習2単位を必修とする。

B：演習8単位を必修とする。

C：4科目を選択必修科目とし、他の科目は選択科目とする。

D：3科目を選択必修科目とし、他の科目は選択科目とする。

注2 自由科目としての教養科目(社会系4単位以下を含む)及

び共通基礎科目のうち、10単位までは専門科目の選択科目を履修したものとみなし、卒業要件単位に含めることができる。

注3 30単位を限度として、夜間主コースで開講される授業科目から履修することができる。

ただし、演習、外国語講読及び卒業論文は除く。

## (夜間主コース)

区分	経 済 学 科		経 営 学 科		経 営 法 学 科	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
必修科目	経 済 学 演 習 経 営 学 演 習 法 学 演 習	8 A	経 営 学 演 習 経 済 学 演 習 法 学 演 習	8 A	法 学 演 習 経 済 学 演 習 経 営 学 演 習	8 A
計		8		8		8
選択必修科目	経 済 学 I	4	経 営 学 概 論	4	法 学	4
	経 済 学 II	4	簿 記 原 理	4	憲 法	4
	理 論 経 済 学	4 B	流 通 総 論	4 B	刑 法	4 B
	政 治 経 済 学	4	経 営 科 学 概 説	4	財 産 法 I	4
					法 学 卒 業 論 文	6
計		12		12		12
選択科目	経 済・経 営・経 営 法 学 系	82以上	経 済・経 営・経 営 法 学 系	82以上	経 営 法 学 系 32 単 位 を 含 め	82以上
計		82以上		82以上		82以上
合計		102以上		102以上		102以上

注 1 A：演習 8 単位を必修とする。

B：3 科目を選択必修科目とし、他の科目は選択科目とする。

注 2 自由科目としての教養科目及び外国語科目のうち、8 単位までは専門科目の選択科目を履修したものとみなし、卒業要

件単位に含めることができる。

注 3 30単位を限度として、昼間主コースで開講される授業科目から履修することができる。

ただし、演習、外国書講読及び卒業論文は除く。

## 富山大学理学部規則の一部改正

## 富山大学理学部規則の改正理由

- 数学科、物理学科、化学科、生物学科及び地球科学科を、数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科及び生物圏環境科学に改組したことに伴い、所要事項を改める。
- 平成 3 年 6 月 24 日付け文高大第 184 号文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき、所要事項を改める。

富山大学理学部規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黑 千足

## 富山大学理学部規則の一部を改正する規則

富山大学理学部規則（昭和 52 年 5 月 16 日制定）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「卒業及び聴講生等」を「卒業、科目等履修生及び聴講生等」に改める。

第 2 条中「地球科学科」を「地球科学科  
生物圏環境科学科」に改める。

第 3 条から第 6 条までを次のように改める。

（授業科目及び単位数、履修方法）

第 3 条 授業科目は、教養科目、共通基礎科目及び専門科目とする。

2 開設する授業科目及びその単位数は、別表 I のとお

りとする。

第 4 条 単位の修得方法については、別表 II のとおりとする。

第 5 条 履修期間は 4 年とし、これを 8 学期に分ける。  
（単位の計算方法）

第 6 条 各授業科目の単位数は、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習及び講読については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、授業科目によっては 30 時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験及び実習の授業については、30 時間の授業を

もって1単位とする。ただし、授業科目によっては45時間の授業をもって1単位とする。

第7条の前に見出しとして「(授業科目の履修等)」を付する。

第10条の見出し中「, 課程」を「, 教育課程」に改める。

第12条中「課程」を「教育課程」改める。

第13条第2項中「後学期」を「2学年」に改める。

第14条中「, 専門教育課程全期間」を「, 6学期間」に改める。

第16条の前の見出し中「(聴講生)」を「(科目等履修生, 聴講生)」に改め, 同条中「聴講生」を「科目等履修生又は聴講生(以下「科目等履修生等」という。)」に改める。

第17条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

同条第2項中「聴講期間」を「履修期間」に改める。

第18条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

第20条中「認められた者」を「認められた者及び科目等履修生」に改める。

第21条中「聴講生」を「科目等履修生等」に改める。

別表中「別表」を「別表(第3条第2項関係)」に改め, 同表を別表1とし, 同表の次に次の1表を加える。

(別添1及び別添2のとおり)

#### 附 則

- この規則は, 平成5年4月1日から施行する。
- 平成4年度以前の入学者については, なお従前の例による。

別表Ⅰ(第3条第2項関係)

別添1

授業科目及び単位数

教養科目及び共通基礎科目

区 分	主 題 等	授 業 科 目	単位数
教 養 科 目	人 文 系 科 目	思想と倫理	2
		人間と倫理	2
	心 理 と 教 育	こころの科学	2
		教育と社会	2
	歴 史 の 世 界	日本の歴史と社会	2
		東洋の歴史と社会	2
		西洋の歴史と社会	2
	文 学 の 世 界	日本文学	2
		外国文学	2
	言 語 と 文 化	言語と文化	2
目 論 目	芸 術 の 世 界	音楽	2
		美術	2

教 養 科 目	社 会 科 目	社会理論と現代	社会科学の方法と理論	2	
			現代社会論Ⅰ	2	
			現代社会論Ⅱ	2	
		法と政治	日本国憲法	2	
			国家と政治	2	
			経済生活と法	2	
		産業と経済	市民生活と法	2	
			経済・経営データを読む	2	
			企業と仕事	2	
			世界経済の過去と現在	2	
	地域と生活	日本の経済と産業	2		
		日本の企業経営	2		
	自 然 科 学 科 目	地球と環境	地域の社会と文化	2	
			富山の経済と社会	2	
		生命の世界	地球の構造と活動	2	
			地球の環境	2	
		自然の構造	生命のしくみ	2	
			生命と環境	2	
			数理の世界	宇宙の構造	2
				化学物質の世界	2
技術の世界		物質の構造	2		
		量子の世界	2		
	生活の科学	自然と数理	2		
		社会と数理	2		
情報の科学	情報と数理	2			
	機械の力学	2			
生活の科学	生産のための技術	2			
	電気・電子機器	2			
情報の科学	材料の科学	2			
	生活の科学	2			
情報の科学	睡眠の科学	2			
	園芸	2			
教養原論演習			2又は4		
総 合 科 目		環境	2		
		生と死	2		
		ジェンダー（性）	2		
		心と身体	2		
		技術と社会	2		
		現代文化	2		
		生活と福祉	2		
		人権と差別	2		
		環日本海	2		
		科学と社会	2		
		現代の社会（時事的問題）	2		
		日本事情	6		



区 分	主 題 等	授 業 科 目	単位数
共 通 基 礎 科 目	外 国 語 科 目	英 語 A	4
		英 語 B	4
		ド イ ツ 語 A	4
		ド イ ツ 語 B	4
		フ ラ ン ス 語 A	4
		フ ラ ン ス 語 B	4
		中 国 語 A	4
		中 国 語 B	4
		ロ シ ア 語 A	4
		ロ シ ア 語 B	4
		朝 鮮 語 A	4
		朝 鮮 語 B	4

共 通 基 礎 科 目	外国語科目	ラ テ ン 語 B	2
		日 本 語 A	4
		日 本 語 B	4
	保健体育科目	健康・スポーツ論	3
		健康・スポーツ演習	2
		健康スポーツ	4
	情報科学科目	情 報 処 理	2
		言 語 表 現	2

## 専 門 科 目

## 数 学 科

専 門 基 礎 科 目	単位数		専 攻 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
解析学序論Ⅰ	2		線形代数学Ⅱ演習	2	
解析学序論演習	2		解析学Ⅰ	4	
解析学序論Ⅱ	2		解析学Ⅰ演習	2	
線形代数学Ⅰ	2		解析学Ⅱ	2	
線形代数学Ⅰ演習	2		解析学Ⅱ演習	2	
線形代数学Ⅱ	2		代数学序論	2	
物理学序説Ⅰ	2		代数学序論演習	2	
物理学序説Ⅱ	2		代数学Ⅰ		2
物理学概論Ⅰ	2		代数学Ⅱ		2
物理学概論Ⅱ	2		幾何学序論	2	
化学序説Ⅰ	2		幾何学序論演習	2	
化学序説Ⅱ	2		幾何学Ⅰ	2	
化学概論Ⅰ	2		幾何学Ⅱ	2	
化学概論Ⅱ	2		位相数学Ⅰ	2	
生物学序説Ⅰ	2		位相数学演習	2	
生物学序説Ⅱ	2		位相数学Ⅱ	2	
生物学概論Ⅰ	2		複素解析学Ⅰ	2	
生物学概論Ⅱ	2		複素解析学演習	2	
地球科学序説Ⅰ	2		複素解析学Ⅱ		2
地球科学序説Ⅱ	2		実解析学Ⅰ	2	
地球科学概論Ⅰ	2		実解析学Ⅱ	2	
地球科学概論Ⅱ	2		実解析学演習	2	
生物圏環境科学序説Ⅰ	2		確率論Ⅰ	2	
生物圏環境科学序説Ⅱ	2		確率論Ⅱ	2	
生物圏環境科学概論Ⅰ	2		応用解析学序論	2	
生物圏環境科学概論Ⅱ	2		応用解析学Ⅰ	2	
放射線基礎学	2		応用解析学Ⅱ	2	
			情報数理学序論	2	
			情報数理学Ⅰ	2	
			情報数理学Ⅱ	2	
			代数学特論	2	
			幾何学特論	2	
			複素解析学特論	2	
			位相解析学特論	2	
			数理統計学特論	2	
			実解析学特論	2	
			応用数理学特論	4	
			関数解析学特論	2	
			数値解析学特論	2	
			情報数理学特論	2	
			洋書講読	2	
			数学研究	8	

## 物理学科

専 門 基 礎 科 目	単位数		専 攻 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
微分積分学Ⅰ	2		物理数学A	4	
微分積分学Ⅱ	2		物理数学B		4
線形代数学	2		力学Ⅰ	6	
応用数学基礎	2		力学Ⅱ		4
計算機演習	2		電磁気学Ⅰ	6	
化学序説Ⅰ		2	電磁気学Ⅱ		4
化学序説Ⅱ		2	熱統計学Ⅰ	4	
化学概論Ⅰ		2	熱統計学Ⅱ		4
化学概論Ⅱ		2	量子力学Ⅰ	6	
生物学序説Ⅰ		2	量子力学Ⅱ		4
生物学序説Ⅱ		2	量子力学特論		2
生物学概論Ⅰ		2	光学		2
生物学概論Ⅱ		2	相対論		2
地球科学序説Ⅰ		2	物理実験学	2	
地球科学序説Ⅱ		2	物理学実験Ⅰ	2	
地球科学概論Ⅰ		2	物理学実験Ⅱ(物性A)	2	
地球科学概論Ⅱ		2	物理学実験Ⅱ(物性B)	2	
生物圏環境科学序説Ⅰ		2	物理学実験Ⅱ(量子)	2	
生物圏環境科学序説Ⅱ		2	物性物理学A		4
生物圏環境科学概論Ⅰ		2	物性物理学B		4
生物圏環境科学概論Ⅱ		2	物性物理学特論		2
放射線基礎学		2	核物理学A		2
基礎化学実験	1		核物理学B		2
基礎生物学実験	1		核物理学特論		2
基礎地球科学実験	1		電磁波物理学A		2
基礎生物圏環境科学実験	1		電磁波物理学B		2
			電磁波物理学特論		2
			洋書講読		
			物理学特別講義	2	
			卒業論文	12	*

## 化 学 科

専 門 基 礎 科 目	単位数		専 攻 科 目	単位数	
	必 修	選 択		必 修	選 択
微分積分学Ⅰ		2	基礎物理化学	2	
微分積分学Ⅱ		2	基礎化学結合論	2	
線形代数学		2	化学平衡学	2	
応用数学基礎		2	化学反応学	2	
物理学序説Ⅰ		2	構造化学	1	
物理学序説Ⅱ		2	構造化学演習	1	

物理学概論Ⅰ	2	量子化学	2	
物理学概論Ⅱ	2	化学熱力学	2	
生物学序説Ⅰ	2	触媒化学	2	
生物学序説Ⅱ	2	分子分光法	2	
生物学概論Ⅰ	2	分子物性学	2	
生物学概論Ⅱ	2	無機物性化学	2	
地球科学序説Ⅰ	2	無機構造化学	2	
地球科学序説Ⅱ	2	材料科学	2	
地球科学概論Ⅰ	2	化学工学	2	
地球科学概論Ⅱ	2	物理化学特論Ⅰ	2	
生物圏環境科学序説Ⅰ	2	物理化学特論Ⅱ	2	
生物圏環境科学序説Ⅱ	2	無機化学特論	2	
生物圏環境科学概論Ⅰ	2	物理化学実験	3	
生物圏環境科学概論Ⅱ	2	無機分析化学実験	3	
放射線基礎学	2	プログラミング実習	1	
基礎物理学実験	2	基礎有機化学Ⅰ	2	
基礎生物学実験	1	基礎有機化学Ⅱ	2	
基礎地球科学実験	1	脂族化学	2	
基礎生物圏環境科学実験	1	芳香族化学	2	
基礎化学実験	1	複素環化学	2	
	1	天然物化学	2	
		反応有機化学	2	
		有機立体化学	2	
		生体物質化学	2	
		構造有機化学	2	
		高分子化学	2	
		生化学	2	
		有機化学特論Ⅰ	2	
		有機化学特論Ⅱ	2	
		有機化学実験	6	
		基礎溶液化学	2	
		基礎無機化学	2	
		溶液化学演習	2	
		環境化学計測	2	
		計測化学特別講義	2	
		洋書講読	4	
		化学特別講義	*	
		卒業論文	12	

## 生物学科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
微分積分学Ⅰ	2		生体構造学概論	2	
微分積分学Ⅱ	2		基礎生体構造学	2	
線形代数学	2		系統進化学概論	2	
応用数学基礎	2		系統進化学特論	2	
物理学序説Ⅰ	2		形態形成学		2
物理学序説Ⅱ	2		種生物学	1	
物理学概論Ⅰ	2		行動生態学		1
物理学概論Ⅱ	2		動物生理学		2
化学序説Ⅰ	2		基礎生理学	2	
化学序説Ⅱ	2		生体構造学特論		2
化学概論Ⅰ	2		系統進化学		2
化学概論Ⅱ	2		応用生物学		1
地球科学序説Ⅰ	2		生体構造学実験	6	
地球科学序説Ⅱ	2		臨海実験Ⅰ又は野外実験Ⅰ		2
地球科学概論Ⅰ	2		臨海実験Ⅱ又は野外実験Ⅱ		2
地球科学概論Ⅱ	2		生物化学		1
生物圏環境科学序説Ⅰ	2		生理化学		2
生物圏環境科学序説Ⅱ	2		生体応答学		2
生物圏環境科学概論Ⅰ	2		放射線生物学		1
生物圏環境科学概論Ⅱ	2		放射線生物学特別講義		1
放射線基礎学	2		生体制御学		2
基礎物理学実験	1				
基礎化学実験	1				

基礎地球科学実験	1	生理活性物質化学	2	
基礎生物圏環境科学実験	1	発生制御学		2
		基礎発生学	2	
		細胞生物学	2	
		遺伝学	2	
		植物発生学		1
		情報高分子学		1
		基礎細胞生物学	2	
		微生物科学		1
		細胞生物学特論		2
		遺伝学特論		1
		資源生物学		1
		生体制御学実験	6	
		洋書講読	2	
		生物学特別講義		*
		卒業論文	12	

## 地球科学科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数			
	必修	選択		必修	選択	必修	選択
微分積分学Ⅰ		2	地球圏物理学序説	2			
微分積分学Ⅱ		2	プレートテクトニクス		2		
線形代数学		2	地球構造論		2		
応用数学基礎		2	地球年代学				2
物理学序説Ⅰ		2	地震学				2
物理学序説Ⅱ		2	地球力学				2
物理学概論Ⅰ		2	岩石磁気学		2		2
物理学概論Ⅱ		2	地震学演習		2		2
化学序説Ⅰ		2	岩石磁気学実験				1
化学序説Ⅱ		2	天文学				1
化学概論Ⅰ		2	地球周辺物理学				1
化学概論Ⅱ		2	地球物理学特論Ⅰ				2
生物学序説Ⅰ		2	地球物理学特論Ⅱ				2
生物学序説Ⅱ		2	積雪物理学		2		
生物学概論Ⅰ		2	X線結晶学		2		
生物学概論Ⅱ		2	水物理学		2		
生物圏環境科学序説Ⅰ		2	雲物理学				2
生物圏環境科学序説Ⅱ		2	雪氷学実験法				2
生物圏環境科学概論Ⅰ		2	氷河学				2
生物圏環境科学概論Ⅱ		2	応用雪氷学				2
地球科学序説Ⅰ		2	気象学				2
地球科学序説Ⅱ		2	雪氷学特論Ⅰ				4
地球科学概論Ⅰ	2	2	雪氷学特論Ⅱ				4
地球科学概論Ⅱ	2	2	一般地質学	2			
放射線基礎学		2	鉱物学		2		
基礎物理学実験		1	地形学				2
基礎化学実験		1	海洋地質学				2
基礎生物学実験		1	構造地質学		2		
基礎地球科学実験		1	岩石学		2		
基礎生物圏環境科学実験		1	火山学				2
			古生物学		2		
			第四紀学		2		
			列島地質				5
			地殻進化学			16	4
			鉱床学				3
			地質学特論Ⅰ				2
			地質学特論Ⅱ				2
			鉱物学特論Ⅰ				2
			鉱物学特論Ⅱ				2
			岩石学特論				2
			地球変動学特論				2
			地質学演習				2
			鉱物学実験				3
			古生物学実験				3
			地質学巡検Ⅰ				1
			地質学巡検Ⅱ				1
			地質調査法実習				8

環境化学概論	2		
基礎溶液化学	2		
地球化学	2		
同位体地学		2	
洋書講読Ⅰ	2		
洋書講読Ⅱ			1
地球科学巡検			1
地球物理学実験	3		
地球物理学演習	3		
雪氷学演習	3		9
雪氷学実験	3		
地質学実験	3		
岩石学実験	3		
地球科学特別講義			*
卒業論文	12		

化学概論Ⅰ	2	遺伝学	2
化学概論Ⅱ	2	生体エネルギー論	2
生物学序説Ⅰ	2	細胞間相互作用論	2
生物学序説Ⅱ	2	植生変動論	2
生物学概論Ⅰ	2	生体制御学	2
生物学概論Ⅱ	2	動物生理学特別講義	1
地球科学序説Ⅰ	2	植物生理学特別講義	1
地球科学序説Ⅱ	2	海洋生物学	1
地球科学概論Ⅰ	2	生態学	1
地球科学概論Ⅱ	2	放射線生物学	1
放射線基礎学	2	放射線生物学特別講義	1
基礎物理学実験	1	生物圏機能実験	6
基礎化学実験	1	基礎物理化学	2
基礎生物学実験	1	環境化学概論	2
基礎地球科学実験	1	一般化学	2
		基礎溶液化学	2
		基礎無機化学	2
		基礎有機化学Ⅰ	2
		一般地質学	2
		環境化学計測	2
		地球化学	2
		溶液化学演習	2
		基礎有機化学Ⅱ	2
		同位体地学	2
		第四紀学	2
		陸水化学	2
		環境地球化学	2
		環境保全化学	2
		環境地球化学特別講義	2
		計測化学特別講義	2
		環境化学計測実験	6
		洋書講読	2
		野外実習	1
		生物圏環境科学特別講義	*
		卒業論文	12

## 生物圏環境科学科

専門基礎科目	単位数		専攻科目	単位数	
	必修	選択		必修	選択
微分積分学Ⅰ	2		生命科学概論	2	
微分積分学Ⅱ	2		生物物理化学	2	
線形代数学	2		生物化学		1
応用数学基礎	2		生体構造学概論		2
物理学序説Ⅰ	2		生体高分子学	2	
物理学序説Ⅱ	2		生理化学		2
物理学概論Ⅰ	2		系統進化学概論		2
物理学概論Ⅱ	2		生体応答学	2	
化学序説Ⅰ	2		植生機能論	2	
化学序説Ⅱ	2		光生物学		2

## 別表Ⅱ（第4条関係）

別添2

## 単位修得方法

区分		数学科		物理学科		化学科		生物学科		地球科学科			生物圏環境科学科	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	選択	必修	選択
教養科目	教養原論 (人文・社会系)		12		12		12		12			12		12
	総合科目		6		6		6		6			6		6
共通基礎科目	外国語科目 (英語を含む2ヶ国語)		8		8		8		8			8		8
	保健体育科目		2		2		2		2			2		2
	情報処理科目		2		2		2		2			2		2
	言語表現科目		2		2		2		2			2		2
専門科目	専門基礎科目	12	8	10	10	1	19		20		2	18		20
	専攻科目	38	26	50	14	51	13	49	15	18	25	21	52	12
自由(選択)科目			10		10		10		10			10		10
計		124		124		124		124		124			124	

- 1 教養原論は、人文系及び社会系科目から選択し、12単位以上を修得すること。
- 2 外国語は2ヶ国語（英語を含む。）を各4単位、計8単位以上を修得すること。
- 3 外国人留学生に対し、日本事情及び日本語に関する科目を開講しているが、修得方法は別に定める。
- 4 専攻科目の選択は、他学科の専攻科目（一部の科目を除く。）のうちからも選択することが出来る。

## 富山大学工学部規則の一部改正

### 富山大学工学部規則の改正理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成5年3月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 平成3年6月24日付け文高第184号文部事務次官通知「大学設置基準の一部を改正する省令の施行等について」に基づき、所要事項を改める。
- 3 字句の整備を図る。

富山大学工学部規則の全部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成5年4月1日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学工学部規則

富山大学工学部規則（昭和25年12月15日制定）の全部を改正する。

#### （趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学学則（以下「学則」という。）第2条第2項に基づき、富山大学工学部（以下「本学部」という。）の授業科目、履修、試験、卒業及び科目等履修生等に関する事項を定める。

#### （学 科）

第2条 本学部には次の学科を置く。

電子情報工学科

機械システム工学科

物質工学科

化学生物工学科

（授業科目及び単位数、卒業に必要な修得単位数）

第3条 授業科目は、専門科目、教養科目及び共通基礎科目とする。

第4条 卒業に必要な修得単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

#### （単位計算方法）

第5条 専門科目として開設する授業科目の1単位当たりの授業時間は、次の基準による。

- (1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習は、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、授業科目によっては、30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習等は45時間の授業をもって1単位とする。

2 教養科目及び共通基礎科目として開設する授業科目の1単位当たりの授業時間は、富山大学における教養

科目及び共通基礎科目履修規則の定めるところによる。  
（履修方法及び履修期間）

第6条 専門科目の履修については、別表Ⅱのとおりとする。

第7条 教養科目及び共通基礎科目の履修については、富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則の定めるところによる。

第8条 履修期間は4年とし、これを8学期に分ける。  
（履修届等）

第9条 学生は、履修しようとする授業科目について、あらかじめ所定の履修届を提出しなければならない。

第10条 学生は、所属する学科の専門科目以外の授業科目を選択履修することができる。ただし、都合によりこれを制限することがある。

第11条 本学部学生が他学部の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ所定の手続きにより学部長を経て当該他学部長の許可を受けなければならない。

第12条 他学部学生が所属学部長を経て本学部の授業科目の履修を願い出たときは、学部長はこれを許可することができる。

#### （試験及び成績評価）

第13条 試験は、毎学期末に行う。ただし、必要がある場合は、学期末以外に時期に行うことがある。

2 授業科目の成績は、試験その他の成績により担当教官が判定する。

3 成績判定は、優、良、可、不可の標語で表し、可以上を合格とし、不可を不合格とする。

#### （卒業論文）

第14条 学生は、所定の期日までに卒業論文を担当教官に提出しなければならない。

第15条 卒業論文試験は、提出論文の審査及び口頭試問

により行う。

(教育課程の修了認定)

第16条 教育課程の修了は、教授会の議を経て学部長が認定する。

(転学部及び転学科)

第17条 転学部及び転学科(以下「転学部等」という。)を願い出た者については、選考の上、教授会の議を経て、転学部等を許可することができる。

2 転学部等を許可する時期は、原則として2学年の始めとする。

3 転学部等を許可された者は、許可された学部又は学科に3年以上在学することを原則とする。

(転入学及び編入学)

第18条 転入学及び編入学(以下「転入学等」という。)を願い出た者については、選考の上、教授会の議を経て、相当年次に入学を許可することができる。

2 転入学等を許可する時期は、学年の始めとする。

3 転入学等を許可された者の在学年数は、教授会の定めるところによる。

第19条 転入学等を希望する者は、出願に際し次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

(1) 願書

(2) 所属学部長等の受験承認書又は在籍する大学等の受験許可書

(3) 所属学部、在籍する大学等又は卒業した大学等における成績調書

(4) 健康診断書

(科目等履修生、聴講生)

第20条 学則第55条の2及び学則第56条の規定により科目等履修生又は聴講生(以下「科目等履修生等」という。)として入学を願い出た者については、選考の上、教授会の議を経て、学部長は、入学を許可することができる。

第21条 科目等履修生等として入学を希望する者は、出願に際し次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

(1) 願書

(2) 最終出身学校の卒業証明書

(3) 健康診断書

(4) 職業を有する者は、所属長の承認書

2 履修期間は、その履修する授業科目が開講される期間とする。

第22条 科目等履修生は、その履修した授業科目について、願出により学部学生と同じく試験を受けることが

できる。

第23条 前条試験の結果により、単位を認定することができる。

第24条 科目等履修生等として不適当であると認められたときは、科目等履修生等としての資格を取り消すことがある。

(研究生)

第25条 学則第55条の規定により研究を希望する者は、研究題目、希望する指導教官名、在学期間等を定め、定められた期間内に第21条第1号から第4号までの書類を学部長に提出しなければならない。

(特別聴講学生)

第26条 他の大学(短期大学を含む。)又は外国の大学(短期大学を含む。)の学生で、学則第57条の規定により、本学部の授業科目を履修しようとする者があるときは、当該大学と協議に基づき、教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することができる。

2 特別聴講学生については、第20条から第24条までの規定を準用する。

(雑 則)

第27条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は教授会の議を経て学部長が定める。

附 則

1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。

2 平成4年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表Ⅰ(第4条関係)

卒業に必要な修得単位数

学 科		電子情報	機械システム	物 質	化学生物
区 分		工 学 部	工 学 部	工 学 部	工 学 部
教養科目から修得する単位数		18			
共通基礎科目から修得する単位数		12			
小 計		30			
専 門 科 目	専門基礎科目から修得する単位数	16	8	16	17
	選攻科目から修得する単位数	84	92	84	83
	小 計	100	100	100	100
自 由 単 位		10	10	10	10
合 計		140	140	140	140

備考

単位の修得方法については、別表Ⅱで示す。

別表Ⅱ（第 6 条関係）

## 電子情報工学科

授 業 科 目		単 位 数		授 業 科 目		単 位 数	
		必 修	選 択			必 修	選 択
専 門 基 礎 科 目	微分積分 1	2		専 攻 科 目	多変量解析論		2
	微分積分 2	2			ニューロコンピューティング		2
	線形代数 1	2			計算機アーキテクチャ		2
	線形代数 2	2			ネットワークアーキテクチャ		2
	微分方程式 1		2		オートマン・言語理論		2
	ベクトル解析		2		情報数学		2
	複素解析		2		情報数学演習		2
	微分方程式 2		2		確率統計論		2
	力学		2		数値解析		2
	熱・波動論		2		数値解析演習		2
	化学		2		離散数理モデル		2
					信号処理工学		2
					情報伝送工学		3
専 攻 科 目	電子情報工学概論	2		専 攻 科 目	符号化論		2
	電気磁気学第 1		2		計算論		2
	電気磁気学第 1 演習		2		人工知能基礎		2
	電気磁気学第 2		2		人工知能システム		2
	電気磁気学第 2 演習		2		アルゴリズム解析		2
	電気回路第 1		4		データベース論		2
	電気回路第 1 演習		2		意味解析論		2
	電気回路第 2		2		自然言語処理		2
	電子回路第 2 演習		2		ソフトウェア工学		2
	電子回路工学第 1		2		オペレーティングシステム		2
	電子回路工学第 2		2		コンパイル構成法		2
	電子回路工学演習		2		ヒューマンインタフェース		2
	プログラミング及び演習		3		信頼性工学		2
	量子電子工学第 1		2		論理情報回路		2
	量子電子工学第 2		2		電気機器学第 1		2
	結晶物理工学		2		電気機器学第 2		2
	電子物性工学第 1		2		電気機器学第 3		2
	電子物性工学第 2		2		電気機器学第 4		2
	電子物性工学演習		2		電気機器設計学		2
	半導体デバイス第 1		2		発変電工学		3
	半導体デバイス演習		2		総配電工学第 1		2
	半導体デバイス第 2		2		総配電工学第 2		2
	画像電子デバイス		2		電力応用工学		2
	電磁波工学第 1		2		電気材料工学		2
	電磁波工学第 2		2		高電圧工学		2
	光通信工学		2		電気計測工学第 1		2
	プラズマ理工学		2		電気計測工学第 2		2
	画像認識論		2				
	グラフ理論		2				

制御工学第1		2			
制御工学第2		2			
システム工学		2			
法規及び管理		1			
電波法規		1			
電子情報工学設計製図		2			
電子情報工学実験第1	2				
電子情報工学実験第2	2				
電子情報工学実験第3	2				
電子情報工学実験第4	2				
電子情報工学研修第1	2				
電子情報工学研修第2	2				
卒業論文	10				
電子情報工学特論					
工業英語		2			
* 職業指導		4			

## 備考

- 1 電子情報工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 2 卒業に必要な修得単位数は、次の条件を満たし140単位以上であること。
  - (1) 教養科目、共通基礎科目  
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める選択科目30単位
  - (2) 専門科目  
専門基礎科目は必修科目8単位を含め16単位以上、専攻科目は必修科目24単位及び選択科目60単位以上合計100単位以上
  - (3) 次に定める科目の中から修得した単位を自由単位として10単位まで卒業に必要な修得単位数に含めることができる。
    - ① 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める自由科目
    - ② 他学科の専攻科目及び他学部の専攻科目（ただし、教職に関する授業科目は除く。）
- 3 \*職業指導の単位は、卒業に必要な修得単位数には含めない。



## 機械システム工学科

授業科目		単位数		授業科目	単位数	
		必修	選択		必修	選択
専攻基礎科目	微分積分1		2	専攻科目	内燃機関	2
	微分積分2		2		流体工学基礎及び演習	3
	線形代数1		2		流体力学第1	2
	線形代数2		2		流体力学第2	2
	微分方程式		2		流体機械	2
	電磁気学		2		機構学第1	2
	量子力学		2		機構学第2	2
	化学		2		機械力学第1及び演習	3
専攻科目	工業力学及び演習		3	機械力学第2	2	
	計算力学		2	制御理論第1及び演習	3	
	材料力学第1及び演習		3	制御理論第2	2	
	材料力学第2		2	制御要素第1	2	
	弾性力学		2	制御要素第2	2	
	構造力学		2	電子回路学	2	
	強度設計学第1		2	機械制御回路学	2	
	強度設計学第2		2	電気システム計測学	2	
	要素設計学		2	機械システム工学特論		
	要素設計学演習		2	工業英語	2	
	生産加工学第1		2	工業ドイツ語	2	
	生産加工学第2		2	機械入門ゼミナール	2	
	工作機械		2	機械システム工学輪読	2	
	精密加工学		2	機械システム工学設計製図第1	2	
	塑性力学及び演習		3	機械システム工学設計製図第2	2	
	塑性加工学		2	機械システム工学実習	2	
	機械材料学第1		2	機械システム工学実験	4	
	機械材料学第2		2	卒業論文	8	
	計測工学第1		2	* 卒業指導		4
	計測工学第2		2	注 A：3科目を選択必修とする。  B. C. D. E. F. G. H. J. K. L. M. N ：1科目を選択必修とする。  I：2科目を選択必修とする。		
	精密測定学第1		2			
	精密測定学第2		2			
	数理解析学第1		2			
	数理解析学第2		2			
	数理解析学第3		2			
	数理解析学演習		2			
	機械情報工学		2			
	ソフトウェア工学演習		2			
	工業熱力学第1及び演習		3			
	工業熱力学第2		2			
	伝熱工学		2			
	蒸気動力		2			

## 備考

- 1 機械システム工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 2 卒業に必要な修得単位数 140単位
  - (1) 専門科目  
専門基礎科目は選択科目A及びBの選択必修科目8単位、専攻科目は必修科目20単位及び選択科目C～Nの選択必修科目26単位以上を含め92単位以上 合計100単位以上
  - (2) 教養科目、共通基礎科目  
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める30単位
  - (3) 自由単位 10単位以内  
次に定める内から修得した10単位を限度として卒業に必要な修得単位数に含めることができる。
    - ① 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める自由科目として修得した単位
    - ② 専門基礎科目のうち卒業に必要な修得単位数を超えて修得した単位
    - ③ 他学科の専攻科目及び他学部専攻科目の内から修得した単位
 ただし、教職に関する授業科目の単位は除く。
- 3 \* 職業指導の単位は、卒業に必要な修得単位数には含まない。

## 物質工学科

授 業 科 目		単 位 数		授 業 科 目		単 位 数	
		必 修	選 択			必 修	選 択
専 門 基 礎 科 目	微分積分 1		2	専 攻 科 目	材料組織学		2
	微分積分 2		2		移動現象論第 1		2
	線形代数 1		2		移動現象論第 2		2
	線形代数 2		2		物質工学計算		2
	応用数学 1		2		エネルギー管理工学		2
	応用数学 2		2		材料製造シミュレーション		2
	応用数学 3		2		材料加工学		2
	物理学 1		2		構造材料工学		2
	物理学 2		2		複合材料工学		2
	化学 1		2		組織制御工学		2
	化学 2		2		材料物性学第 1		2
	生物学		2		材料物性学第 2		2
	地学		2		材料物性学演習		2
専 攻 科 目	材料製錬工学第 1		2	専 攻 科 目	低温物性学		2
	材料製錬工学第 2		2		物質工学基礎実験	4	
	金属化学第 1		2		物質化学工学実験	3	
	金属化学第 2		2		機能性材料工学実験	2	
	応用物理化学		2		材料設計工学実験	2	
	有機化学		4		材料物性工学実験	2	
	有機合成化学		2		機械実習		1
	高分子合成化学		2		物質工学輪読	4	
	有機化学演習 1		2		卒業論文	10	
	有機化学演習 2		2		情報処理		2
	無機化学第 1		2		プログラミング及び演習		3
	無機化学第 2		2		材料力学		3
	電気化学第 1		2		プラント設計工学		2
	電気化学第 2		2		物質工学特論		
	分析化学		2		電気工学概論		2
	無機材料工学		2		品質管理		2
	セラミックス材料工学		2		工業英語 1		2
	材料評価学		2		工業英語 2		2
	材料精製工学		2		工業ドイツ語 1		2
	物理化学		2		工業ドイツ語 2		2
	マイクロメリテイクス		2		工業ロシア語 1		2
	粉体物性工学		2		工業ロシア語 2		2
	粉体プロセス工学第 1		2		* 職業指導		4
	粉体プロセス工学第 2		2		注		
	結晶構造学		2		A : 1 科目を選択必修とする。		
	極限材料設計工学		2				
	電磁気材料工学		2				

## 備考

- 物質工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 卒業に必要な修得単位数 140単位
  - 専門科目
 

専門基礎科目16単位以上、必修科目20単位（または21単位）を含め専門科目は100単位以上
  - 教養科目、共通基礎科目
 

富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める30単位
  - 自由単位 10単位
 

次に定める内から修得した10単位を限度として卒業に必要な修得単位数に含めることができる。

    - 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める自由科目として修得した単位
    - 他学科の専攻科目及び他学部の専攻科目の内から修得した単位

ただし、教職に関する授業科目の単位は除く。
- \* 職業指導の単位は、卒業に必要な修得単位数には含めない。

## 化学生物工学科

授業科目		単位数		授業科目		単位数	
		必修	選択			必修	選択
専門基礎科目	微分積分1	2			機器分析化学演習		2
	微分積分2	2			高分子化学	2	
	線形代数	2			生化学第1	2	
	応用数学1	2			生化学第2	2	
	応用数学2		2		生化学第3	2	
	応用数学3		2		生化学第4		2
	物理学第1	2			生化学演習	1	
	物理学第2		2		無機化学	2	
	電磁気学	2			細胞分子生物学		2
	物理学実験		1		細胞工学		2
	化学第1	2			分子生物学	2	
	化学第2	2			遺伝子工学		2
	化学実験	1			分子遺伝学		2
	地学		2		生命物性工学		2
専門攻科目	化学生物工学概論	2			生命素子工学		2
	有機化学第1	2			生命情報工学		2
	有機化学第2	2			生命増殖工学		2
	有機化学第3	2			化学生物工学特論		
	有機化学第4		2		化学生物工学演習		2
	有機化学演習	1			化学生物工学実験第1	2	
	物理化学第1	2			化学生物工学実験第2	2	
	物理化学第2	2			化学生物工学実験第3	2	
	物理化学第3		2		化学生物工学実験第4	2	
	物理化学演習	1			化学生物工学輪読	2	
	物理有機化学		2		卒業論文	10	
	量子化学		2		情報工学概論		2
	基礎微生物学		2		プログラミング&演習		2
	資源化学		2		品質管理		2
	化学工学第1	2			電気工学概論		2
	化学工学第2	2			機械工学概論		2
	バイオリアクター		2		工業英語		2
	反応工学第1	2			工業ドイツ語		2
	反応工学第2		2		工業ロシア語		2
	分離操作設計		2		* 卒業指導	4	
	分離工学		2				
	移動速度論		2				
	プロセス計算第1		2				
	プロセス計算第2		2				
	分析化学	2					
	機器分析化学	2					

## 備考

- 1 化学生物工学特論の単位数は必要に応じて定める。
- 2 卒業に必要な修得単位数 140単位以上
  - (1) 専門科目  
専門基礎科目は必修を含め17単位以上、専攻科目は必修科目57単位及び選択科目26単位以上を含め83単位以上  
合計100単位以上
  - (2) 教養科目、共通基礎科目  
富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める30単位
  - (3) 自由単位 10単位以内  
次に定める内から修得した10単位を限度として卒業に必要な修得単位数に含めることができる。
    - ① 富山大学における教養科目及び共通基礎科目履修規則に定める自由科目として修得した単位
    - ② 他学科の専攻科目及び他学部の専攻科目の内から修得した単位
 ただし、教職に関する授業科目の単位は除く。
- 3 \*職業指導の単位は、卒業に必要な修得単位数には含めない。

## 富山大学補導協議会規則の一部改正

### 富山大学補導協議会規則の改正理由

- 1 富山大学補導協議会の名称を富山大学学生生活協議会に改正し、学生生活一般を審議する機関であることを明示するとともに、併せて規則の整備を行うため、所要事項を改める。
- 2 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学補導協議会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学補導協議会規則の一部を改正する規則

富山大学補導協議会規則（昭和 24 年 8 月 5 日制定）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

富山大学学生生活協議会規則

第 1 条中「富山大学補導協議会」を「富山大学学生生活協議会」に、「本会」を「協議会」に改める。

第 2 条中「本会」を「協議会」に、「各学部、教養部間の連絡を図る。」を「各学部間の連絡・調整を行う。」に改める。

第 3 条の見出しを「（組 織）」に改め、同条第 1 項本文中「本会」を「協議会」に、「委員」を「者」に改める。

同条同項第 2 号中「各学部及び教養部の補導委員会委

員」を「各学部の学生生活委員会委員」に、「各 2 名」を「各 2 人」に、「うち 1 名」を「うち 1 人」に改める。

第 4 条中「補欠の委員の任期」を「欠員が生じた場合の後任の委員の任期」に改める。

第 5 条第 1 項中「本会」を「協議会」に改める。

第 6 条第 1 項及び第 7 条中「本会」を「協議会」に改める。

第 8 条を次のように改める。

第 8 条 協議会は、必要があると認めたときは、部会を置くことができる。

第 9 条中「本会」を「協議会」に改める。

附 則

この規則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 富山大学学部補導委員会規則の一部改正

### 富山大学学部補導委員会規則の改正理由

- 1 富山大学学部補導委員会の名称を富山大学学部学生生活委員会に改正し、学生生活一般を審議する機関であることを明示するとともに、併せて規則の整備を行う。
- 2 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日 文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学学部補導委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学学部補導委員会規則の一部を改正する規則

富山大学学部補導委員会規則（昭和 24 年 8 月 5 日制定）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

富山大学学部学生生活委員会規則

第 1 条を次のように改める。

（設 置）

第1条 富山大学の各学部・に富山大学学部学生生活委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条中「本会」を「委員会」に、「学部学生」を「当該学部学生」に、「補導協議会」を「富山大学学生生活協議会」に改める。

第3条の見出しを「（組織）」に改め、同条第1項中「本会」を「委員会」に、「職員で組織する。」を「各号に掲げる者をもって組織する。」に改める。

同項第2号中「若干名」を「若干人」に改める。

第4条中「本会」を「委員会」に、「学部長がこれに当たり」を「学部長をもって充て」に改める。

第5条中「2ケ年」を「2年」に、「補欠の委員の任期は、前任者の任期の残余期間」を「欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間」に改

める。

第6条、第7条及び第8条中「本会」を「委員会」に改める。

第9条を次のように改める。

第9条 委員会の庶務は、当該学部において処理する。

#### 附 則

1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。

2 富山大学学部補導委員会規則の一部を改正する規則（昭和42年5月19日制定）の一部を次のように改正する。

附則第2項を削る。

附則第3項中「各学部又は教養部」を「各学部」に、「工学部」又は「教養部」を「又は「工学部」」に、「工学部長」又は「教養部長」を「又は「工学部長」」に改め、同項を附則第2項とする。

## 富山大学授業料等減免選考委員会規則の一部改正

### 富山大学授業料等減免選考委員会規則の改正理由

- 1 富山大学補導協議会の名称を富山大学学生生活協議会に名称変更したことに伴い、所要事項を改める。
- 2 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成5年3月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規則の整備を行うため、所要事項を改める。

富山大学授業料等減免選考委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成5年4月1日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学授業料等減免選考委員会規則の一部を改正する規則

富山大学授業料等減免選考委員会規則（昭和24年10月18日制定）の一部を次のように改正する。

第1条を次のように改める。

（設置）

第1条 富山大学に富山大学授業料等減免選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条中「本会」を「委員会」に、「学部長（教養部所属学生にあっては教養部長）」を「学部長」に改める。

第3条の見出しを「（組織）」に改め、同条中「本会は、次の職員で構成する。」を「委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。」に改め、同条第1号中「補導協議会委員」を「学生生活協議会委員」に改める。

第4条及び第5条を次のように改める。

（委員長）

第4条 委員会に委員長を置き、学生部長をもって充て

る。

第5条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を行う。

第6条に見出しとして「（議事）」を付する、同条第1項中「本会」を「委員会」に、「構成員」を「委員」に改め、同条第2項中「出席者」を「出席委員」に改め、「決する。可否同数であるときは、議長がこれを決する。」を「決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。」に改める。

第7条を削る。第8条に見出しとして「（庶務）」を付し、同条中「本会」を「委員会」に改め、同条を第7条とする。

#### 附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

## 富山大学学寮規則の一部改正

### 富山大学学寮規則の改正理由

富山大学学寮補導委員会を富山大学学寮委員会に名称変更し、学寮に関することを審議する機関であることを明示するとともに、併せて規則の整備を行うため、所要事項を改める。

富山大学学寮規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成5年4月1日

富山大学長 小黑 千足

### 富山大学学寮規則の一部を改正する規則

富山大学学寮規則（昭和40年7月30日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「寄宿寮」を「寄宿舎」に改める。

第5条の見出しを「(学寮委員会)」に改め、同条第1項及び第2項中「学寮補導委員会」を「学寮委員会」に改める。

第6条第3項中「，学寮補導委員会」を「，学寮委員会」に、「行なう」を「行う」に改める。

第10条第2項中「6カ月」を「，6月」に改める。

第12条中「いちじるしく」を「著しく」に改める。

第13条第1項及び第2項中「，大学」を「，本学」に改める。

### 附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

## 富山大学学寮補導委員会規則の一部改正

### 富山大学学寮補導委員会規則の改正理由

- 1 富山大学学寮規則を改正し、富山大学学寮補導委員会を富山大学学寮委員会に名称変更したことに伴い、所要事項を改める。
- 2 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成5年3月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規則の整備を行うため、所要事項を改める。

富山大学学寮補導委員会規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成5年4月1日

富山大学長 小黑 千足

### 富山大学学寮補導委員会規則の一部を改正する規則

富山大学学寮補導委員会規則（昭和37年4月27日制定）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

富山大学学寮委員会規則

第1条を次のように改める。

（趣 旨）

第1条 この規則は、富山大学学寮規則第5条第2項の規定に基づき、富山大学学寮委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を改める。

第2条中「本会は、学生部長の管理する寄宿寮の寮生の補導及び寮運営の適正を図るため」を「委員会は、寮生の補導及び寄宿舎（以下「学寮」という。）の運営の適正を図るため」に、「かかげる」を「掲げる」に改め、同条第4号及び第5号中「寮」を「学寮」に改める。

第3条の見出しを「(組 織)」に改め、同条第1項中「本会」を「委員会」に、「委員でこれを構成する。」を「各号に掲げる者をもって組織する。」に、同項第2号中「各学部および教養部」を「各学部」に改め、「各2名」を「各2人」に改める。

同条第2項を次のように改める。

2 前項第2号の委員は、当該学部長の推薦に基づき、

学長が命じる。

第 4 条を削る。

第 5 条中「, 2 カ年」を「, 2 年」に, 「, 第 3 条第 2 項に規定する補欠の委員」を「, 欠員が生じた場合の後任の委員」に, 「残余期間」を「残任期間」に改め, 同条を第 4 条とする。

第 6 条及び第 7 条を削る。

第 4 条の次に次の 2 条を加える。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き, 学生部長をもって充てる。

2 委員長は, 委員会を招集し, その議長となる。ただし, 委員長に事故あるときは, 委員長が, あらかじめ

指名した委員が, その職務を行う。

(議 事)

第 6 条 委員会は, 委員の半数以上の出席の出席により成立する。

2 議事は, 出席委員の過半数をもって決し, 可否同数のときは, 議長の決するところによる。

第 8 条に見出しとして「(庶 務)」を付し, 同条中「本会」を「委員会」とし, 同条を第 7 条とする。

第 9 条を削る。

附 則

この規則は, 平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 富山大学学生会館規則の一部改正

### 富山大学学生会館規則の改正理由

学生会館の円滑な管理, 運営を期するため, 所要事項を改める。

富山大学学生会館規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

平成 5 年 4 月 1 日

富山大学長 小黒 千足

### 富山大学学生会館規則の一部を改正する規則

富山大学学生会館規則(昭和40年 5 月31日制定)の一部を次のように改正する。

第 2 条中「, 館長, 主事及び館員」を「, 館長及び主事」に改める。

同条第 4 項を削る。

第 3 条第 2 項「, 館長を指揮監督し」を削る。

同条第 3 項を削る。

第 4 条を次のように改める。

(運 営)

第 4 条 会館の運営について, 館長が必要と認めた事項は, 富山大学学生生活協議会において審議する。

附 則

この規則は, 平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 富山大学学生守則の一部を改正する守則の一部改正

### 富山大学学生守則の一部を改正する守則の改正理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(平成 5 年 3 月31日文部省令第11号)が施行され, 教養部が廃止されたことに伴い, 所要事項を改める。

富山大学学生守則の一部を改正する守則の一部を改正する守則

富山大学学生守則の一部を改正する守則(昭和43年 4 月 1 日制定)の一部を次のように改正する。

附則第 2 項を削り, 附則第 1 項の項番号を削る。

附 則

この守則は, 平成 5 年 4 月 1 日から実施する。

## 富山大学学長選考実施細則の一部改正

### 富山大学学長選考実施細則の改正理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。

### 富山大学学長選考実施細則の一部を改正する細則

富山大学学長選考実施細則（昭和 62 年 6 月 26 日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条第 2 項及び第 3 条第 1 項中「，各学部，教養部」を「，各学部」に改める。

第 4 条第 2 項中「各学部，教養部」を「各学部」に改める。

### 附 則

この細則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 富山大学物品管理事務取扱細則の一部改正

### 富山大学物品管理事務取扱細則の改正理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。

### 富山大学物品管理事務取扱細則の一部を改正する細則

富山大学物品管理事務取扱細則（昭和 35 年 4 月 22 日制定）の一部を次のように改正する。

第 2 条「，学部，教養部」を「，学部」に改める。

別表第 3 の 1 中

教育学部 経済学部 教養部 附属図書館	事務長	部局長
------------------------------	-----	-----

を

教育学部 経済学部 附属図書館	事務長	部局長
-----------------------	-----	-----

に改める。

別表第 3 の 2 中

工学部 地域共同研究 センター	用度係長	経理係長
教養部	会計係長	庶務係長

を

工学部 地域共同研究 センター	用度係長	経理係長
-----------------------	------	------

に改める。

### 附 則

この細則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 富山大学教員（教授・助教授・講師）選考基準の一部改正

### 富山大学教員（教授・助教授・講師）選考基準の改正理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改めるとともに、字句の整備を行う。



富山大学教員（教授・助教授・講師）選考基準の一部を改正する基準

「4 名」を「4 人」に改める。

第 6 条中「学部長又は教養部長」を「学部長」に改める。

富山大学教員（教授・助教授・講師）選考基準（昭和 29 年 5 月 28 日制定）の一部を次のように改正する。

附 則

この基準は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

第 3 条中「，学部長又は教養部長」を「，学部長」に、

## 富山大学学生部長選考基準の一部改正

### 富山大学学生部長選考基準の改正理由

富山大学補導協議会の名称が、富山大学学生生活協議会に改正されたことに伴い、所要事項を改める。

### 富山大学学生部長選考基準の一部を改正する基準

会」に改め、同条第 2 項中「富山大学補導協議会」を「富山大学学生生活協議会」に改める。

富山大学学生部長選考基準（昭和 58 年 2 月 18 日制定）の一部を次のように改正する。

附 則

第 3 条第 1 項中「同補導協議会」を「同学生生活協議

この基準は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

## 富山大学事務分掌内規の一部改正

### 富山大学事務分掌内規の改正理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月 31 日文部省令第 11 号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 教養教育に係る業務を円滑に運営するため、庶務部企画室が設置されたことに伴い、所要事項を改める。
- 3 事務の効率化を図るため、人文学部・理学部及び工学部に専門職員が配置されたことに伴い、所要事項を改める。
- 4 科目等履修生について規定されたことに伴い、所要事項を改める。

### 富山大学事務分掌内規の一部を改正する内規

富山大学事務分掌内規（昭和 61 年 5 月 28 日制定）の一部を次のように改正する。

第 1 条中「，学部，教養部」を「，学部」に改める。

第 3 条の次に次の 1 条を加える。

（企画室）

第 3 条の 2 企画室に企画調査係、教養教育経理系、教養教育企画係及び教養教育実施係を置き、それぞれ次の事務を分掌する。

企画調査係

- (1) 企画室の所掌事務の連絡調整に係る事務に関する

(2) 全学の自己点検評価に係る事務に関すること。

(3) 自己点検評価委員会に係る事務に関すること。

(4) 大学における生涯教育の企画立案に係る事務に関する

(5) 地域社会との連携に係る事務に関すること。

(6) 大学教育の調査及び統計に係る事務に関すること。

(7) その他企画室の所掌で他の係に属しないこと。

教養教育経理係

(1) 教養教育の予算経理に係る事務に関すること。

(2) 教養教育に要する国有財産の維持管理に係る事務に関する

(3) 教養教育に要する物品管理（供用官事務）に係る事務に関する

- (4) 教養教育に要する施設の営繕に係る事務に関する  
こと。
- (5) 教養教育委員会及び同管理運営専門委員会に係る  
事務に関すること。
- (6) その他教養教育の管理運営に係る事務に関するこ  
と。

#### 教養教育企画係

- (1) 教養教育の企画立案に係る事務に関すること。
- (2) 教養教育の講義要録の取りまとめに係る事務に関  
すること。
- (3) 教養教育の主題、授業科目及び授業時間数に係る  
事務に関すること。
- (4) 教養教育の授業時間割表の作成に係る事務に関す  
ること。
- (5) 教養教育の教室の割当て整備に係る事務に関する  
こと。
- (6) 教養教育の教育効果見直しに係る事務に関するこ  
と。
- (7) 教養教育の授業担当教官（学外非常勤講師を含む。）  
の選定に係る事務に関すること。
- (8) 教養教育に関する各学部との連絡調整に係る事務  
に関すること。
- (9) 教養教育委員会企画専門委員会に係る事務に関す  
ること。
- (10) その他教養教育の企画立案に係る事務に関するこ  
と。

#### 教養教育実施係

- (1) 教養教育の履修に係る事務に関すること。（履修  
申告の取りまとめ、調整、名簿作成等）
- (2) 教養教育の履修案内の作成に係る事務に関するこ  
と。
- (3) 教養教育のガイダンスに係る事務に関すること。
- (4) 教養教育の休講及び補講に係る事務に関すること。
- (5) 教養教育の授業担当教官（学外非常勤講師を含む。）  
の連絡に係る事務に関すること。
- (6) 教養教育の成績評価（試験実施）に係る事務に関  
すること。
- (7) 教養教育の出欠調査に係る事務に関すること。
- (8) 教養教育の学外実習に係る事務に関すること。
- (9) 教養教育の科目等履修生及び聴講生等に係る事務  
に関すること。
- (10) 教養教育委員会実施専門委員会に係る事務に関す  
ること。
- (11) その他教養教育の実施に係る事務に関すること。

第8条の2 教務係の項第5号中「聴講生」を「科目等  
履修生、聴講生」に改める。

「第4章 学部、教養部及び附属図書館」を「第4章  
学部及び附属図書館」に改める。

第9条本文中「庶務係」を「専門職員、庶務係」に改  
め、同条庶務係の項の前に次の1項を加える。

#### 専門職員

- (1) 学生の修学指導及び進学指導に関すること。
- (2) 教育課程及び履修等に係る専門的な事項に関する  
こと。
- (3) 入学者の選抜に関すること。
- (4) 教育実習及び学外実習に関すること。
- (5) 学部の所掌事務の、上司の命を受けた事項に関す  
ること。

同条学務係の項第21号中「聴講生」を「科目等履修生、  
聴講生」に改める。

第11条教務係の項第15号中「聴講生」を「科目等履修  
生、聴講生」に改める。

第12条本文中「専門職員」を「専門職員（外国人留  
学生担当）、専門職員（研究協力担当）」に改める。

同条専門職員の項中「専門職員」を「専門職員（研究  
協力担当）」に改め、同項第6号を次のように改める。

- (6) 学部の所掌事務の、上司の命を受けた事項に関す  
ること。

同項の前に次の1項を加える。

#### 専門職員（外国人留学生担当）

- (1) 外国人留学生のオリエンテーションに関すること。
- (2) 外国人留学生の住居等に関すること。
- (3) 外国人留学生の出入国に関すること。
- (4) 外国人留学生の奨学に関すること。
- (5) 外国人留学生の指導教官、チューターの選出及び  
連絡調整に関すること。
- (6) 教育に係る渉外事項に関すること。
- (7) 学部の所掌事務の、上司の命を受けた事項に関す  
ること。

第4章第2節を次のように改める。

#### 第2節 削除

#### 第13条 削除

#### 附 則

この内規は、平成5年4月1日から実施する。

## 富山大学事務協議会規約の一部改正

### 富山大学事務協議会規約の改正理由

富山大学庶務部に企画室が設置されたことに伴い、所要事項を改める。

富山大学事務協議会規約の一部を改正する規約

条第 5 号中「課長補佐」を「課長補佐、室長補佐」に改める。

富山大学事務協議会規約（昭和29年 6 月30日制定）の一部を次のように改正する。

附 則

この規約は、平成 5 年 4 月 1 日から実施する。

第 3 条第 4 号中「課長」を「課長、室長」に改め、同

## 富山大学五福地区構内交通規制に関する実施細目の一部改正

### 富山大学五福地区構内交通規制に関する実施細目の改正理由

- 1 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、所要事項を改める。
- 2 字句の整備を行う。

### 富山大学五福地区構内交通規制に関する実施細目の一部を改正する細目

富山大学五福地区構内交通規制に関する実施細目（平成 2 年 3 月28日制定）の一部を次のように改正する。

第11条中第 1 項第 1 号中「各学部及び教養部」を「各学部」に、「各 2 名」を「各 2 人」に改め、同項第 2 号中「、各学部、教養部」を「、各学部」に、「各 2 名」を「各 2 人」に改める。

別表中

学 生	学務係。ただし、経済学部及び教養部にあっては学生係
-----	---------------------------

「

学 生	学務係。ただし、経済学部にあつては学生係
-----	----------------------

」に改める。

別紙様式第 1 号備考中

教 養 部	養
附属図書館	図

を

「

附属図書館	図
-------	---

」に改める。

別図(1)中「人文学部・教養部地区」を「人文学部地区」に、「理学部・教養部地区」を「理学部地区」に改める。

附 則

この細目は、平成 5 年 4 月 1 日から実施する。

## 富山大学教養部規則の廃止

### 富山大学教養部規則を廃止する規則の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、富山大学教養部規則を廃止するものである。

## 富山大学教養部教授会規則の廃止

### 富山大学教養部教授会規則を廃止する規則の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、富山大学教養部教授会規則を廃止するものである。

## 富山大学教養部学生の助言教官に関する規則の廃止

### 富山大学教養部学生の助言教官に関する規則を廃止する規則の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、富山大学教養部学生の助言教官に関する規則を廃止するものである。

## 富山大学教養部核燃料物質計量管理規則の廃止

### 富山大学教養部核燃料物質計量管理規則を廃止する規則の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、富山大学教養部核燃料物質計量管理規則を廃止するものである。

## 富山大学教養部長選考基準の廃止

### 富山大学教養部長選考基準を廃止する基準の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、廃止するものである。

## 富山大学教養部長候補者選挙細則の廃止

### 富山大学教養部長候補者選挙細則を廃止する細則の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、富山大学教養部長候補者選挙細則を廃止するものである。

## 富山大学教養部運営協議会規則の廃止

### 富山大学教養部運営協議会規則を廃止する規則の制定理由

国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（平成 5 年 3 月31日 文部省令第11号）が施行され、教養部が廃止されたことに伴い、廃止するものである。

## 富山大学学生会館運営委員会規則の廃止

富山大学学生会館運営委員会規則を廃止する規則の制定理由

富山大学学生会館規則第 4 条が改正されたため、廃止する。

## 富山大学学生会館運営学生委員会規則の廃止

富山大学学生会館運営学生委員会規程を廃止する規程の制定理由

富山大学学生会館運営委員会規則が廃止されたため、廃止する。

## 富山大学文化部会規則の廃止

富山大学文化部会規則を廃止する規則の制定理由

富山大学補導協議会規則の整備を図り、部会に係る規定を協議会文化部会内規として制定するため、廃止する。

## 富山大学体育部会規則の廃止

富山大学体育部会規則を廃止する規則の制定理由

富山大学補導協議会規則の整備を図り、部会に係る規定を協議会体育部内規として制定するため、廃止する。

## 海外渡航者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外 国 出 張	理 学 部	教 授	對馬 勝年	中 華 人 民 共 和 国	大陸性の吹雪に起因する雪害の共同研究	5. 3. 5 } 5. 3. 15
	工 学 部	助教授	高瀬 均	カ ナ ダ ア メ リ カ 合 衆 国	液中微粒子の分散制御に関する研究	5. 3. 18 } 6. 1. 17
	〃	教 授	塩澤 和章	連 合 王 国	第 1 回表面処理に関する国際会議に出席し、研究発表を行う。	5. 4. 17 } 5. 4. 28
	教育学部	助教授	吉田 雅巳	タ イ	国際協力事業団の地域高等教育振興のための専門家派遣事業のため	5. 4. 25 } 5. 5. 9

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海 外 研 修	人文学部	助教授	筒井 洋一	連 合 王 国	第二次世界大戦末期から戦争直後の英国外交に関する研究打合せ及び資料収集	5. 3. 18 } 5. 4. 4
	教育学部	〃	堀田 朋基	フィンランド	クロスカンTRIESキーのバイオメカニクス的研究を行う	5. 3. 20 } 5. 5. 2
	経済学部	〃	澤野 雅彦	アメリカ合衆国 連 合 王 国 スウェーデン、 フィンランド、 オランダ、ドイツ	欧米選出日本企業の企業内教育・訓練に関する資料収集	5. 3. 25 } 6. 3. 31
	人文学部	教 授	氣賀澤保規	中華人民共和国	中国江南地区遺跡・文物の調査及び碑刻関係史料の収集	5. 4. 5 } 5. 4. 17
	経済学部	〃	武井 勲	アメリカ合衆国	リムズ（RIMS: リスク、マネジメント保険管理協会）出席とアメリカにおけるリスク・マネジメント事情調査	5. 4. 20 } 5. 5. 8
	〃	〃	和合 肇	ス イ ス ド イ ツ オ ラ ン ダ	ベイズ計量経済学・統計学コンファレンスに出席し招待討論と論文発表を行う。また、研究者との研究打合せを行う。	5. 4. 26 } 5. 5. 7
	工 学 部	〃	坂井 純一	アメリカ合衆国	プラズマ宇宙論に関する第2回IEEE国際研究集会に出席し、研究発表を行う。	5. 5. 8 } 5. 5. 15

## 職 員 消 息

## 〈新任者住所〉

事 務 局

庶務部人事課

人 事 課 長 園 利 男

経理部主計課

主 計 課 長 番 匠 修

文 部 技 官 坂 本 江 見

(情報処理センター)

経 理 部

経 理 部 長 横 山 立 身

学 生 部

学 生 部 次 長 橋 口 博 芳

## 学生部学生課

文部事務官 木 下 晋  
(総務係)

文部事務官 大 門 聡  
(学生係)

## 学生部入試課

入試課長 亀 岡 崇 泰

## 教育学部附属学校

附属学校第一係長 武 田 知己郎

## 附属小学校

副 校 長 沖 田 昭 夫

教 諭 南 裕 子

## 附属中学校

教 諭 蟹 谷 茂 昭

教 諭 前 田 孝 夫

教 諭 亀 谷 寿 一

## 附属養護学校

教 諭 西 田 知 代

教 諭 野 崎 和 仁

## 経済学部

教 授 林 部 實  
(民法)

助 教 授 堂 谷 昌 孝  
(理論経済学)

助 教 授 長谷部 宏 一  
(経営学)

助 教 授 林 健 治  
(経営学)

助 教 授 澤 井 啓  
(企業関係法)

講 師 村 上 剣十郎  
(経営学)

庶務係長 酒 井 利 満

教務係長 宮 村 健 壮

会 計 主 任 大 田 國 彦

## 工学部

助 教 授 中 嶋 芳 雄  
(基礎情報工学)

助 教 授 田 島 正 登  
(知識情報工学)

助 手 駱 琴  
(基礎情報工学)

助 手 島 田 邦 雄  
(熱流体システム工学)

助 手 高 野 登  
(生産システム工学)

教 務 主 任 長 崎 悟

文部事務官 北 角 政 信  
(用 度 係)

附属図書館

事務補佐員 押 田 麻 里  
(閱 覧 係)

地域共同研究センター

事務補佐員 山 口 一 美

《住 所 変 更》

教 育 学 部

助 教 授 深 井 甚 三  
(歴 史 学)

附属小学校

教 諭 宮 崎 新 悟

経 済 学 部

助 教 授 小 倉 利 丸  
(理論経済学)

工 学 部

講 師 小 出 眞 路  
(計算機工学)

《改 姓》

工 学 部

庶 務 主 任 中 村 克 己 (旧姓 稲垣)



# 主 要 行 事

本	部
---	---

- 3月1日 第84回構内交通対策委員会  
第5回学園ニュース編集委員会  
北陸地区国立大学学生部次長協議会  
(於：富山大学)
- 1～2日 臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議  
(於：岐阜大学)
- 1～2日 積算要領(土木工事)等説明会  
(於：東京水産大学)
- 1～3日 北陸地区国立大学健康増進合宿セミナー  
2日 第8回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会  
給与実務担当者研修会(於：名古屋合同庁舎)
- 3日 北陸地区研修担当官会議(於：金沢広坂合同庁舎)
- 5日 部課長会議
- 6日 第17回評議会  
合格者発表(前期・A日程, 私費外国人留学生)
- 8日 第7回自己点検評価委員会教育活動専門委員会  
第24回新教育課程実施委員会作業部会
- 9日 第9回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会  
第11回補導協議会(臨時)
- 10日 部課長会議  
第1回放射性同位元素委員会
- 11日 第8回自己点検評価教育活動専門委員会
- 12日 第18回評議会  
第6回大学院委員会  
名古屋工事事務所管内国立学校等施設担当部課長連絡会議(於：名古屋大学)  
平成4年度学内囲碁大会
- 12～13日 入学手続(前期日程, 私費外国人留学生, 大学院経済学研究科)  
言語表現科目研修会
- 15日 教養部廃止に伴う組織・制度のあり方について

ての説明会

- 第9回自己点検評価委員会教育活動専門委員会  
入学試験(後期日程): 教育・経済・理学部  
16日 退職者を囲む懇談会  
第10回自己点検評価委員会研究活動等専門委員会  
第7回情報処理センター運営委員会  
17日 エイズ講演会  
18日 第19回評議会(臨時)  
第20回評議会(臨時)  
自己点検評価の具体策についての研修会  
19日 第11回事務協議会  
第5回国際交流委員会学術交流部会  
会計係長会議  
第12回補導協議会  
20日 合格発表(後期日程)  
24日 第10回自己点検評価委員会教育活動専門委員会  
第4回国際交流委員会  
教育改革に伴う学内ランについての研修会  
第2回留学生指導相談室運営委員会  
第25回新教育課程実施委員会作業部会  
25日 学位記等授与式  
第7回放射性同位元素総合実験室運営委員会  
放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会  
26日 第21回評議会  
26～27日 入学手続(後期・A日程, 大学院)  
29日 庶務係長会議  
30日 入寮選考委員会  
29～31日 入学手続(追加合格者)  
31日 金庫検査  
4月6日 部課長会議  
第1回事務協議会  
第1回学生生活協議会  
9日 入学式  
第1回自己点検評価委員会管理運営専門委員会

名古屋工事事務所管内国立学校等施設担当部  
課長連絡会議（於：名古屋大学）

- 9～12日 新入生オリエンテーション
- 12～15日 北陸地区国立学校等初任者研修（於：辰口研修センター）
- 13～14日 平成5年度国立学校等施設担当部課長連絡会議（於：東京医科歯科大学）
- 14日 第1回放射線同位元素総合実験室運営委員会  
外国人留学生（学部新入生）オリエンテーション  
日本育英会奨学生出願説明会（2年以上）
- 16日 第1回評議会  
文部省ヒアリング（一般設備、営繕関係）
- 19日 第2回自己点検評価委員会管理運営専門委員会  
第2，3回評議会（臨時）
- 20日 第1回新教育課程実施委員会
- 21日 部課長会議  
第1回放射線同位元素総合実験室放射線安全委員会  
第1回教養教育委員会管理運営専門委員会  
日本育英会奨学生出願説明会（1年1次）
- 22日 教室系技術職員待遇改善検討会  
第1回教養教育委員会実施専門委員会  
外国人留学生日本語課外補講のオリエンテーション
- 22～23日 東海・北陸地区経理系部課長会議（於：名古屋大学）
- 23日 第1回教養教育委員会企画専門委員会
- 27日 名古屋工事事務所管内国立学校等施設担当部  
課長会議（於：名古屋大学）  
第2回学生生活協議会  
第1回授業料等減免選考委員会
- 28日 第1回発明委員会  
施設整備実施計画ヒアリング（於：名古屋工事事務所）  
第1回留学生指導相談室運営委員会  
第1回国際交流委員会留学生部会  
留学生指導相談室開室式  
第1回職業補導担当者会議
- 29日 第4回評議会（臨時）

## 人 文 学 部

- 3月5日 教授会  
教授会（人事）
- 8日 学部教育改革準備委員会  
学部予算委員会  
学部補導委員会
- 10日 学部拡大教務委員会  
教授会  
人文科学研究科委員会
- 5日 平成4年度学内会計監査
- 9日 人文科学研究科教務等検討委員会
- 10日 教授会  
教授会（人事）
- 18日 教授会  
人文科学研究科委員会
- 4月1日 係長会議
- 5日 係長会議
- 6日 学部教務委員会
- 7日 教授会  
教授会（人事）
- 9日 大学院人文科学研究科新入生オリエンテーション
- 12日 前学期授業開始  
学部新入生オリエンテーション
- 14日 新入生健康診断
- 19日 係長会議
- 21日 学部教育実習委員会  
教授会
- 22日 係長会議
- 23日 人文学部，理学部，教養部及び水素同位体機能研究センター防火対策委員会
- 26日 学部学生生活委員会
- 27日 係長会議

## 教 育 学 部

- 3月1～8日 スキーⅠ，Ⅱ実習（於：志賀高原スキー場）
- 5日 学部教務・補導合同委員会  
教授会  
学部予算委員会
- 10日 学部教務・補導合同委員会  
学部教務委員会

教授会  
人事教授会  
11日 教育学部附属学校初任者研修実施協議会  
12日 附属養護学校卒業式  
15日 附属幼稚園修了式  
16日 附属小学校卒業式  
17日 附属中学校卒業式  
18日 学部教務・補導合同委員会  
教授会  
人事教授会  
附属幼稚園修業式  
19日 附属中学校修業式  
22日 附属小学校修業式  
23日 教職科目専門委員会  
学部将来計画委員会  
附属養護学校修業式  
24日 大学院設置準備委員会  
4月5日 学部予算委員会  
附属小学校第1学期始業式  
6日 附属小学校入学式  
附属中学校第1学期始業式  
7日 学部教務委員会  
学部教務・補導合同委員会  
人事教授会  
教授会  
附属中学校入学式  
附属養護学校第1学期始業式  
8日 附属養護学校入学式  
附属幼稚園第1学期始業式  
12日 新入生オリエンテーション  
附属幼稚園入園式  
14日 学部教務委員会  
19日 学部職業補導委員会  
学部自己点検評価委員会  
20日 入学者選抜方法検討委員会  
学部紀要編集委員会  
21日 教授会  
人事教授会  
健康診断  
27日 学部学生生活委員会  
28日 学部予算委員会  
学部職業補導委員会  
健康診断  
30日 学部自己点検評価委員会

経 済 学 部
---------

3月1日 学部留学生委員会（持ち回り）  
3日 平成5年度私費外国人留学生入学試験選考委員会  
4日 学部入学方法検討委員会  
係長会議  
5日 教授会  
10日 学部教務委員会  
人事教授会  
教授会  
大学院経済学研究科委員会  
11日 学部将来構想検討委員会  
学部教務・補導合同委員会  
学部施設整備委員会（持ち回り）  
17日 学部入学方法検討委員会  
18日 教授会  
29日 大学院経済学研究科委員会小委員会（持ち回り）  
31日 係長会議  
4月5日 学部教務委員会  
学部施設整備委員会  
7日 教授会  
大学院経済学研究科委員会  
8日 学部職業補導委員会  
9日 学部学生生活委員会  
夜間主コース新入生オリエンテーション  
夜間主コース専門教育課程オリエンテーション  
12日 前学期授業開始  
昼間主コース新入生オリエンテーション  
14日 新入生健康診断  
学部入学方法検討委員会  
大学院経済学研究科委員会小委員会  
就職に関する説明会  
19日 各種委員選考委員会  
21日 学部教務委員会  
教授会  
大学院経済学研究科委員会小委員会  
23日 学部学生生活委員会  
大学院経済学研究科オリエンテーション  
26日 係長会議  
28日 就職に関する講演会

(講師 北陸経済研究所専務理事 小川 弘氏)

## 理 学 部

- 3月3日 学科主任会議  
学部自己点検評価委員会
- 5日 教授会  
人事教授会
- 9日 学部教務委員会  
学部補導委員会
- 10日 教授会  
理学研究科委員会  
人事教授会
- 11日 学部案内編纂委員会
- 12日 学部自己点検評価委員会小委員会
- 18日 教授会  
人事教授会
- 24日 学部自己点検評価委員会小委員会
- 4月6日 学科主任会議  
学部自己点検評価委員会小委員会
- 7日 教授会  
理学研究科委員会  
人事教授会  
理学研究科委員会専任教授会
- 8日 学部教務委員会  
大学院設置構想推進委員会  
学部将来計画委員会  
学部施設委員会
- 12日 前学期授業開始  
学部新入生オリエンテーション
- 14日 新入生健康診断  
学部自己点検評価委員会小委員会
- 16日 学部入試改善委員会
- 20日 理学部案内編纂委員会
- 21日 学部職業補導委員会  
学部自己点検評価委員会  
学部2年次生オリエンテーション
- 22日 学部図書委員会
- 28日 学科主任会議
- 30日 学部教務委員会

## 工 学 部

- 3月4日 学部合格者数検討委員会

## 学部運営委員会

- 5日 教授会
- 8日 係長連絡会
- 10日 教授会  
工学研究科委員会
- 15日 後期日程入学試験  
学部教務委員会  
学部施設整備委員会  
博士課程設置準備委員会
- 16日 学部運営委員会
- 17日 学部合格者数検討委員会
- 18日 教授会
- 19日 係長連絡会
- 4月1日 係長連絡会
- 7日 学部教務委員会  
教授会  
工学研究科委員会  
専任教授会
- 8日 学部2年生オリエンテーション
- 9日 係長連絡会
- 12日 学部新入生オリエンテーション  
授業開始
- 26日 学部教務委員会
- 27日 学部入学試験検討委員会
- 28日 教授会  
工学研究科委員会  
専任教授会
- 30日 博士課程設置準備委員会

## 教 養 部

- 3月2日 人事教授会  
教授会
- 15日 自己点検評価委員会  
人事教授会  
教授会
- 25日 補導委員会
- 26日 人事教授会  
教授会  
教養部解散パーティー
- 31日 補導委員会

附属図書館

- 3月16日 係長連絡会  
 19日 富山県図書館協議会大学・短大・高専部会  
 23日 第4回図書館業務専用電子計算機仕様策定委員会  
 24日 第3回自己点検評価委員会  
 29日 第5回図書館業務専用電子計算機仕様策定委員会  
 30日 係長連絡会  
 4月12日 係長連絡会  
 13日 係長連絡会  
 21日 係長連絡会  
 22～23日 第44回北信越地区国立大学図書館協議会（於：新潟厚生年金会館）  
 27日 第1回附属図書館商議会

水素同位体機能研究センター

- 3月16日 平成4年度第3回水素同位体機能研究センター自己点検評価委員会  
 平成4年度第8回水素同位体機能研究センター運営委員会  
 18日 R・I 特別健康診断  
 4月20日 平成4年度第1回水素同位体機能研究センター専門委員会  
 平成4年度第1回水素同位体機能研究センター専門委員会  
 22日 R・I 教育訓練  
 27日 R・I 特別健康診断

地域共同研究センター

- 3月3日 企業見学と産学交流会（於：三協アルミニウム工業㈱）  
 4日 長岡技術科学大学関係者視察  
 京都工芸繊維大学関係者視察  
 東京農工大学関係者視察  
 9日 岐阜大学関係者視察  
 文部省関係者視察  
 11日 企業見学と産学交流会（於：㈱リッチェル）  
 文部省関係者視察  
 12日 地域共同研究センター運営委員会

- 17日 静岡大学関係者視察  
 18日 東京工業大学関係者視察  
 熊本大学関係者視察

- 19日 講演会  
 静岡大学関係者視察

- 23日 岡山大学関係者視察

- 4月8日 地域共同研究センター運営委員会

- 19日 企業見学と産学交流会（於：北陸電力㈱技術研究所）

- 28日 地域共同研究センター運営委員会

保健管理センター

- 4月14日 定期健康診断（新入生 人文・経済・理学部）  
 21日 定期健康診断（新入生 教育・工学部）  
 28日 定期健康診断（在学生 教育学部）

編 集	富山大学庶務部庶務課 富山市五福3190
印刷所	あけぼの企画株式会社 富山市住吉町1丁目5-18 電話(24)1755(代)